



# 地質調查所報告



第四十三號

昭和十七年十二月七日

地質調査所報告第四十三號

大正二年十二月

目次

朝鮮ニ於ケル石炭

一頁

滿洲ニ於ケル石炭

六七頁

支那ニ於ケル石炭

一七一頁

朝鮮ニ於ケル石炭

朝鮮ニ於ケル石炭

目次

緒言	一頁
第一章 總論	三頁
一 石炭ノ分布	三頁
二 石炭ノ産出額及消費額	五頁
三 炭質	七頁
四 炭量	一二頁
五 結章	一七頁
第二章 炭田特論	一七頁
一 古生代ニ於ケル炭田	一七頁
咸鏡南道龍塘里炭田	一八頁

平安南道价川炭田	二〇頁
未調査炭田	二二頁
二 中生代ニ於ケル炭田	二二頁
平安南道安州炭田	二二頁
平安南道平壤炭田	二六頁
北部區域	三五頁
南部區域	三六頁
東部區域	三八頁
西部區域	四四頁
黃海道三街浦炭田	四五頁
黃海道砂利院炭田	四六頁
京畿道通津附近ノ炭田	四八頁
其他ノ炭田	四九頁

三	第三紀ニ於ケル炭田	五〇頁
	咸鏡・北道鏡城炭田	五〇頁
	慶尙北道長髻延日炭田	五五頁
	其他ノ炭田	六一頁

# 朝鮮ニ於ケル石炭

農商務技師 井上禧之助

## 緒言

朝鮮ノ鑛業ハ往昔ヨリ發達シタルモノナルカ如ク其日本ヨリ以前ニ開發セラレタルコトハ蓋シ疑ヲ容レズ、然レトモ現時朝鮮人稼行ノ鑛山ニシテ最新ノ計畫ニ據リ若クハ規模ノ大ナルモノ一モ之アルコトナシ

朝鮮ノ鑛業及鑛產物ニ關シテハ知ルヘキノ材料甚タ少ナク唯僅ニ本邦並ニ歐米ノ地質學者又ハ鑛山技師ノ報告ニ依リ之ヲ知ルヲ得ルノミ、而モ是等ノ報告ハ時ニ之ヲ得ルニ困難ナルモノ少ナカラス、幸ニ日露戰爭ノ際朝鮮ヲ五區域ニ區別シ其豫察地質調査ヲ施行シタルヲ以テ略鑛物分布ノ状態ヲ知ルコトヲ得タリ、爾後巨智部博士朝鮮政府ニ

聘セラレ朝鮮ノ本邦ニ併合セラル、ニ至リ川崎繁太郎氏赴任シ、田村英太郎氏ハ兩氏ヲ補助シ主要ナル鑛產地ノ地質調査ニ從事シタリ本編ハ川崎氏ヨリ特ニ報告セラレタル材料ニ基ツケルモノニシテ深ク同氏ノ好意ヲ謝ス、而シテ本編ノ基ツケル川崎、田村兩氏ノ報文既ニ刊行セラレタル今日ニ於テ本編ハ之ヲ省略スルノ優レルニ如カスト雖モ本邦并ニ隣國ニ於ケル石炭ヲ記述スルニ當リ之ヲ統一スルヲ便ナリト思惟シタルヲ以テ茲ニ之ヲ記述シタリ

朝鮮ニ於ケル重要ナル鑛產物ハ金、銅、鐵、石炭及石墨ナリトス、其產出額ニ於テハ金ヲ第一トシ其他ノ鑛物ハ遙ニ是ヨリ劣レリ、石炭ノ年產出額ハ僅ニ十三萬噸ヲ超過スルノミニシテ其量多シト云フヘカラス、現時石炭ノ主ナル產地ナル平壤炭田ヲ除ケハ一年ノ產出額二千噸ニ達スルモノナク小規模ニ姑息ノ方法ニ依リ多クハ朝鮮人ニ依リ稼行セラル、實ニ此等數多ノ小炭坑ハ農閑農民ノ稼行ニ係ルモノ多ク操業少シク困難ナレハ直ニ廢棄シ少シク良好ナレハ再興スル等盛衰一ナラ

スシテ其數并ニ產出額ヲ知ルニ難シ、蓋シ是等炭坑ニ於ケル石炭ハ品質劣等ニシテ加フルニ炭層ノ幅薄ク若クハ厚薄常ナラスシテ大規模ニ稼行スルコト困難ナリ

## 第一章 總論

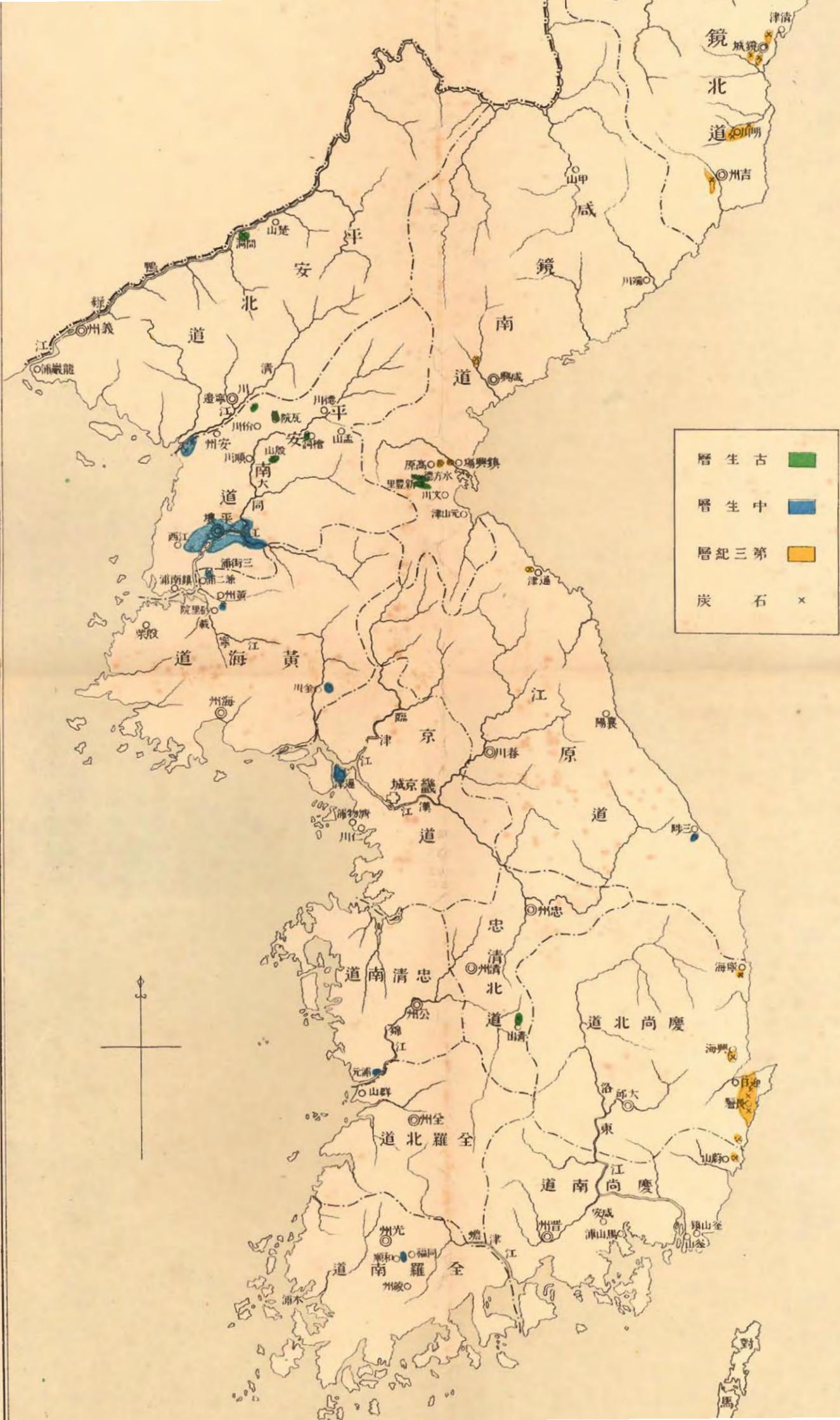
### 一 石炭ノ分布

石炭ハ古生層、中生層并ニ第三紀層ニ埋藏セラル、就中中生代石炭ハ最も重要ニシテ現時朝鮮ヨリ產出スル石炭ハ殆ント之ニ屬ス、石炭ヲ埋藏スル古生層ハ小區域ニ散在シ未タ調査セラレサルモノアリ、而シテ既知ノ炭田ハ重要ナラスシテ將來ニ於テモ多量ノ產出ハ之ヲ得ルコト難カルヘシ、第三紀層ハ主ニ日本海沿岸ニ古期岩層ノ小盆地上ニ成層シ數多ノ炭層ヲ埋藏スルモ品質劣等ニ主ニ家事用トシテ、小規模ニ採掘セララル、ノミ

古生層ハ朝鮮ニ於テ二大區域ヲ占メ此外小地域ニ散在ス、所謂朝鮮層（地質要報明治四十年第一號參照）ハ支那層ニ對シ命名シタル地層ニシ

テ主ニ下部ハ硅岩、粘板岩、砂岩、上部ハ石灰岩及泥灰岩ヨリ成ル、石炭ヲ埋藏スル古生層ハ之ヲ滿洲ニ於ケルモノ一比較スルニ上部石炭紀ニ屬スルモノ、如ク不整合ニ朝鮮層ヲ被覆ス、本層ハ粘板岩及砂岩ヨリ成リ花崗岩之ヲ貫キテ噴出シ國內處々ニ散在スレトモ其區域皆狹小ナリ、是レ蓋シ成層後浸蝕作用ニ依リ除去セラレタルニ因ルナラン石炭ヲ埋藏スル中生層ハ平安道ニ於テ稍大ナル地域ヲ占メ此外小區域ニ處々ニ散在ス、本層ハ基盤片麻岩又ハ古生代石灰岩ヲ不整合ニ被覆シ頁岩及砂岩ヨリ成ル、本層中ニ埋藏セラル、植物化石ニ依リ其珠羅紀層ニ屬スルモノナルヲ知ル、花崗岩、玢岩等ノ火成岩之ヲ貫通ス、近時徳永博士ハ平壤炭田ノ含炭層ヲ其埋藏セル化石ニ依リ上部石炭紀若クハ二疊紀ニ屬ストナセルモ其層位等ニ就テ尙研究セサルヘカラサルモノアルヲ以テ茲ニハ從來ノ所說ニ從ヒ之ヲ中生層ニ編入セリ

第三紀層ハ主ニ咸鏡道、慶尙道ノ海岸ニアリテ片麻岩、花崗岩、古生層及中生層等古岩層ノ小盆地上ニ成層シ頁岩、砂岩、蠻岩及凝灰岩ヨリ成リ



- |     |   |
|-----|---|
| 古生層 | ■ |
| 中生層 | ■ |
| 第三紀 | ■ |
| 石炭  | x |

安山岩及玄武岩ニ依リ貫通セラレ時ニ玄武岩ニ依リ被覆セラル、化石ハ凝灰岩及頁岩中ニ甚タ多ク殊ニ慶尙道ニ於テ多量ニ産出スレトモ調査未タ完カラスシテ其時代ヲ知ルヲ得ス、蓋シ第三紀新層ニ屬スルモノ、如シ

## 二 石炭ノ産出額及消費額

朝鮮ニ於ケル石炭鑛業ハ現時稍開發ノ機運ニ向フト雖モ其産出額ハ尙甚タ僅少ナリト云ハサルヘラス、明治四十年前ニ於テハ石炭ノ産出額ハ甚タ少額ニシテ言フニ足ラス、同年以降炭田ノ本邦人ノ稼行ニ歸スルモノ漸ク多ク、平壤炭田ノ如キハ政府ニ於テ稍大規模ノ採掘ヲ企テ爾來産出額ハ次第ニ増加セリト雖モ唯僅ニ十二萬噸ヲ超過スルニ止マレリ、明治四十四年ニ於ケル石炭ノ産出額ハ次ノ如シ

炭田	産出額	炭田	産出額
平壤	一二七、二二四噸	城	六〇〇噸

安	州	一、九三七	長	馨	六五四
咸	興	一、五〇〇	總	計	一三一、九〇五

其他ノ炭田ニ於ケル産出額ハ甚々僅少ニシテ同年ニ於ケル産額ハ十三萬五千噸ヲ超過セサルヘシ  
 石炭ノ大部分ハ日本ニ輸出シ德山煉炭製造所ニ於テ煉炭ニ製造ス、而シテ輸入ハ遙ニ之ニ超過セリ、之ヲ表示スレハ次ノ如シ

年 別	輸 出			輸 入		
	日 本	支 那	計	日 本	支 那	計
明治四十年	二、〇四二噸	二、〇四二噸	二、〇四二噸	一〇四、七六一噸	五〇噸	一〇四、八一噸
同 四十一年	一、二五三噸	五、七三四噸	六、九八七	一八七、三〇二	一七七	一八七、四七九
同 四十二年	四〇、九八六	三、九七六	四四、九六二	八三、六六七	四〇、二六二	一二三、九二九
同 四十三年	六九、六一五	三、一四八	七二、七六四	七二、九四七	五七、四二〇	一三〇、三六七
同 四十四年	八四、二九四	二、五九〇	八六、八八五	二二三、〇一七	一二、三九四	二三五、四一一

平壤炭田ノ石炭ハ無煙炭又ハ半無煙炭ニ屬シ容易ニ粉碎シ多クハ煉炭ニ製造ス、輸入石炭ノ大部分ハ有煙炭ニシテ主ニ鐵道、汽船ニ使用ス

是ニ由テ之ヲ觀ルニ朝鮮ニ於ケル石炭ノ消費額ハ二十五萬噸ヲ超過セスシテ其面積並ニ人口ニ比シテ甚タ少額ナリト云フヘシ、是レ朝鮮ニ於ケル工業尙未ダ幼稚ニシテ現時ニ於テ多量ノ石炭ヲ要セサルニ由ル、然レトモ今ヤ交通機關次第ニ完備シ工業亦次第ニ其面目ヲ改メ若クハ發達スルニ至ルヘク近キ將來ニ於テ石炭消費額大ニ増加スヘキヲ信スルノ理由アリ

### 三 炭 質

石炭ヲ炭質ニヨリ分類スルコトハ甚タ困難ナリ、亞米利加合衆國地質調査所ニ於テハ特ニ同國石炭ノ分類法ヲ定メタルモ石炭ハ其產出地ニヨリ炭質大ニ異ニシテ必スシモ其分類法ヲ適用スルコト能ハサルコトアルカ如シ、第十二回萬國地質學會議ニ於テ規定セル分類法ハ次

ノ如シ

第一類一 燃ユル時青色ノ短焰ヲ發シ百分中三乃至五ノ可燃揮發物ヲ含有シ燃料比十二以上、發熱量八千乃至八千三百三十「カロリー」或ハ一萬四千五百乃至一萬五千英國熱單位、炭素百分中九十三乃至九十五、水素二乃至四、酸素及窒素三乃至五ノ範圍内ニアルモノ

第一類二 燃ユル時光輝及煤煙少ナキ短焰ヲ發シ百分中七乃至十二ノ揮發物ヲ含有シ不粘結性ニシテ燃料比七乃至十二、發熱量概シテ八千三百三十乃至八千六百「カロリー」或ハ一萬五千乃至一萬五千五百英國熱單位、炭素百分中九十乃至九十三、水素四乃至四、五、酸素及窒素三乃至五、五ノ範圍内ニアルモノ

第二類一 燃ユル時光輝ニ富メル短焰ヲ發シ百分中十二乃至十五ノ揮發物ヲ含有シ稍不粘結性ニシテ燃料比四乃至七、發熱量概シテ八千三百乃至八千九百「カロリー」或ハ一萬五千乃至一萬六千英國熱單位、炭素百分中八十乃至九十、水素四、五乃至五、酸素及窒素五、五乃至十二ノ範

圍内ニアルモノ

第二類二 燃ユル時光輝ニ富メル焰ヲ發シ百分中十二乃至二十六ノ揮發物ヲ含有シ概シテ粘結性ニシテ燃料比一、二乃至七、發熱量七千七百乃至八千八百「カロリー」或ハ一萬四千乃至一萬六千英國熱單位、炭素百分中七十五乃至九十、水素四、五乃至五、五、酸素及窒素六乃至十五ノ範圍内ニアルモノ

第二類三 長焰ヲ發シ容易ニ燃エ質脆弱ナルモ風化ニ耐フ、時トシテハ百分中六ニ達スル水分ヲ含有シ揮發物三十五以内ニシテ氣孔ニ富メル柔軟ナル骸炭トナリ、水分及半量ノ揮發物ニ對スル固定炭素及半量ノ揮發物ノ比二、五乃至三、三、發熱量六千六百乃至七千八百「カロリー」或ハ一萬二千乃至一萬四千英國熱單位、炭素百分中七十乃至八十、水素四、五乃至六、酸素及窒素十八乃至二十ノ範圍内ニアルモノ

第三類 燃ユル時煤煙ニ富メル長焰ヲ發シ乾餾スル時百分中三十乃至四十ノ揮發物及甚タ氣孔ニ富メル骸炭トナリ斷口概シテ樹脂狀ニ

シテ發熱量六千六百乃至八千八百「カロリー」或ハ一萬二千乃至一萬六千英國熱單位ノ範圍内ニアルモノ

第四類ニ屬スルモノハ概シテ百分中六以上ノ水分ヲ含有シ乾燥スル時破碎シ條痕褐色或ハ黃色、劈開不明ナリ、之ヲ二種ニ區別ス

一 採掘シテ時日ヲ經サルモノハ百分中二十以上ノ水分ヲ含有シ斷口概シテ介殼狀ナリ、乾燥龜裂ハ不規則ナル曲線ヲナシ概シテ輝黑色時ニ褐色ニシテ水分及半量ノ揮發物ニ對スル固定炭素及半量ノ揮發物ノ比一、八乃至二、五、發熱量五千五百乃至七千二百「カロリー」或ハ一萬乃至一萬三千英國熱單位、炭素百分中六十乃至七十五、水素六乃至六、五、酸素及窒素二十乃至三十ノ範圍内ニアルモノ

二 百分中二十以上ノ水分ヲ含有シ斷口概シテ土狀且ツ鈍色ヲ呈シ乾燥龜裂ハ概シテ層面ニ沿ヒ構造往々木質ヲ呈シ概シテ褐色時ニ黑色ニシテ發熱量四千乃至六千「カロリー」或ハ七千二百乃至一萬一千英國熱單位、炭素百分中四十五乃至六十五、水素六乃至六、八、酸素及窒素三

十乃至四十五ノ範圍内ニアルモノ  
以上分類中第一類一ハ無煙炭ニ、第一類二ハ半無煙炭ニ、第二類ハ半有  
煙炭ニ、第三類ハ有煙炭ニ、第四類一ハ亞有煙炭ニ、第四類二ハ褐炭ニ屬  
ス、然レトモ相互ノ限界ハ常ニ判然タラサルノミナラス半有煙炭、亞有  
煙炭ヲ區別セサルコト多ク朝鮮ニ於テモ亦之ヲ區別セス、隨テ前記分  
類ト炭質ノ記載ト時ニ一致セサルモノアリ  
第十二回萬國地質學會議ニ規定セル分類ハ分析ノ完全ナラサルト炭  
質ノ歐米ニ於ケルモノト特種ナルカ爲メ之ヲ朝鮮ニ適用スルコト困  
難ナルモ統一上務メテ之ニ據レリ  
石炭ニ四種アリ、無煙炭、半無煙炭、有煙炭及褐炭是ナリ、古生層ニ埋藏セ  
ラル、石炭ハ皆無煙炭ニ屬シ其一部ハ花崗岩ノ接觸變質作用ヲ受ケ  
テ石墨ニ變化セルモノアリ、中生層ニ於ケル石炭ハ無煙炭、半無煙炭及  
有煙炭ニシテ就中無煙炭及半無煙炭ヲ最モ重要ナリトス、第三紀層ニ  
アルモノハ品位劣等ナル褐炭ニ屬シ朝鮮人ハ之ヲ家事用燃料ニ代用

シ若クハ製鹽釜ニ供用ス

#### 四 炭 量

炭量ノ概算ニ關シテハ幾多ノ困難アリ、本官ハ曩ニ鐵鑛量概算(地質調査所報告第二十四號參照)ニ際シ第一實測ニ基ケル鑛量、第二概測ニ基ケル鑛量ニ區別シタリ、炭量概算ニ際シテモ亦之ヲ適用シ第三豫想ニ基ケル炭量ヲ加ヘタリ、第一及第二ニ屬スル炭量ハ數字ヲ以テ之ヲ示シ第三ニ屬スル炭量ハ單ニ大、中、小等ニヨリ其量ヲ豫想スルニ止メタリ、而シテ第一ニ屬スル炭量ヲ第一種炭量、第二ニ屬スルモノヲ第二種炭量、第三ニ屬スルモノヲ第三種炭量トシテ之ヲ區別ス概算スヘキ石炭ヲ二トス、第一ハ現時ノ狀態ニ於テ經濟上稼行シ得ヘキ厚サヲ有スルト共ニ稼行シ得ヘキ深サニ賦存スルモノ、第二ハ現時ノ狀態ニ於テ稼行シ得ヘキ厚サヲ有スルモ地下深キニアリテ稼行ニ堪ヘス、蓋シ或ハ將來採掘セラルヘキモノナリ、第十二回萬國地質學會議ニ於テ一般ニ規定シタル所ニ據レハ第一ニ屬スルモノハ厚サ一尺

以上ニシテ地下四千尺以上ニアル炭層ヲ云ヒ海底下ニ於ケルモノヲ包括ス、第二ニ屬スルモノハ厚サ二尺以上ニシテ地下四千尺乃至六千尺ノ間ニアル炭層ヲ包括ス

以上ノ規定ハ調査不完全ナル朝鮮ノ石炭ニ之ヲ適用スルコト困難ナレトモ統一上此方針ニ基ツキ概算センコトニ務メタルモ第二ニ屬スルモノハ全ク之ヲ計算セス、實ニ朝鮮ノ地質調査ハ前述ノ如ク未タ甚タ不完全ニシテ隨テ各炭田ノ包藏スル炭量ヲ計算スルニ難キモ主要ナル炭田ハ特ニ調査セラレ炭量モ亦稍正確ニ之ヲ計算シ得ヘキモノアリ、後節記述スル如ク朝鮮ニ於ケル炭層ノ厚サハ概シテ三尺ヲ超エス、其厚層ヲナセルモノト雖モ短距離ニ於テ縮迫スルノ傾向アリ、故ニ炭量ヲ計算スルニ當リ後節ニ於テ記述スルカ如ク安全ヲ計リ深サ五百尺以上ヲ第一種炭量トシ更ニ千尺迄ヲ第二種炭量トナセリ、而シテ特種ノ場合ニハ特ニ計算ノ方法ヲ示セリ、斯クシテ概算シタル炭量ハ次ノ如シ

第一種炭量

炭田	厚	サ	面積	積	炭質	炭量
平壤		四 <sup>尺</sup> —二〇 <sup>尺</sup>		二、〇五 <sup>平方米</sup>	第一類	八、六〇〇、〇〇〇 <sup>噸</sup>
南部區域		八—二〇		〇、五〇	全全	二、五〇〇、〇〇〇
東部區域		五—二〇		一、五五	全全	六、一〇〇、〇〇〇
古方山		一〇—二〇		〇、七〇	全全	四、〇〇〇、〇〇〇
鳳凰洞		四—五		〇、〇五	全全	一〇〇、〇〇〇
南江		六		〇、八〇	全全	二、〇〇〇、〇〇〇
鏡城		四—八		〇、三三	第四類二	六〇〇、〇〇〇
羅南		八		〇、〇三	全	一〇〇、〇〇〇
生氣嶺		四		〇、三〇	全	五〇〇、〇〇〇
長壽		一—五		〇、二五	第四類一	一、七〇〇、〇〇〇

第二種炭量

計				三、二八		一三、六〇〇、〇〇〇
延日			二二	〇、二五全		一、四〇〇、〇〇〇
			七	〇、四〇全		一、三〇〇、〇〇〇

炭田	厚	サ	面	積	炭質	炭量	第三種炭量
安州		二尺 一五尺		平方基 二、一	第三類	九、四五〇、〇〇〇	中
新里		一五		一、五	全	九、〇〇〇、〇〇〇	
龍淵里		三		〇、六	全	四五〇、〇〇〇	
平壤		四一 二〇		二、五	第二類	三五、九〇〇、〇〇〇	大
南部區域		四一 二〇		〇、五	全	二、五〇〇、〇〇〇	
古方山		一〇 二〇		〇、八	全	五、〇〇〇、〇〇〇	
鳳凰洞		四一 五		〇、二	第一類	四〇〇、〇〇〇	

計	其他ノ炭田	延日	長壽		生氣嶺	羅南	慶尙	西部區域	南江	古飛里
		二二	七	一五	四	八	四一八	五一六	六	七
二二、二		一、〇	一、五	〇、八	三、〇	〇、三	三、三	四、五	五、五	一、〇
		全	全	第四類一	全	全	第四類二		第一類	全
六七、八五〇、〇〇〇		五、五〇〇、〇〇〇	五、五〇〇、〇〇〇	五、五〇〇、〇〇〇	五、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	六、〇〇〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇、〇〇〇	一五、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇
大	中		中				中			

## 五 結 章

朝鮮ニ於ケル鑛産額ハ金ヲ除ケハ未タ甚タ僅少ニシテ其總産出額大ナルニアラス、石炭鑛業ニ關シテハ唯平壤炭田ノミ稍重要ニシテ操業ノ規模稍大ナリ、調査不完全ナル今日朝鮮ニ於ケル石炭ノ將來將ニ發達セントスル鑛工業及交通機關ノ燃料ニ充當スルニ足ルヘキヤ否ヤハ容易ニ之ヲ斷言スルニ難シト雖モ多量ノ石炭ヲ供給スヘキ大炭田ノ新ニ國內ニ發見セラル、ニ至ルヘキヤ疑ナキ能ハサルナナリ、現時ニ於ケル石炭ノ大ナル消費者ハ鐵道及汽船ニシテ家事用並ニ工業ニ使用セラル、モノハ其量僅少ナリ、實ニ朝鮮ハ現今ト同シク將來ニ於テ少ナクトモ數年若クハ數十年間ハ石炭ノ輸入者タルヘク而モ現時ノ産出額ハ次第ニ増加スルニ至ルヘシ

### 第一章 炭田特論

#### 一 古生代ニ於ケル炭田

中生層ニ埋藏セラル、石炭ハ數箇所ニ之ヲ見ルモ調査セラレタルハ

二區域ニ過キス、石炭ハ無煙炭ニ屬ス

### 咸鏡南道龍塘里炭田

龍塘里ハ元山、咸興間ノ街道上ニアリテ高原ノ南約十二基米ニ位ス、此地方ニ廣域ヲ占ムル古生層ハ別テ上、中、下ノ三部トナス、下部層ハ黑雲母片岩、黑雲母粘板岩及千枚岩ヨリ成リ時ニ珪岩ヲ挾ミ中部層ハ主ニ石灰岩ニシテ粘板岩ヲ挾メリ、上部層ハ即チ夾炭層ニシテ主ニ黑色ノ粘板岩ヨリ成リ砂岩及泥灰岩ヲ挾有シ中部層ヲ整合ニ被覆シ兩層ノ間ニハ常ニ薄層ノ泥灰岩アリ、下部層ハ厚サ三千三百尺、中部層ハ一萬尺乃至一萬一千六百尺ニ達スルモ夾炭層ノ大部分ハ既ニ浸蝕除去セラレテ現時ハ唯小區域ニ殘存スルノミ、花崗岩ハ古生層ヲ貫キテ噴出シ古生代岩石ハ爲ニ接觸變質作用ヲ受ケ石炭モ亦爲ニ石墨ニ變スルコト多シ、永興郡黑石嶺ニ於テ稼行セラル、土狀ノ石墨ハ即チ然リトス

龍塘里ヨリ其西約二基米、水方徳ニ互リ石灰岩ノ向斜盆地上ニ西北西

ニ走レル含炭層ハ延長約六基米、幅約一基米アリ、龍塘里附近ノ石炭ハ  
花崗岩ノ噴出ノ爲ニ石墨ニ變シ且ツ甚シク擾亂セリ、水方徳ニ於テハ  
炭層ハ北方四十度ニ傾斜シ厚サ最厚七尺ナレトモ東方三四十尺ニシ  
テ五寸ニ縮迫シ西方ニハ表土ニ被ハレテ其跡ヲ失ス、夾炭層ハ石灰岩  
ト同シク一ノ向斜層ヲナシ北部ニハ南方ニ、南部ニハ北方ニ傾斜スレ  
トモ北部ニハ未タ石炭ノ露頭ヲ發見セス  
水方徳ノ南約四基米ニアル山嶽洞ニハ夾炭層亦西北西ニ走リ延長約  
八基米、幅約一基米アリ、石炭ハ谿谷ノ處々ニ露出スルモ變動多クシテ  
膨縮常ナラス、數個處ノ試掘跡ハ既ニ崩壞埋沒シテ炭層ヲ檢スルコト  
能ハサレトモ厚サ五尺乃至二十尺ノ三炭層アリト云フ  
水方徳ノ北約四基米ニアル松峴里ニ於テハ夾炭層ハ東西ニ走レトモ  
未タ石炭ノ露頭ヲ發見セス  
石炭ハ光澤強キ無煙炭ニシテ容易ニ粉炭ニ破碎シ塊炭ヲ得ルコト難  
ク質平壤炭ニ類ス、分析ノ結果次ノ如シ

水	揮發物	固定炭素	灰	種類
九、二四	七、六七	七八、二五	四、八四	第一類二

### 平安南道价川炭田

价川炭田ハ价川ノ東北東約十基米ニアリテ瓦院、龍峯里ノ二村ニ跨レリ、价川附近ハ古生層ヨリ成リ龍塘里ニ於ケルカ如ク上、中、下ノ三部ニ區別スルヲ得ヘク下部層ハ主ニ雲母片岩、千枚岩及珪岩ヨリ成リ薄層ノ石灰岩ヲ挾ミ中部層ハ主ニ石灰岩ヨリ成リ粘板岩ヲ介有ス、上部層ハ即チ夾炭層ニシテ主ニ砂岩、粘板岩ヨリ成リ時ニ石灰岩ヲ挾メリ、砂岩ハ一般ニ上部ニ厚ク粘板岩ハ下部ニ發達シ炭層ヲ埋藏ス、花崗岩ハ古生層ヲ貫キテ噴出シ古生層岩石ハ爲ニ接觸變質作用ヲ受ク瓦院ハ炭田ノ西端ニアリ、其附近ニハ數多ノ炭層ノ露頭アリテ厚サ數寸ヨリ十尺以上ニ膨大ス、層向ハ約西北西ナリ、瓦院ノ北東約二基米ニアル龍峯里ニ於テハ炭層ハ粘板岩ノ上部ニ介在シ約東西ニ走リ一ノ

背斜層ヲナス、傾斜ノ角度ハ四十度乃至五十度ナリトス  
 价川ノ北即チ清川江ニ沿ヘル北院附近ニ露出セルモノハ花崗岩ノ爲  
 ニ石墨ニ變質シ二三箇處ニ於テ採掘セララル  
 石炭ハ良好ノ無煙炭ナルモ質甚タ脆シ、分析ノ結果次ノ如シ

水	揮發物	固定炭素	灰	硫	黃	種	類
五、二一	五、八九	八三、五三	五、三七	〇、二五	—	—	—

### 未調査炭田

石炭ハ次ノ數箇處ニ於テ發見セラレタリト云フ

平安北道楚山郡      平安南道順川郡

平安南道孟山郡      江原道旌善郡

江原道三涉郡      忠清北道青山郡

青山郡ニ於ケル石炭分析ノ結果次ノ如シ

產地	水	揮發物	固定炭素	灰	種類
滿月里	一、九五	四、三七	六五、八三	二七、八五	第一類一
長沙里	一一、四一	三、三六	六一、九八	二三、二五	

二 中生代ニ於ケル石炭

中生層ニ埋藏セラル、石炭ハ最モ重要ニシテ炭質ハ主ニ無煙炭又ハ半無煙炭ニ屬シ唯安州炭田ニ産スルモノ獨リ有煙炭ニ屬スルノミ

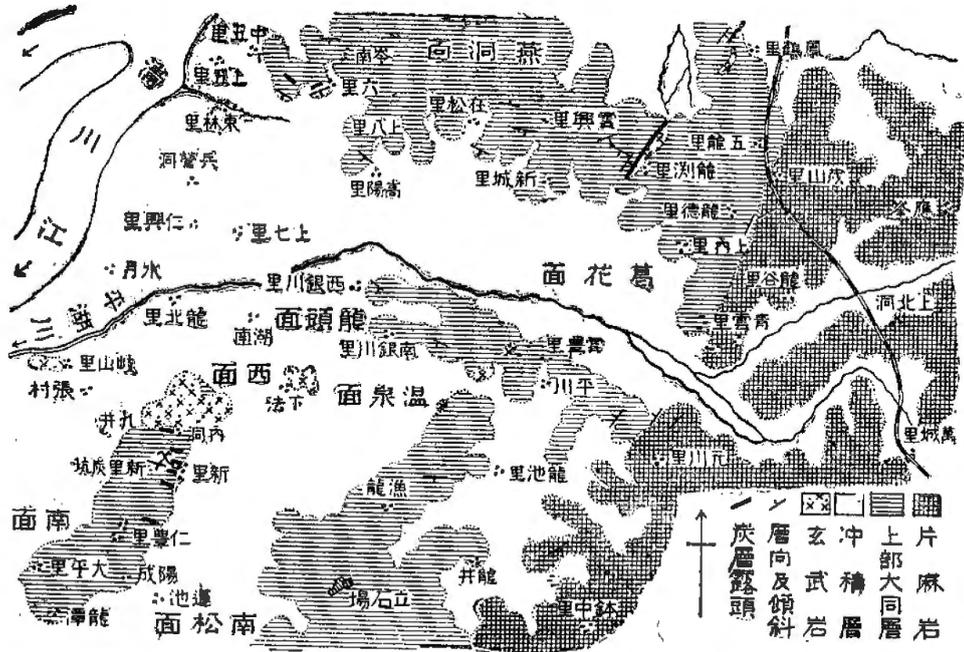
平安南道安州炭田

安州炭田ハ新安州及萬城間鐵道線路ノ西ニアリテ萬城停車場ヨリ容易ニ達スルヲ得ヘク交通便ナリ、本炭田ハ南北ニ長ク延長約十二基米東西約八基米ノ面積ヲ占メ明治四十四年ニ開發セラレタリ、高サ平均十五米乃至二十米、最高八十米ニ充タサル數多ノ小丘清川江及鐵道間ノ平野中ニ處々ニ起伏シ平湖川中部ヲ東方ヨリ西方ニ流下ス、含炭中生層ハ東方ヲ限レル片麻岩ヲ不整合ニ被覆シ下部ハ主ニ蠻岩ヨリ成

第 一 圖

安 州 炭 田

縮尺五十分之一

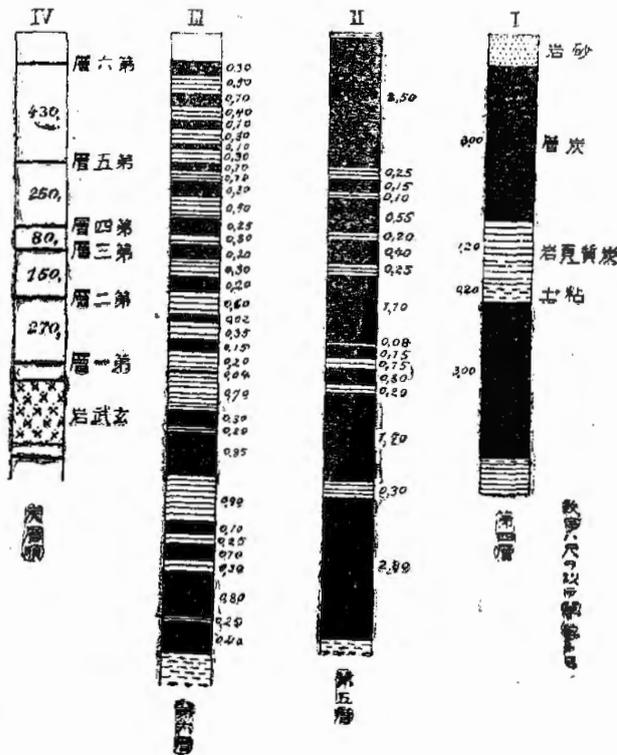


リ頁岩、砂岩ト互層シ上部ハ主ニ頁岩  
 ニシテ砂岩ト互層シ石炭ヲ埋藏ス、炭  
 田ハ低卑ナル丘陵及平地ヨリ成レル  
 ヲ以テ岩石ノ好露出ナク各炭層ノ層  
 位上ノ關係ヲ知ルニ難シ、層向ハ概シ  
 テ約東西ニシテ南方ニ傾斜ス、傾斜角  
 ハ北方ニハ二十度乃至三十度、南方ニ  
 ハ十五度ヲ普通トス、然レトモ一斷層  
 雲豐里、龍淵里ヲ通シ略南北ニ走レル  
 カ如シ、其東部ニ於テハ層向ハ約南北  
 又ハ北東ニシテ片麻岩ノ境界ニ近ク  
 西方ニ傾斜シ斷層附近ニハ東ヲ示シ  
 其間一向斜層ノ存スルアルカ如シ、玄  
 武岩ハ鳳鶴里及龍淵里間ヲ通スル斷



圖 二 第

圖面斷狀柱層炭里新田炭州安



西南部新里ニ於ケル小丘ハ砂岩、頁岩ヨリ成リ北八十度西ニ走リ南方

十度乃至二十度ニ傾斜シ北方ニハ玄武岩之ヲ貫通シテ噴出ス、六炭層アリ、最下層ハ玄武岩ニ近ク砂岩中ニ介在ス、厚サハ上部ヨリ十二尺、十二尺、七尺、二尺、三尺及三四尺ナリトス(第二圖)、而シテ第一層ハ數多ノ夾ミヲ有シ第二層ハ粘土ヲ含ミ稼行シ得ヘキ石炭層ノ厚サハ七

龍淵里

一八、一一	一七、一八	一五、四三	一四、六四
三二、八一	三六、三三	三七、五八	三八、四八
三九、三五	四〇、二三	三八、七一	三八、九七
九、七三	六、二六	八、二八	六、九二
〇、二三	〇、一九	〇、一八	一、四六
—	一、三三	一、三三	—
五、〇六〇	六、三八〇	六、一六〇	五、九四〇
九、一〇八	一一、四八四	一一、〇八八	一〇、六九二
第三類	全	全	全

尺ナリ、第三層ハ現ニ稼行セラル、モノナリ、其稼行シ得ヘキ六炭層ノ  
 總厚ハ十五尺ヲ下ラサルヘシ

### 平安南道平壤炭田

位置及沿革 平壤炭田ハ平壤ヲ中心トシテ其東西ニ連亙シ延長約六  
 十基米、幅約二十基米ノ面積ヲ占ムル地域ナリトス、本炭田開發ノ年代  
 ハ明ナラサレトモ最近二十五年間朝鮮人ニ依リ小規模ニ稼行セラレ  
 近時寺洞及古方山ニ於テ佛蘭西人ノ經營ニ係レルモノアリシモ明治  
 三十九年朝鮮政府ノ有ニ歸シ後朝鮮總督府ノ所管トナリ現時寺洞及  
 古方山ニ於テ採掘ス、明治四十年以後ノ產出額ハ次ノ如シ

年 別	產 出 額	年 別	產 出 額
明 治 四 十 年	二、一五〇 <small>噸</small>	明 治 四 十 三 年	七九、七三八 <small>噸</small>
同 四 十 一 年	四六、四八四	同 四 十 四 年	一二七、二一四
同 四 十 二 年	五三、四九三		

地質 基盤ハ片麻岩ニシテ炭田ノ北西部ヲ限リ古生層ハ其他ノ部分ヲ圍繞ス、是等岩層ハ亦小區域ニ炭田ノ處々ニ露出ス、含炭層ハ以上岩層上ニアリテ上下ノ二部ニ區別ス、下部層ハ砂岩、頁岩ヨリ成リ蠻岩時ニ薄キ石灰岩ヲ挾ミ無煙炭ハ本層ニ埋藏セラル、植物化石ニ依リ本層ノ珠羅紀ニ屬スルヲ知レリ、上部層ハ頁岩、砂岩、蠻岩ヨリ成リ概ネ凝灰質ナリ、本層ハ褐炭ヲ挾メルモ薄層ニシテ重要ナラス、其層位ハ未タ明ナラスシテ不整合ニ下部層ヲ被覆ス、石英斑岩及玢岩ハ含炭層ヲ貫通シテ噴出シ花崗岩ハ僅ニ小區域ニ露出ス、炭田ハ便宜上北部、南部、東部及西部ノ四區域ニ區別ス

炭質 石炭ハ黑色ノ無煙炭又ハ半無煙炭ニ屬シ粘結セス、質脆弱ニシテ容易ニ粉炭ニ破碎ス、分析ノ結果次ノ如シ

南部區域

水	揮發物	固定炭素	灰	硫	黃	比	重	發	熱	量	種	類
七〇.三	一一〇.五	六七.九	四.六	—	—	—	—	—	—	—	—	第二類二
								カロリ	英國熱單位			

二、八八	一一、二九	八一、〇四	四、七九	〇、六四				第一類二
二、〇〇	一五、二〇	七八、一〇	四、七〇	〇、七〇				第二類一
一六、九〇		八一、三〇	一、八〇	〇、五五				全
二三、六八	二九、六四	三五、八四	一〇、八四					全
一〇、四七	二〇、二六	五八、三七	一〇、九〇					第二類二
一五、一〇		八〇、八〇	四、一〇	〇、六五				第二類一
一六、一〇		七七、六〇	六、三〇	〇、四七				第二類二
三、六三	一〇、五三	八二、五〇	三、三四					全
二、八九	七、五六	八三、一六	六、三九					全
一〇、四〇		八一、一〇	八、五〇	一、二〇				第一類一
一五、五一	二四、七〇	四七、五八	一二、二一					第二類二
四、四七	一四、八九	七〇、八四	九、八〇					第二類一

四、六一	五、四九	六、四五	一、二三	一、七三	五、八一	六、〇八	八、九七	九、八〇	二一、八二	一、七五	一一、〇〇
一三、四四	一六、二四	一五、〇八	八、四三	八、二九	一三、八八	一四、七八	一九、七九	二二、七九	二三、七七	四、一五	八一、五〇
七五、五六	七二、二二	七四、七七	八五、四三	八四、一二	七一、五九	七〇、六〇	六六、五五	六四、二二	六一、一四	八五、九七	八、一三
六、三九	六、一五	〇、三七	四、九一	五、八六	八、八二	八、五四	四、六九	四、一九	四、二七	七、五〇	〇、八五
		三、七〇	二、二八							〇、四五	
		一、四七									
			六、四九〇								
			二、六八二								
第二類一	第二類二	第二類一	全	第一類二	全	第二類一	全	全	第二類二	第一類一	全

東部區域古方山區

一六、三〇	二八、三七	三五、〇三	二〇、三〇	—	—	—	—	—	—	全
二二、一二	二六、六三	三〇、八九	二〇、三六	—	—	—	—	—	—	全
一一、五〇	一八、四四	六四、〇四	六、〇三	—	—	—	—	—	—	第二類二
二二、二〇	八、二五	七二、二六	一七、二九	—	—	—	—	—	—	全
四、八九	七、九二	七五、八三	一一、三六	—	—	—	—	—	—	第一類二
四、一五	三、六八	七九、五八	一一、五九	—	—	—	—	—	—	全
五、七〇	—	七九、〇〇	一五、三〇	〇、四六	—	—	—	—	—	第一類一
三、七〇	八、一〇	七六、六〇	一一、六〇	〇、七〇	—	—	—	—	—	第一類二
三、二五	五、五二	六二、六六	二八、五八	〇、三四	一、九七六	—	—	—	—	第一類一
一、八三	一〇、〇五	八三、七七	四、三五	〇、五六	一、四三二	—	—	—	—	全
—	一〇、〇〇	八六、二〇	三、八〇	〇、七七	—	—	—	—	—	第一類二

七、九六	一四、二三	一五、〇一	一〇、六二	一三、五一	一七、七三	一二、七七	一八、二七	一五、四五	二一、〇六	一九、三三	一九、七八
一七、三五	一八、二四	二三、三三	二〇、五〇	二五、一四	二四、四八	二五、〇五	二五、七一	二八、八七	二六、六九	二六、九〇	二七、〇六
五八、六六	五五、六〇	五三、二五	四三、四五	五二、六三	四四、三九	四四、七〇	三九、五三	四三、九一	三六、四五	三五、〇三	三四、二〇
一六、〇三	一一、九五	八、四二	二五、四三	八、七二	一三、四〇	一七、五〇	一六、四九	一一、七五	一五、八〇	一八、七五	一八、九六
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全

一七、五二	二〇、七〇	五三、四二	八、三七	全
一七、三三	二三、二四	三六、一〇	二三、三三	全
二〇、一六	二四、五七	三二、六五	二二、六二	第二類二
二、六三	六、五七	八〇、六一	一〇、七九	全
二、六七	七、九四	七八、六七	一〇、七二	全
一、三二	七、四〇	八六、八〇	四、五八	全
三、二四	七、六〇	七八、四二	一〇、七四	全
三、二二	八、三九	八三、六五	四、七五	全
三、八二	九、〇〇	八二、七七	四、四一	全
三、五六	九、四八	八〇、三六	六、六〇	第一類二
三、四二	一〇、二五	六四、〇二	二三、三一	全
四、六四	一二、九〇	七七、六六	四、八〇	第二類一

鳳 凰 洞 區

二、五五	二、五五	六四、一九	三〇、七一	〇、三七					第一類一
一一、八〇		八四、三〇	三、九〇	〇、八五					全
一、六〇	一〇、五〇	七九、七〇	八、二〇	〇、九〇					全
三、三五	六、七九	八四、二二	五、六四	〇、四二	一、四六五				全
二、二〇	七、五五	八二、七七	七、四八						全
一、九〇	七、七四	八〇、六四	九、七二						全
一、四一	八、五五	八一、七八	八、二六						第一類二
八、三二	二四、九三	五六、五八	一〇、一八						第二類二
三、九七	七、三一	七二、〇五	一六、六九						第一類二
二、九九	二〇、八六	五二、二二	一三、九四						全
一四、五九	二二、八二	五六、一三	五、四六						全

古飛里區

三、一五	三、八九	七九、六九	一三、二七	—	—	—	—	—	全
三、四五	四、二六	八六、二〇	六、〇九	—	—	—	—	—	全
二、五七	三、六〇	七七、七四	一六、〇九	—	—	—	—	—	全
三、六七	三、七一	八三、五一	九、一一	—	—	—	—	—	全

南江沿岸區

二、七七	三、三三	八〇、三三	一三、六〇	—	—	—	—	—	第一類一
四、五七	二、八八	七七、四四	五、一一	〇、七四	—	—	—	—	第一類二
一、四、四五	二、四、七〇	五三、四六	七、三九	〇、一八	一、五〇五	—	—	—	第二類二
一、八一	、廿九六	七七、八二	二、四二	—	—	—	—	—	第一類二
三、五七	五、八〇	六九、二〇	二、四三	〇、二八	—	—	—	—	第一類一
五、四〇	三三、七〇	五三、三〇	八、六〇	—	—	—	—	—	全

二、一八	四、六一	八九、九七	三、三三	二、〇三	—	七、一五〇	一三、八七〇	全
五、五三	四、六八	六二、四三	二七、三六	—	—	—	—	全
二、二九	四、三一	八九、一八	四、二三	—	—	—	—	第一類一
一六、九〇	—	八一、三〇	一、八〇	〇、五五	—	—	—	全
四、九八	七、五五	七八、一〇	九、三七	〇、三二	一、五六三	—	—	全
五、六五	八、八二	七七、四六	八、〇七	〇、二七	一、五九八	—	—	第一類二

### 北部區域

北部區域ニハ石炭ハ坎北山及西浦附近ニ露出シ嘗テ坎北院附近ニ稼行セラレタルモ重要ナラス

坎北院ハ平壤ノ北約六基米ニアリ、坎北山脈ハ高サ約百二十米ニシテ略東西ニ走り延長約四基米アリ、地質ハ頁岩及砂岩ニシテ蠻岩及泥灰岩ヲ挾ミ概ネ東北東ニ走り北々西三十度乃至四十度ニ傾斜スルモ山

脈ノ南麓ニハ地層甚シク擾亂シ斷層多シ

石炭ハ坎北院ノ北西坎北山ノ南麓ニ露出シ北八十度東ニ走リ北々西四十度ニ傾斜ス、厚サ二寸乃至六尺ニシテ一般ニ西方ニ縮迫ス、此外坎北山ノ南麓ニ處々ニ石炭ノ露頭アリ

坎北院ノ北約四基米、京義鐵道ニ沿ヘル西浦ノ北約二基米ニ露出スル炭層ハ西方三十度内外ニ傾斜スルモ一般ニ母岩ト共ニ變動甚シク一定ノ厚サヲ知ルコト難シ

石炭ハ地層擾亂ノ爲メ甚シク粉碎セラレ塊炭ヲ得ルコト難ク無煙炭ニ屬ス

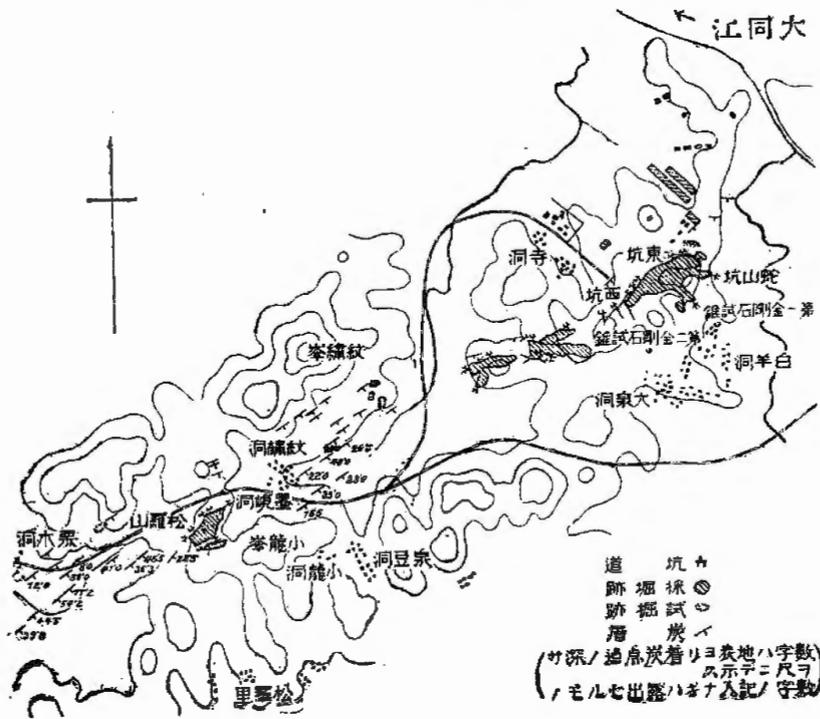
### 南部區域

南部區域ハ大同江ノ南ニアリテ平壤ノ南東ニ位シ延長十三基米ナルモ幅ハ僅ニ三分ノ二基米ナリ、現時寺洞附近ニ於テ稼行シ西浦及霧露山ノ採炭ハ中止中ナリ、地ハ概シテ高サ六十米ニ充タサル低卑ナル丘陵山脈ニシテ東北東ヨリ西南西ニ走レリ、含炭層ハ東西ノ兩端ニ於テ

第三圖

平壤礦業所附近炭層分布圖

縮尺四分之二



石炭ノ露頭甚タ多ク炭層數多アルヘキモ其相互ノ關係ハ未タ明ナラ  
ス、試錐並ニ露頭調査ノ結果ニヨリ寺洞ニ於テハ七層ノ炭層存在セル

沖積層下ニ沒スルモ尙地下ニ  
於テ連續シ寺洞ノ南東約二基  
米、美林洞ニ於テ試錐セルニ五  
十尺乃至八十尺ノ深サニ於テ  
頁岩、砂岩ノ互層中ニ厚サ二尺  
乃至五尺ノ炭層ヲ檢セリ、層向  
ハ一般ニ北六十度乃至七十度  
東ニシテ寺洞附近ニハ稍東西  
ニ近ク傾斜ハ南々東ヲ普通ト  
ス、傾斜角ハ南東部ニ急ニシテ  
六十度乃至七十度、東方ニハ四  
十度乃至五十度ナリ

カ如ク現ニ稼行セラル、モノハ第三、第四及第五ノ三層ナリトス、寺洞ヨリ石炭ハ西方紋繡峯ニ連リ其延長三基米ニ達スト稱セラル、厚サハ區々ニシテ時ニ六十尺ニ膨大シ時ニ數寸ニ縮迫スルモ總厚十五尺乃至二十尺ナルヘシ、中三洞ハ紋繡峯ト斷層ニ依リテ隔テラル、茲ニハ約四尺ノ三炭層アリテ南西西浦ニ至リ沖積平野ニ没ス、其延長約四千尺ナリト云フ、石炭ハ嘗テ稼行セラレタルモ現時操業休止中ナリ、平壤ノ南ニ聳ユル霧露山ニ於テハ西浦ノ連續ト思惟スヘキ炭層アリテ嘗テ稼行セラレタリ、本層ハ更ニ南西ニ延ヒ延長二千尺ニ達シ鐵道ノ切割ニ露出ス、二炭層アリテ厚サ各三尺ナリ

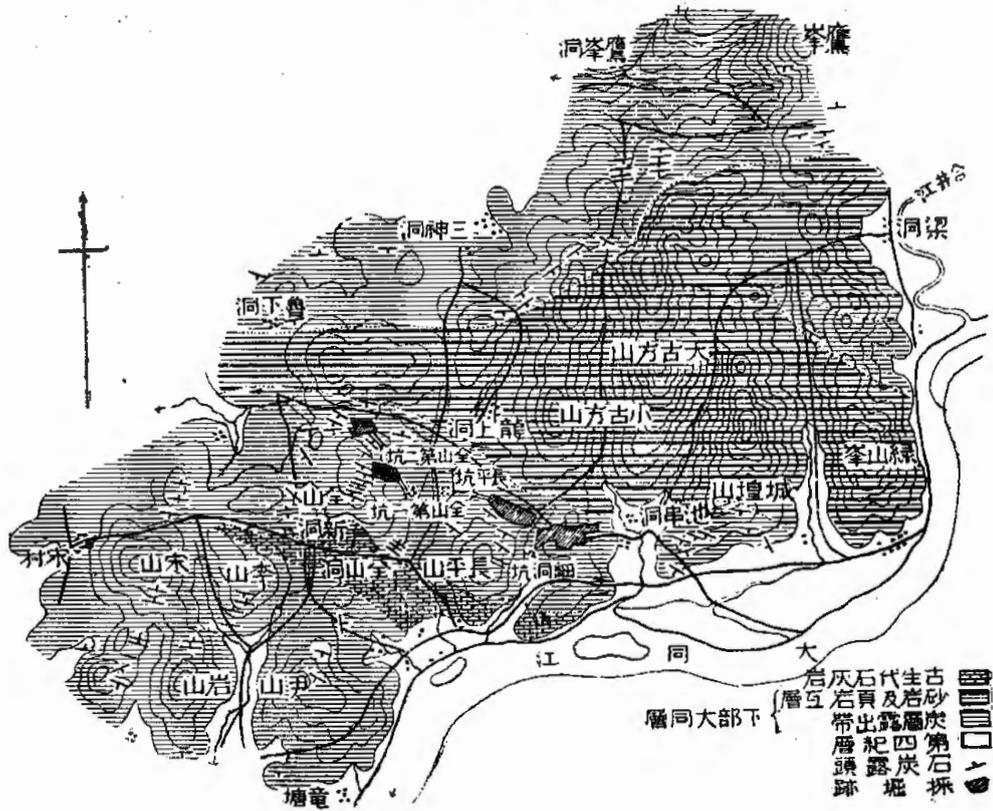
前述ノ如ク炭層ノ厚サ甚タ區々ニシテ加フルニ基盤ヲナセル石灰岩ハ下部ニ現ハル、コト多ク故ニ炭量ノ概算ニハ安全ヲ計リ地下五百尺ヲ限レリ、隨テ炭量甚タ多カラスシテ第一種炭量、第二種炭量合計概算二百五十萬噸ナリ

### 東部區域

第 四 圖

平 壤 炭 田 古 方 山 區 域

縮 尺 五 萬 一



東部區域ハ本炭田中最モ重要ナルモノニシテ分テ古方山、鳳凰洞、古飛里及南江沿岸ノ四區トナヌ

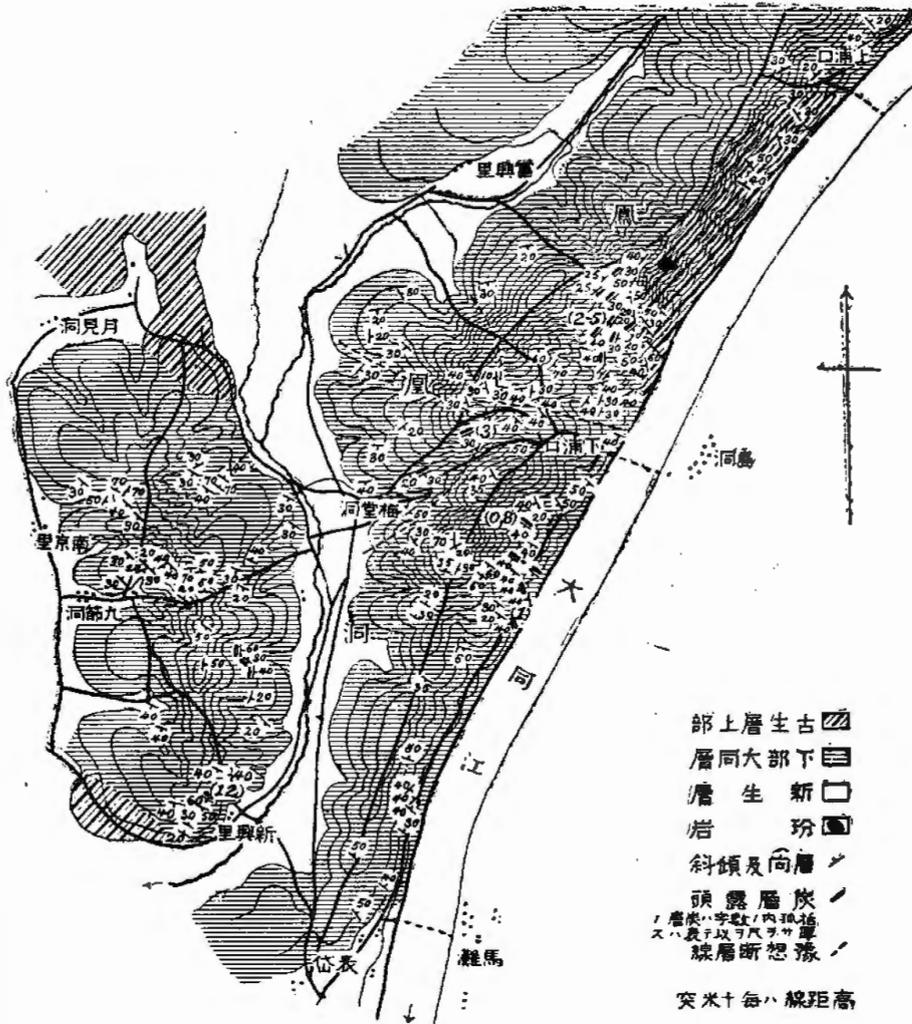
古方山區ハ大同江ノ本流北江ノ北ニアリ、其一大支流ナル南江ハ東ヨリ來リテ茲ニ北江ニ會ス、本區ハ南北約二三基米、東西約三四基米ノ波狀ノ丘陵地ニ屬シ一般ニ東方ニ高キモ高サ百米乃至百五十米ニ過キスシテ次第ニ西方ニ低下ス、本區ノ南方及東方ハ大同江及其支流ニ

限ラレ西方ハ大同江ノ平野ニ没ス、北方ハ上部層ニ被覆セラレ其北ニハ稍高峻ナル古生層ノ山地アリ、古生層ハ此外本區ノ處々ニ露出ス、含炭層ハ硅質砂岩及頁岩ヨリ成リ基盤ニ接近シテ扁豆狀ノ石灰岩アリ、古方山ノ南西ニハ地層甚シク擾亂セルモ層向ハ概ネ北西或ハ西北西ヲ示シ傾斜北方又ハ南方ニ稍急ナリ、古方山ノ北方ニハ層向東西又ハ東北東ニシテ南方ニ傾斜スルモ鷹峯洞ニ近ク地層ノ甚シク擾亂褶曲セルヲ見ル

北方ニ露出スル石炭ハ古方山ノ北麓ニ沿ヒ鷹峯ヨリ魯下洞ニ亙リ延長約三基米ヲ追跡スルヲ得ヘク南々東ニ傾斜スルモ東方ニハ一ノ向斜層ヲナス、城隍山ノ南方ニ露出セル炭層ハ古方山ノ南麓ニ沿ヒ西北西宋山ノ北方ニ連リ延長約三基米アリ、此間地層二三ノ褶曲アリテ炭層ノ變動甚シ、南方ニ露出セル石炭ハ大同江畔ニ沿ヒ西北西宋村ニ達シ北方又ハ南方ニ傾斜シ延長約一二基米アリ、炭層ノ數及厚サハ變動甚シキヲ以テ明ナラサレトモ中部ニハ九炭層アリテ下部二層ヲ稼行

第五圖

平壤炭田鳳凰洞區域  
縮三尺萬分之一



ス、厚サハ區々ニシテ時ニ六十尺ニ膨大シ又ハ薄層ニ分岐スルモ總厚  
 十尺乃至二十尺ナルヘシ、南部區域ニ於ケルト同一ノ理由ニ依リ地下  
 三百尺以下ノ炭

量ハ之ヲ計算セ  
 ス、而シテ平均ノ  
 高サハ百尺内外  
 ナルヘシ、之ニ依  
 リ概算スルニ第  
 一種炭量四百萬  
 噸、第二種炭量五  
 百萬噸ナリトス  
 鳳凰洞區ハ古  
 方山區ノ東ニア  
 リ、高サ十米乃至

四十米ノ低卑ナル丘陵山脈ハ大同江ノ西ニ沿ヒ約南北ニ走リ北部高ク東側ハ江ニ臨ミテ急壁ヲナス、其西方ハ山勢緩慢ナルモ一タヒ梅堂洞ノ平地ニ没シ再ヒ其西ニ稍南北ニ長キ孤立セル丘陵ヲナス、古生代石灰岩ハ、砂岩、粘板岩及珪岩ヲ挾ミ江ニ沿ヒ小區域ニ露出シ炭田ノ北部ヲ限レリ、含炭層ハ不整合ニ石灰岩ヲ被覆シ砂岩、頁岩及蠻岩ヨリ成リ寺洞ニ於ケルカ如ク下部ニ炭層ヲ挿間ス、地層ハ甚シク擾亂シ層向傾斜隨テ區々ナリ

本區ノ東部ニハ中央ニ於テ相交又スル斷層アリ、層向傾斜ハ第四圖ニ示セルカ如シ、炭層ノ數ハ明ナラサルモ三層ヲ下ラサルヘシ、厚サ亦明ナラス、下浦口ノ北ニアル炭層ハ最厚五尺ニシテ北西及南東三十五度乃至四十度ニ傾斜シ丘陵ノ頂上ニ近ク向斜層ヲナス、下浦口ノ南方ニ露出スル炭層ハ南々西四十五度ニ傾斜シ厚サ僅ニ一尺ナリト云フ、梅堂洞ノ北ニアル炭層ハ厚サ三尺ヲ超エスシテ南東三十度ニ傾斜ス、本區ノ西部ニハ地層甚シク擾亂シ二炭層ヲ埋藏ス、北ニアルモノハ北東

三十度乃至六十度ニ傾斜シ最厚三尺、南ニアルハ南西六十度ニ傾斜シ最厚十二尺ナリ、平均厚サハ明ナラサルモ二尺乃至五尺ナルヘシ東部ニハ延長約二千五百尺、西部ニハ千尺、深サ三百尺ノ地域ハ石炭ヲ埋藏スヘク其區域ハ小ニシテ隨テ炭量多カラス古飛里區ハ鳳凰洞區ノ東ニアリテ東方ハ河流ニ限ラル、含炭層ハ約東西乃至北七十度東ニ走リ南方三十度ニ傾斜ス、厚サ五尺乃至十尺ノ一炭層嘗テ稼行セラレタリ、炭層賦存ノ區域ハ延長三千尺ト稱セラレ炭量概算三百萬噸ナリト云フ

南江沿岸區 本區ハ西方河流ヲ隔テ古方山區ニ隣リ南江ニ沿ヒ約十六基米ノ一帯ヲナス、含炭層ハ砂岩、頁岩ノ互層ニシテ蠻岩ヲ挾ミ不整合ニ古生代石灰岩ヲ被覆ス、數炭層基盤石灰岩ニ近ク賦存ス、層向ハ概シテ西北西ニシテ北々東五十度乃至八十度ニ傾斜スルモ新場ニ於テハ一背斜層ヲナス、新場ノ北西ニアル背斜層ノ兩翼ニ露出スル炭層ハ厚サ一尺乃至六尺ニシテ約北西ニ走レリ、而シテ北翼ニハ四露頭アル

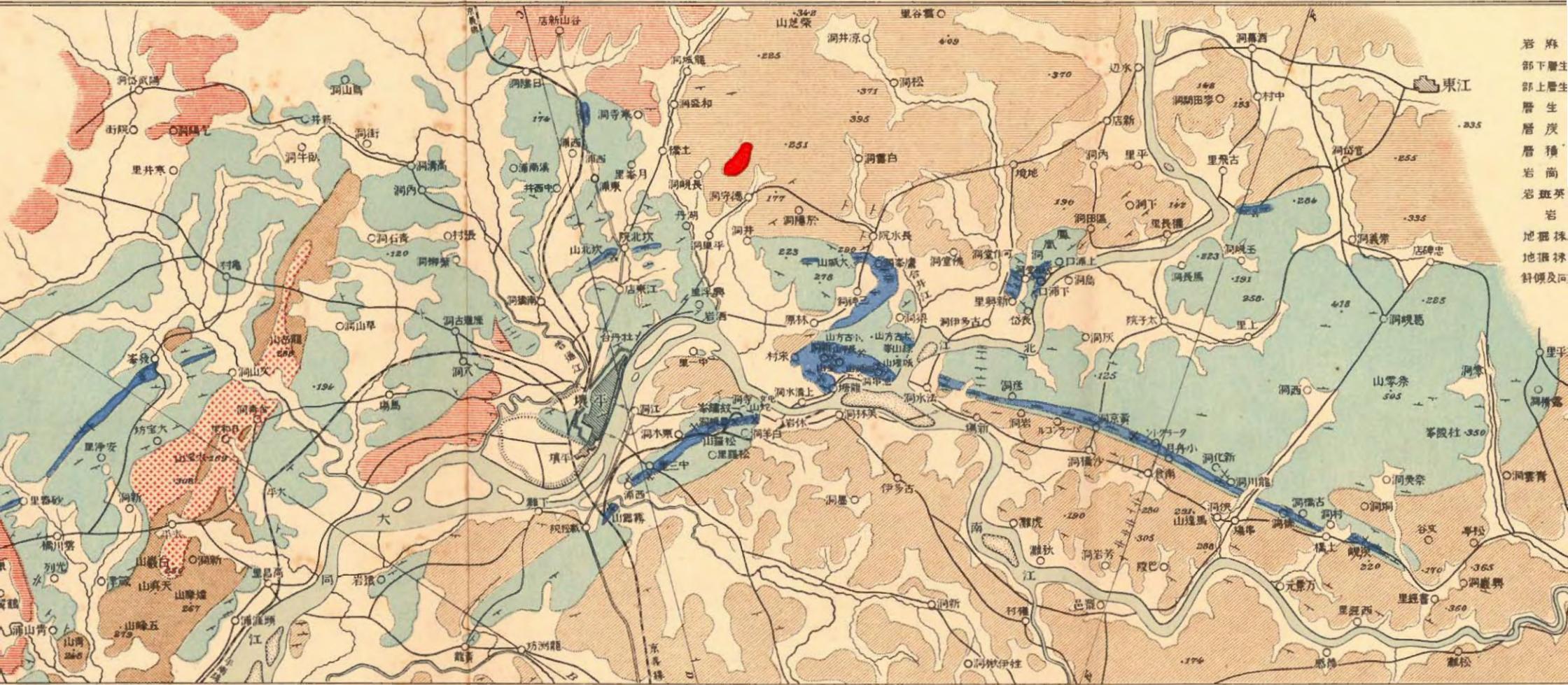
モ相互ノ關係明ナラス、蓋シニ炭層ナラン、背斜層ノ北翼ニアルニ炭層ハ厚サ一尺乃至三尺アリテ處々ニ露出ス、層向ハ東方ニハ次第ニ東西ニ近ク彥洞ノ南西ヨリ北八十度東トナレリ、傾斜ハ三十度乃至六十度トス、小船月ニハ上層ハ五尺ニ膨大シ古橋洞及龍川ニハ六尺、黃京洞ニハ十尺以上ニ膨大ス、土橋附近ノ炭層ハ北々東四十五度乃至八十度ニ傾斜シ一尺乃至四尺ノ厚サヲ有シ明治三十九年三登炭坑ノ名ニ依リ稼行セラレタルモ二年後ニ廢止セリ、本區ノ炭量概算千五百萬噸ナリト云フ

### 西部區域

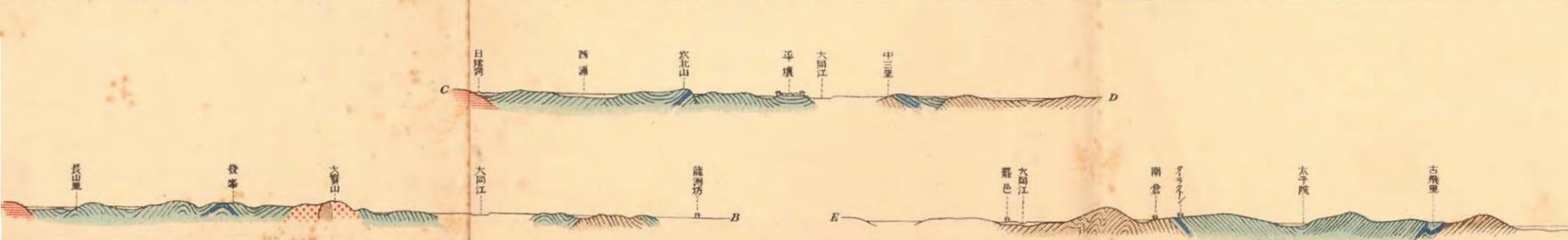
西部區域ニ於テハ石炭ハ曾テ發峯附近ニ稼行セラレタリ、含炭層ハ平壤ノ西約十六基米、文山洞ヨリ南西江西縣砂器里ニ亙リ南北約十基米、東西約八基米ノ面積ヲ占ム、地質ハ北部區域ニ同シ、炭層ハ硅質砂岩ノ下ニアル頁岩中ニ介在セラレ一般ニ東又ハ北東ニ走リ北方又ハ北西三十度乃至四十度ニ傾斜スルモ地層ハ擾亂ス

# 平壤炭田

縮尺十二萬分之一



岩 麻  
部 下 層 生  
部 上 層 生  
層 炭  
層 積  
岩 尚  
岩 斑 英  
岩  
地 質 株  
地 質 株  
斜 傾 及 同



縮尺五萬分之一  
縮尺十二萬分之一

文山洞ノ北西ニ三炭層アリテ北方三十度ニ傾斜ス、文山洞ノ南西約四基米、發峯ニ二炭層露出ス、厚サ二尺及六尺ニシテ東西ニ走リ約中央ニ於テ背斜層ヲナス、傾斜ノ角度ハ普通三十尺ナリトス、安靜里ノ北々西ニ炭層二箇處ニ露出ス、斷層ノ結果層向ハ地質圖ニ示セルカ如ク東西ニ於テ差異アリ、東方ニハ炭層ノ厚サ約三尺ニシテ北三十度西ニ走リ北東六十度ニ傾斜シ西方ニ於テハ厚サ約六尺ニシテ北三十度東ニ走リ北西五十度ニ傾斜ス、砂器里ノ含炭層ハ片麻岩ニ依リ圍繞セラレ北西四十度ニ傾斜ス、石炭ノ品質劣等ナリ、炭層露頭ノ延長ハ八基米ニシテ平均厚サハ五尺乃至六尺ナリ、之ニ依テ炭量概算千萬噸ヲ得タリ、石炭ハ無煙炭ニシテ容易ニ粉炭ニ破碎ス

### 黃海道三街浦炭田

三街浦ハ黃州ノ北西約十六基米、兼二浦ノ北々東約十二基米ニアリ、炭田ハ村落ノ西方ニアリテ丘陵地ヲナシ三街浦河ノ涵域中部ヲ切斷ス、含炭層ハ中生層ニ屬シ上部古生代ノ石灰岩ヲ不整合ニ被覆シ頁岩、砂

岩及巒岩ヨリ成リ一般ニ北西ニ走レリ、河ノ北部ニ一向斜層アリ、北翼ハ南東六十五度ニ南翼ハ北西四十度ニ傾斜ス、河ノ南部ハ北西三十度乃至五十度ニ傾斜ス、河ノ北部ニア爾墨川下洞、昆州洞ノ石炭ハ頁岩中ニ介在シ厚サ約三尺ナルモ粘土分ヲ含有スルコト多ク炭質ハ甚タ劣等ニ嘗テ試掘セラレタルコトアルモ直ニ廢棄セラレタリ、河ノ南方丘陵ニ露出セル三炭層ハ最厚二尺ニシテ夾ミヲ有シ品位亦劣等ナリ、分析ノ結果次ノ如シ

水	揮發物	固定炭素	灰	種類
〇、四七	一三、六二	六一、二六	二四、六五	第二類
〇、八八	一二、五八	五六、一五	三〇、三九	全

### 黃海道砂利院炭田

砂利院炭田ハ鳳山ノ南約五基米、砂利院ノ東約十三基米ニアリテ鐵道線路ニ沿ヘル小區域ノ丘陵地ナリ、基盤ハ上部古生代ノ石灰岩ニシテ

約東西ニ走リ南方二十度乃至五十度ニ傾斜ス、含炭層ハ石灰岩ノ小盆地上ニ沈積セルモノニシテ延長約一基米ナリ、岩石ハ砂岩、頁岩ノ互層ニシテ北二十度乃至三十度西ニ走リ北東二十五度乃至四十度ニ傾斜ス、本層中ニ介在セル炭層ハ共ニ薄ク厚サ三四寸ニ過キサルモノ一炭層ノ約三尺ナルモノアリ、此等ノ炭層ハ相接近シ厚サ十五尺ノ頁岩中ニアリ、石炭ハ黑色光輝アル有煙炭ニ屬シ粘結セス、分析ノ結果次ノ如シ

水	揮發物	固定炭素	灰	硫黃	發熱量		種類
					カロリー	英國熱單位	
一四、五九	三八、一四	三八、〇八	九、一九	一、二七	五、四四五	九、八〇一	第四類一
一八、九五	三六、一七	三六、〇四	七、六四	一、二三	五、五〇九	九、九一六	全
七、八〇	四四、八〇	三七、二〇	九、五〇	一、五〇	—	—	全
一八、八六	三四、七五	三七、三五	九、〇四	一、六五	—	—	全

### 京畿道通津附近ノ炭田

大明炭田 大明ハ通津ノ南約八基米ニアリ、含炭層ハ蠻岩、砂岩、頁岩及輝綠凝灰岩ヨリ成ル、地層ハ甚シク褶曲シ且ツ斷層多ク一般ノ層向ヲ知ルコト難キモ概シテ南北若クハ北四十五度東ニ走リ東方又ハ西方四十度乃至七十度ニ傾斜ス、一炭層アリテ數多ノ薄キ夾ミヲ有シ厚サ三寸乃至二尺アリ、石炭ハ漆黒ニシテ光澤強キ無煙炭ニ屬ス、採掘ニ際シ夾ミヲ選出スルコト困難ニシテ石炭中ニ頁岩ヲ混スルコト多シ、分析ノ結果次ノ如シ

水	揮發物	固定炭素	灰	種類
一、〇〇	三、七二	五五、四〇	三九、八八	第一類

金浦炭田 通津ヨリ金浦ニ通スル街道ノ南ニ當リ通津ノ南東約六基米ノ小丘ニ露出スル炭層ハ嘗テ小規模ニ稼行セラレタリ、含炭層ハ頁岩、砂岩ノ互層ニシテ北西ニ走リ南西三十度ニ傾斜シ花崗岩ニ依リ貫

通セラル、一炭層アリテ層向ニ沿ヒ約百八十尺ノ間之ヲ追跡スルコトヲ得、其厚サハ四寸乃至一尺五寸ナリ、石炭ハ平壤炭ニ類似シ容易ニ粉炭ニ破碎ス

### 其他ノ炭田

忠清南道浦元 ハ錦江ノ北岸ニアリテ群山ノ東北東約十二基米ニ位ス、村落ノ西方ニアル小丘ハ主ニ粘板岩ヨリ成リ砂岩ヲ挾メリ、厚サ八寸乃至一尺二寸ノ一炭層粘板岩中ニ介在シ北々東ニ走リ西北西五十五度乃至六十五度ニ傾斜ス、石炭ハ漆黑ノ無煙炭ニ屬シ粘結セス、質甚々脆弱ニシテ容易ニ粉炭ニ破碎ス、分析ノ結果次ノ如シ

水	揮發物	固定炭素	灰	硫黃	比	重	種	類
七、一三	七、八二	六九、〇九	一五、九六	〇、三二	一、九五四	第一類	二	

全羅南道綾州龜岩 ハ和順及同福間ノ街道上ニアリテ綾州ノ北東約十二基米ニ位ス、石炭ハ砂岩、粘板岩ノ互層中ニ介在シ北七十度西ニ走

リ北々東四十五度ニ傾斜ス、炭層ノ厚サハ夾ミト共ニ約三十尺ニ達ス  
 ルモ層向ニ沿ヒ之ヲ追跡スルニ露頭ナク扁豆狀ヲナセルカ如キ觀ア  
 リ、石炭ハ無煙炭ニ屬シ粘結セス、質脆弱ニシテ容易ニ粉炭ニ破碎ス、分  
 析ノ結果次ノ如シ

水	揮發物	固定炭素	灰	硫黃	比	重	種	類
九、七八	八、二九	五八、二〇	二四、九一	〇、三八	一、九五	第一類	二	

全羅南道木浦 木浦附近ニ廣域ヲ占ムル斑岩ニ圍繞セラレテ小區域  
 ノ含炭層アリ、含炭層ハ主ニ粘板岩ヨリ成リ砂岩及角礫岩ノ薄層ヲ挾  
 ミ北西ニ走リ南西二十度ニ傾斜ス、本層ニ扁豆狀ヲナセル數炭層アル  
 モ重要ナラス

未調査炭田 石炭ハ平安南道祥原及黃海道金川ニ産スト云フ

### 三 第三紀ニ於ケル炭田

#### 咸鏡北道鏡城炭田

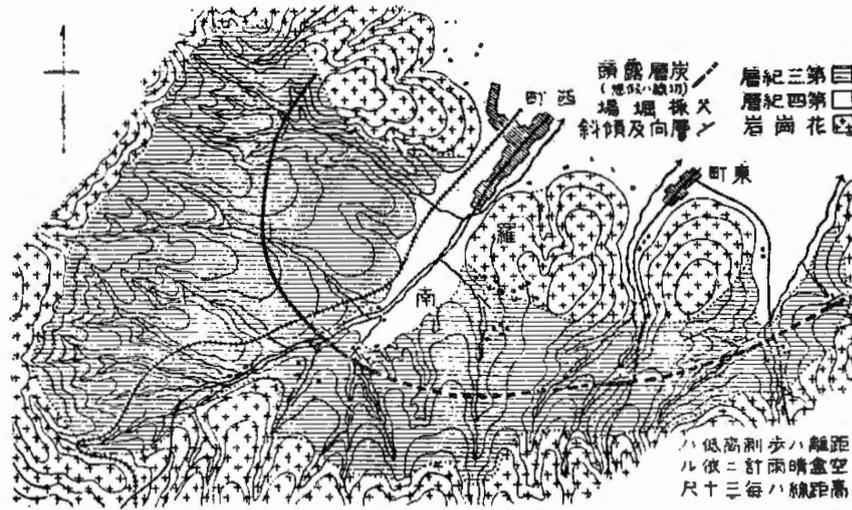
鏡城炭田ハ別テ羅南及生氣嶺ノ二區域トナス、羅南ハ鏡城ノ北約四基米、生氣嶺ハ鏡城ノ南約六基米ノ街道ニ横タハリ鏡城、清津港内ニハ輕便鐵道アリテ便利ノ位置ニアリ、產出額ハ未タ甚タ僅少ナリ、基盤ハ花崗岩ニシテ其小盆地上ニ沈積シタルモノハ即チ含炭第三紀層ナリ、第三紀層ハ高サ七十米突ニ充タサル丘阜ニシテ花崗岩ノ分解ヨリ成レル灰色若クハ暗灰色ノ頁岩、砂岩ヨリ成ル、羅南附近ニハ第三紀層ハ厚キ黝色ノ頁岩ヨリ成リ砂岩ヲ挾ミ羅南ヲ圍繞シテ略半圓形ノ盆地ヲナシ地層ハ恰モ中心ナル羅南ニ向ヒ十五度乃至三十度ノ角度ヲ以テ傾斜ス、生氣嶺ニハ第三紀層ハ頁岩及砂岩ヨリ成リ狹帶ヲナシテ生氣嶺ヨリ南方温郊ニ連レリ、層向ハ概ネ南北若クハ北々東ニシテ東方ニ傾斜スレトモ生氣嶺附近即チ北端ニ於テハ西北西ニ彎曲シ南々西ニ傾斜ス、傾斜ノ角度ハ南方ニ緩ニシテ約十度ナレトモ北方ニ進ムニ從ヒ次第ニ急ニ、生氣嶺ニ於テハ六十度トナレリ

羅南區域　羅南盆地ニハ炭層ハ北西端ヨリ東端ニ殆ント半圓形ヲ畫

第六圖

鏡城炭田羅南區域

縮尺二萬五千分之一



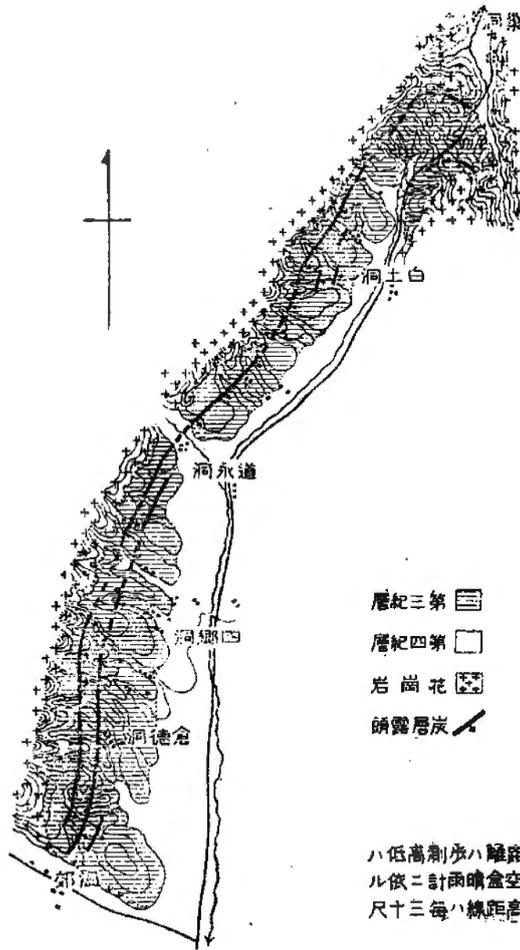
ニ二尺ニ縮迫ス、炭量ハ明ナラサレトモ、其量多カラサルカ如ク概算百十萬噸ナリト云フ

キテ露出シ延長約二基米ニ達ス、北西部ニ於テハ炭層ノ厚サハ約八尺ニシテ南北乃至北三十度東ニ走リ東南東三十度ニ傾斜ス、是ヨリ炭層ハ次第ニ東方ニ彎曲シ南部即チ中部ニ於テハ北四十度西ニ轉シ北東二十度ニ傾斜ス、炭層ハ茲ニ最モ發達シテ厚サ約十二尺ニ膨大セリ、東方ニ進ムニ從ヒ層向ハ次第ニ北六十度東ヨリ北八十度東ニ轉シ北々西二十五度乃至三十度ニ傾斜シ厚サ亦次第ニ減少シ東部ニハ三尺トナリ東端ニ近ツクニ從ヒ遂

第七圖

鏡城炭田生氣嶺區域

縮尺五萬分之一



生氣嶺區域 生氣嶺ニハ三炭層アリ、其延長南北約四基米餘アリ、層向ハ南北ニシテ東方ニ傾斜スルモ北方ニハ彎曲シ南々西ニ傾斜ス、傾斜ノ角度ハ北方ニ次第ニ急ニシテ炭層ノ厚サ亦次第ニ厚シ、最下層即チ

十度乃至十八度ニ傾斜ス、四郷洞ニ於テハ層向少シク東方ニ轉シ冲積平野ニ没スルモ再ヒ北方ニ露ハレ北三十度東ニ走り東南東十八度乃至三十度ニ傾斜シ炭層ノ厚サ二尺乃至三尺アリ、白土洞ニ於テハ炭層

最西ノ炭層ハ基盤ヲナセル花崗岩ニ近ク露出シ南端温郊附近ニ於テ厚サ四尺ニシテ北三十度東ニ走り東南東十五度ニ傾斜ス、倉徳洞ニ於テハ層向ハ南北ニシテ東方

ノ厚サ四尺乃至六尺ニ膨大シ傾斜ノ角度五十度ニ増大シ生氣嶺即チ北端ニ於テハ層向北七十度西ニ變シ南々西五十度乃至六十度ニ傾斜シ炭層ノ厚サ五尺時ニ十二尺ニ膨大ス、中部炭層ハ厚サ平均二尺アリテ温郊及道永洞間ニ露出ス、道永洞ノ北ニ於テハ炭層ハ白土洞ニ露出スルノミ、上部炭層ハ厚サ約二尺ニシテ温郊、白土洞及生氣嶺ノ南東ニ露出ス、炭量概算約五百五十萬噸ナリ

炭質 羅南ノ石炭ハ黑褐色ニシテ光輝ナク、生氣嶺ニ於ケルモノハ漆黒ニシテ脂光ヲ有シ共ニ容易ニ片狀ニ劈開ス、分析ノ結果次ノ如シ

水	揮發物	固定炭素	灰	硫黃比	重	發熱量		種類
						カロリー	英國熱單位	
一一、五〇	四六、九四	三三、二四	九、三三	〇、五八	一、三一	五、二八〇	九、五〇四	第四類二
九、七九	四四、四六	三一、五三	一四、二三	三、八三	一、四一	四、九五〇	八、九二〇	全
九、三七	四七、九三	三三、二七	一〇、四三	〇、五八	一、三四	五、〇六〇	九、一〇八	全
九、六一	四三、八四	三一、九五	一四、六〇	四、四四	一、四三	四、六〇二	八、三六六	全

石炭ハ亦鏡城ノ東約六基米ノ元帥臺ニ露出スト云フ

慶尙北道長鬐延日炭田

一七、二五	四二、〇九	三六、六七	三、九九	〇、一六	—	五、九四〇	一一、五九二	全
一五、一六	四二、九一	三六、五〇	五、四三	〇、二八	一、二九	六、三八〇	一一、四八四	全
一四、七九	四四、三九	三三、四四	七、三九	〇、一八	—	六、一六〇	一一、〇八八	全
一一、三一	四五、九九	三二、七四	八、九六	三、八五	—	五、九四〇	一〇、六九三	全
一三、六〇	四〇、〇四	三三、九四	一三、四二	一、一一	一、三九	四、四〇〇	七、九二〇	全

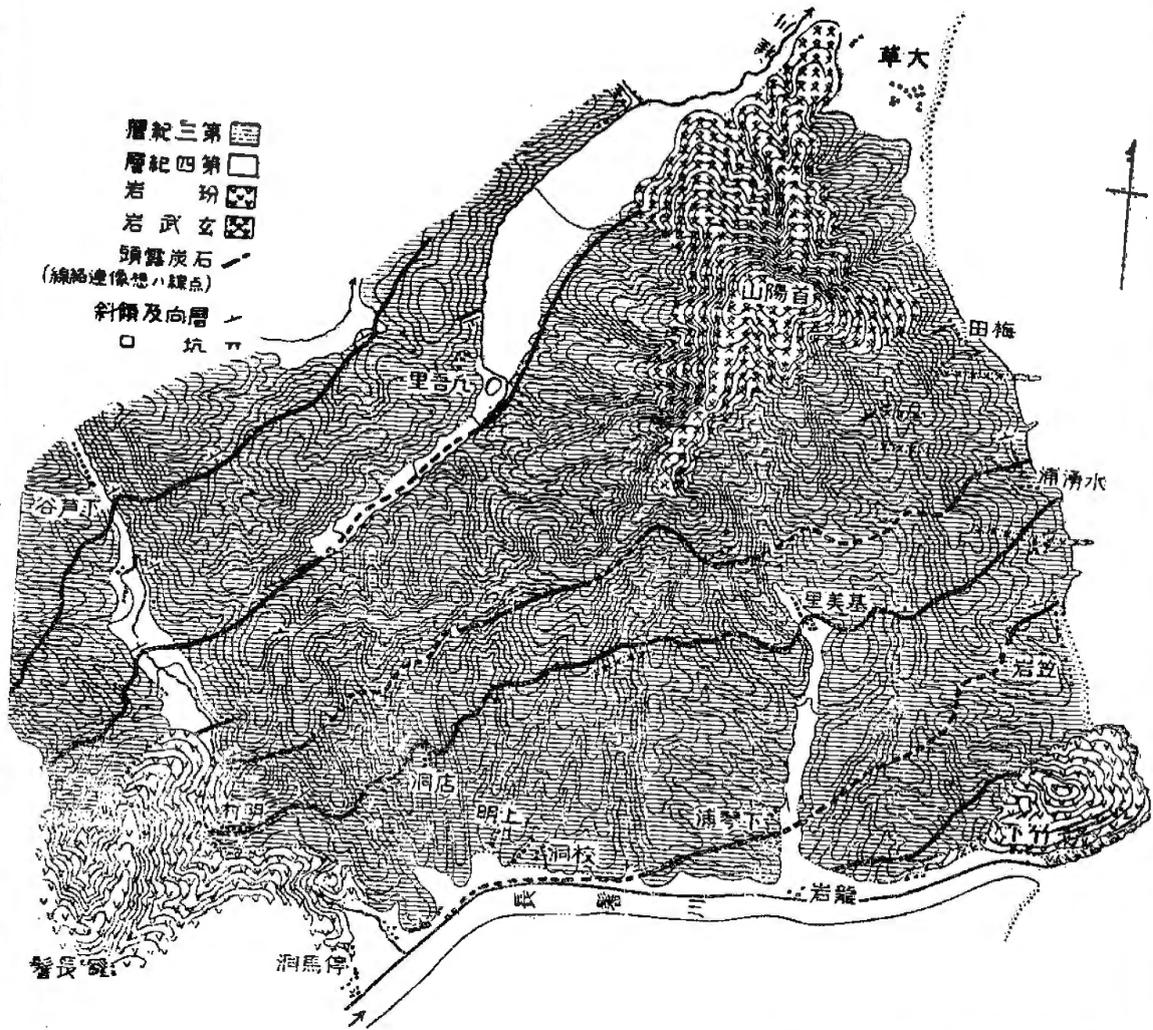
朝鮮ノ南部日本海沿岸ノ山脈ハ中生層ヨリ成リ東方日本海ニ急斜シ  
 茲ニ第三紀層ニ被覆セラレテ高サ百五十米ニ充タサル丘陵地ヲナシ  
 火山岩ヨリ成レル孤立ノ小丘處々ニ屹立シテ地形ノ平調ヲ破レリ、第  
 三紀層ハ主ニ各種ノ凝灰岩ヨリ成リ砂岩、頁岩及蠻岩ノ薄層ヲ挾ミ化  
 石ヲ埋藏ス、是等ノ化石ハ未タ調査セラレサルヲ以テ其時代ヲ知ル能  
 ハサルモ第三紀新層ニ屬スルモノ、如シ、石炭ハ第三紀層ノ下部ニ埋  
 藏セララル



# 第九圖

長髻延日炭田長髻附近

縮尺五萬分之一

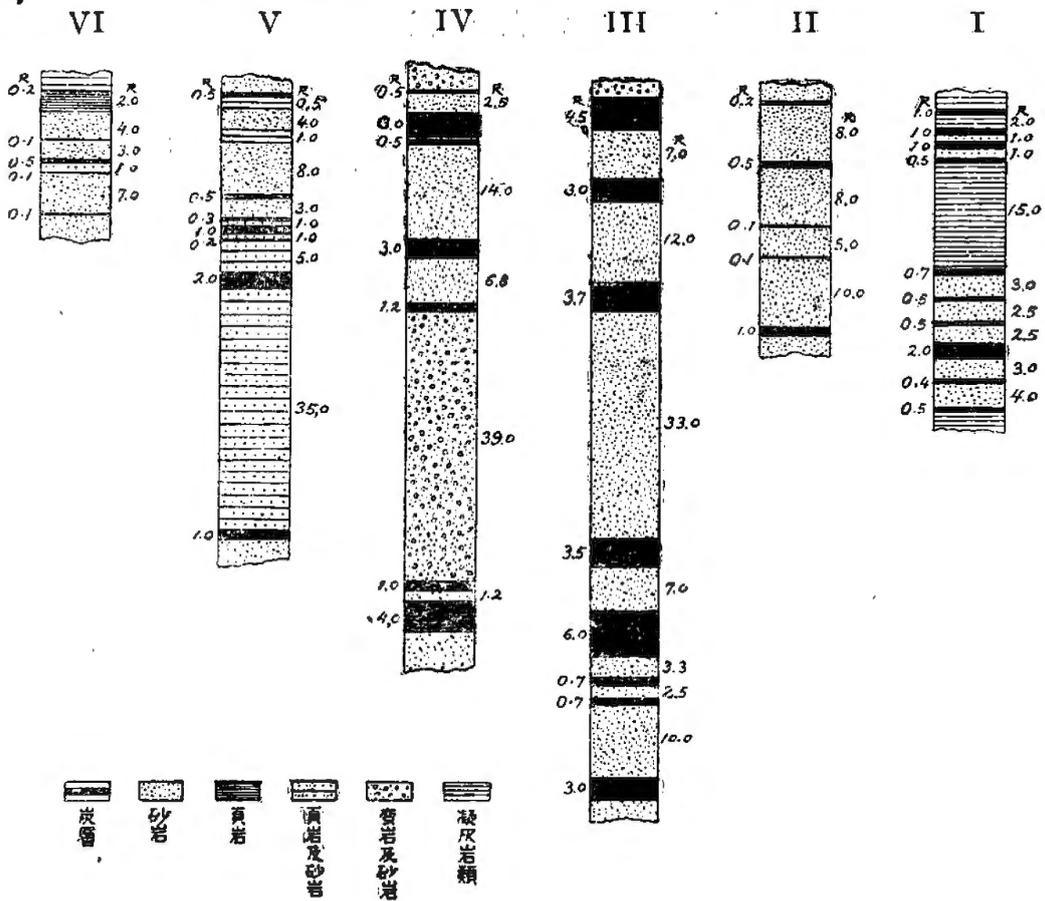


高距線ハ每三十三尺

長髻炭田ハ東  
 ハ海岸ヨリ西ハ  
 月山里ニ至リ北  
 ハ桂川ヨリ南ハ  
 良川ニ至リ東西  
 約六基米、南北約  
 四基米ノ面積ヲ  
 占メ中央ニ長髻  
 川アリテ炭田ヲ  
 二區域ニ區別ス、  
 北部區域ニ於テ  
 ハ層向ハ下部即  
 チ南東方ニハ北  
 六十度乃至七十

# 第十圖

長髻炭田西方區域炭層柱狀斷面圖

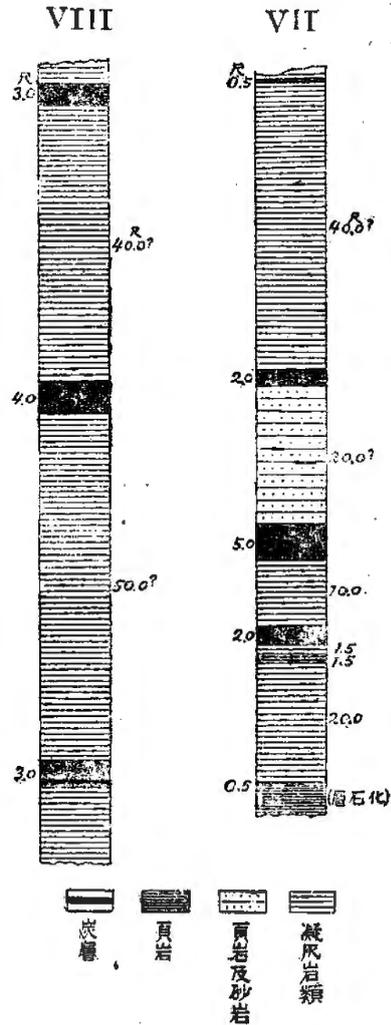


度東ニシテ北々西二十度  
 ニ傾斜スルモ上部即チ北  
 西方ニ於テハ北東又ハ北  
 三十度東ニ彎曲シ西北西  
 三十度ニ傾斜ス、長髻川ノ  
 南方ニハ地層ハ甚タ擾亂  
 セルカ如キモ北方ニハ概  
 ネ東北東ニ走リ北方二十  
 度ニ傾斜シ中部ニハ北微  
 東ニ走リ南方十度乃至二  
 十度ニ傾斜シ南方ニハ西  
 北西ニ走リ北方二十度ニ  
 傾斜ス、良浦ノ南ニハ層向  
 ハ北七十度東ニシテ北々

西二十度ニ傾斜ス、西方ニハ西化ニ於ケルカ如ク層向北三十度東ニ轉シ西北西三十度ニ傾斜ス、是等ノ關係ハ第九圖ニ見ルカ如シ北部區域ニハ數多ノ炭層アリ、之ヲ六七群ニ別ツヲ得ヘク二尺乃至六尺ノ炭層十一アリ、其厚サ并ニ層位ハ第十圖ニ示セルカ如シ長鬢川ノ南方ニハ一尺未滿ノ二三ノ炭層ヲ檢セルノミ、其北部區域ニ於ケル炭層トノ關係ハ未タ明ナラス桂川ノ北ニアル下城ニ於テハ小區域ノ含炭第三紀層輝石安山岩ニ圍繞セラル、本層中ニ厚サ約二尺ノ二三ノ炭層アリ、良川ノ南東ニアル黃溪ニハ小區域ノ第三紀層玢岩ニ圍繞セラレ厚サ約二尺ノ一炭層ヲ介有シ北七十度東ニ走リ北々西三十度ニ傾斜ス延日炭田 城院嶺ハ長鬢ノ北約八基米、長鬢、延日兩郡ノ境界ニアリ、其北ニアル第三紀層ハ數多ノ炭層ヲ埋藏シ北東ニ走リ北西二十度乃至三十度ニ傾斜ス、二尺以上ノ炭層六條アリ、第十一圖ニ示スカ如ク之ヲ上下ノ二群ニ區別ス、層向ハ亭天ニ於テハ北二十度乃至三十度東ナル

第十圖

延日炭田層柱狀斷面圖



度ヲ普通トス、北方ニハ更ニ南北ニ近ク林谷里ニ於テハ層向北十度東ニ轉シテ西方二十度ニ傾斜ス、北東ニアル林谷里海岸ニハ約一尺ノ炭層アリ

石炭ハ黑褐色ノ褐炭ニ屬シ容易ニ薄片狀ニ劈開シ或ハ介殼狀ニ破碎シ概ネ少量ノ黃鐵鑛、粘土、琥珀等ヲ含有ス、分析ノ結果次ノ如シ

モ南方ニハ次第ニ彎曲シ城院嶺ノ西方ニハ北七十度西ニ轉セリ、傾斜ハ西北西ヨリ北々東ナリ、傾斜ノ角度ハ二十度乃至三十

五、七六	水	揮發物	三五、四三	固定炭素	四七、八九	灰	一〇、九三	硫	二、五八	黃比	一、四二	重	發熱	六、七四五	英國熱單位	一二、二四二	種類	第四類一
------	---	-----	-------	------	-------	---	-------	---	------	----	------	---	----	-------	-------	--------	----	------

一四、一八	三一、九〇	四九、四〇	四、五二	三、二八	一、三五	六、〇〇七	二〇、八二三	全
八、三二	三一、五七	五一、〇一	九、二二	〇、七二	一	六、八二〇	一一、二七六	全
八、九四	二九、四九	五〇、九四	一〇、六三	〇、九二	一、四二	七、四七八	一三、四六〇	全

炭質劣等ナルヲ以テ炭量ノ計算ニハ厚サ二尺以上ノ炭層ノミ算入シタリ、而シテ炭層露頭ノ高サハ平均約四十尺乃至八十尺ニシテ延長長鬚炭田ニ於テハ四基米、延日炭田ニ於テハ約三、五基米ナリ、深サハ水準下五百尺ヲ計算シタリ、是ニ依リ計算シタル炭量概算ハ長鬚炭田第一種三百萬噸、第二種千五十萬噸、延日炭田第一種百四十萬噸、第二種五十萬噸ナリ

### 其他ノ炭田

咸鏡北道穩城附近 周原及瓦洞ハ相隣接シテ穩城ノ南ニアリ、其附近ハ低卑ナル波狀ノ丘陵地ニシテ柔軟ナル頁岩ヨリ成リ砂岩ヲ挟ミ波狀ノ褶曲ヲナス、石炭ハ三箇所ニ露出シ厚サ三尺乃至六尺ナリ、農閑ニ

土民家事用ニ之ヲ採掘ス

咸鏡南道咸興五老村 五老村ハ咸興ノ北約十二基米ニアリ、長豊里ノ廣大ナル谷野ハ五老村ノ北約八基米ニアリテ東西約四基米、南北約二基米ノ面積ヲ占メ柔軟ナル砂岩、頁岩ヨリ成リ一炭層ヲ挾ミ北四十度乃至六十度ニ傾斜ス、炭層ノ厚サハ八尺乃至十尺ニシテ内ニ一尺ノ夾ミヲ有ス、石炭ハ品位劣等ニシテ乾燥スレハ容易ニ劈開ス、分析ノ結果次ノ如シ

水	揮發物	固定炭素	灰	發熱量		種類
				カロリー	英國熱單位	
一三、〇七	四三、七七	四〇、一三	三、〇三	六、〇五〇	一〇、八九〇	第四類一

咸鏡南道高原及永興 高原、永興間街道ノ東ニアル三角形ノ大平原ニ起伏セル小丘ハ粘土、砂及礫ノ互層ヨリ成リ石炭ヲ介有ス、石炭ハ嘗テ龍興江ニ近キ小丘鎮鳶峯ノ麓及高原ノ南東約四基米ノ小丘ニ於テ採掘セラレ家事用并ニ製鹽用ニ使用セラレタルモ幾何ナラスシテ中止

シタリ、鎮鳶峯ハ主ニ暗綠色ノ玢岩ヨリ成リ其東麓ハ粘土、砂及礫層ニ被覆セラル、本層ハ石炭ヲ介有シ東方三十度ニ傾斜ス、石炭ノ厚サハ明ナラザレトモ數尺ニ達スト云フ、石炭ハ質甚タ劣等ニシテ乾燥スレハ片々ニ剝離ス

高原ノ南東約四基米ノ内洞里附近ニハ花崗岩ノ小丘アリ、之ヲ被覆セル粘土、砂及礫層ハ殆ント水平ニ成層シ若クハ僅ニ波狀ヲナス、數炭層アリ、其厚サ皆五寸ヲ越エス、石炭ハ鎮鳶峯ニ於ケルモノニ類似ス、此外此地ノ小丘ニ石炭ノ露頭アルモ重要ナラス

慶尙北道寧海 寧海ノ南街道上ノ小峠ニ二炭層アリ柔軟ナル第三紀頁岩中ニ介在シ殆ント水平ニ成層ス、上部炭層ハ厚サ、一尺ニシテ薄キ夾ミヲ有シ下部炭層ハ厚サ二三尺ニシテ上部炭層ノ下約三尺ニアリ、慶尙北道長鬐、上西里 上西里ハ蔚山ノ北約二十基米、長鬐ノ南約三十二基米ニアル板津ノ西約一基米ニアリ、含炭第三紀層ハ珠羅紀層ニ圍繞セラレ一小盆地ヲナス、地質ハ長鬐、延日ノ第三紀層ト全ク相同シ、層

向ハ北六十度西ニシテ北西十度乃至二十度ニ傾斜ス、厚サ六尺乃至八尺ノ一炭層アリテ層向ニ沿ヒ約九百尺ノ間之ヲ追跡スルヲ得ヘシ、石炭ハ品位劣等ニシテ容易ニ片々ニ剝離ス

慶尙南道蔚山 栗洞及坪泉間即チ蔚山ノ南東約八基米ニアル第三紀層ハ中生層上ニ沈積シ東西約二千二百尺、南北約千五百尺ノ小地域ナリ、本層ハ凝灰岩及頁岩ヨリ成リ概ネ北二十度東ニ走リ西北西二十度ニ傾斜スレトモ南端ニ近キ如南ニ於テハ北三十度西ニ轉シ西南西二十度ニ傾斜ス、炭層四アリ、其厚サハ上部ヨリ八尺、一尺五寸乃至三尺、一尺及五尺ニシテ層向ニ沿ヒ約千八百尺ノ間之ヲ追跡スルヲ得ヘク傾斜ニ沿ヒ約千二百尺ノ間ハ之ヲ採掘スルヲ得ン、石炭ハ長鬚ニ於ケルモノニ類シ硫黄及灰分多シ、分析ノ結果次ノ如シ

水	揮發物	固定炭素	灰	硫黄比	重	發熱量	種類
七、五五	四六、三三	三五、四二	一〇、七〇	九、〇五	一、四〇	五、四二五 英國熱單位	第四類一

未調査炭田 石炭ハ咸鏡北道咸興郡豐面里、吉州郡德六里、會寧郡附近ニ産シ亦咸鏡北道富寧、慶源、慶興、明川及江原道通川、慶尙北道興海ニ産スト云フ

滿洲ニ於ケル石炭

滿洲ニ於ケル石炭

目次

緒言	六七頁
第一章	六八頁
一 石炭ノ分布	六八頁
二 石炭ノ産出額及輸出入額	七〇頁
三 炭質	七二頁
四 炭量	七四頁
五 結章	七七頁
第二章	七八頁
炭田概觀	七八頁
一 盛京省	七八頁

	石炭紀ニ於ケル炭田	七八頁
	一、南部ニ於ケル炭田	七九頁
	五湖嘴炭田	七九頁
	瓦房店炭田	八二頁
	煤窰炭田	八四頁
	二、遼陽奉天間以東ノ炭田	八六頁
	(一) 長城以西ノ炭田	八六頁
	煙臺炭田	八七頁
	本溪湖區域	九二頁
	小市炭田	一〇四頁
	城廠區域	一〇八頁
	(二) 長城以東ノ炭田	一一〇頁
	四平街區域	一一〇頁

通化區域	.....	一一二頁
杉松崗炭田	.....	一一五頁
其他ノ炭田	.....	一一八頁
(三) 錦州ノ西方ニアル炭田	.....	一二一頁
中生代ニ於ケル炭田	.....	一二九頁
寨馬集炭田	.....	一二九頁
懿路炭田	.....	一三三頁
大臺山炭田	.....	一三四頁
放牛溝炭田	.....	一三六頁
沙河子炭田	.....	一三七頁
半拉門炭田	.....	一三九頁
孤山子炭田	.....	一三九頁
第三紀ニ於ケル炭田	.....	一三九頁

撫順炭田	.....	一三九頁
石門寨炭田	.....	一五五頁
二 吉林省	.....	一五六頁
石炭紀ニ於ケル石炭	.....	一五六頁
珠羅紀ニ於ケル炭田	.....	一五七頁
長春炭田	.....	一五七頁
火石嶺炭田	.....	一六一頁
五龍屯炭田	.....	一六三頁
其他ノ炭田	.....	一六四頁
三 黑龍江省	.....	一六七頁

# 滿洲ニ於ケル石炭

農商務技師 井上禧之助

## 緒言

滿洲ハ本邦ト經濟上並ニ學術上甚タ密接ノ關係ヲ有スレトモ僅ニ其南部ニ豫察地質調査ノ施行セラレタルニ止マリ其北部ニ關シテハ未タ據ルヘキ資料ヲ得ス、日清戰爭並ニ日露戰爭ニ際シ調査セラレタル資料ハ載セテ當時ノ報告書類ニアリ、千九百七年南滿洲鐵道株式會社組織セラレ木戸忠太郎氏同會社ノ地質技師トシ專ラ地質ノ調査ニ從事シタリ、蓋シ以上ノ調査ハ南部滿洲ニ止マリ北部滿洲ハ未タ調査セラレ、ニ至ラス、隨テ其鑛產物ニ關シ據ルヘキモノ甚タ少ナシ、茲ニ滿洲ノ石炭ニ關シ記述スルトコロノモノハ以上調査ノ材料ニ基ツキ、殊ニ木戸氏ノ本官ノ爲ニ滿洲ニ於ケル調査資料ヲ謄寫送附セラレタル

ハ深ク謝スル所ナリ  
 石炭ハ滿洲ノ鑛物中最モ重要ナルモ而モ其產出額ハ一年僅  
 ニ百五十萬噸ヲ超ユルニ過キス、其他ノ鑛產物ノ產出額ニ至リテハ蓋  
 シ言フニ足ラス、支那人ニ依リ稼行セラル、炭坑ハ其數甚タ多キモ皆  
 古法ニ依リ採掘シ其數ハ之ヲ知ルニ難シ、產出額亦之ヲ知ルニ難キモ  
 蓋シ大ナラサルヘシ、而シテ大規模ノ鑛業ハ獨リ撫順炭坑ニ之ヲ見ル  
 ノミ、其產出額、其規模ニ於テ固ヨリ之ヲ他ノ炭田ニ比スヘキニアラス

## 第一章

### 一 石炭ノ分布

石炭ハ石炭紀層、珠羅紀層並ニ第三紀層ニ介在ス、第三紀ノ石炭ハ現時  
 最モ重要ニシテ滿洲ノ石炭ノ大部ハ之ヨリ採掘セラルレトモ其分布  
 ハ比較的大ナラスシテ撫順谿谷ニ沿ヘル一ノ狹長ナル區域ヲ占ムル  
 ニ過キス、石炭ヲ埋藏スル石炭紀層ハ盛京省ニ於テ其分布ノ區域廣カ  
 ラサルモ各處ニ散在ス、含炭珠羅紀層ハ吉林省、盛京省ノ處々ニ散在ス、

黑龍江省ニ於ケル含炭層ニ就テハ據ルヘキ材料ニ乏シ  
滿洲ノ基盤ヲ構成セルモノハ片麻岩系ニシテ之ヲ被覆シテ小區域ニ  
所謂大孤山層及支那層アリ、石炭紀層ハ片麻岩系其他ノ古岩層ノ小盆  
地上ニアリテ植物化石ヲ埋藏シ之ニ依リ其時代ヲ定ムルコトヲ得タ  
リ、本層ハ之ヲ上、下部ノ二層ニ區別ス、下部層ハ厚キ石灰岩ヨリ成リ泥  
灰岩ヲ挾ミ上部層ハ即チ夾炭層ナリ、夾炭層ハ下部砂岩、粘板岩ヨリ成  
リ石灰岩及炭層ヲ挾ミ上部層ハ厚キ砂岩ニシテ粘板岩ヲ挾有ス、盛京  
省ノ中部ニハ夾炭層ハ略東西ニ散在ス、其嘗テ廣域ニ沈積シ爾後ノ浸  
蝕ノ爲ニ今日ノ如ク分離セルモノナルヤ、或ハ各區域各別ニ現今ニ於  
ケル如ク沈積セルモノナルヤ、茲ニ之ヲ斷定スルコトヲ得サレトモ蓋  
シ其一部ノ嘗テ連續セルモノナリシヤ疑ヲ容レズ、此外盛京省ノ南部  
ニ小區域ノ面積ヲ占ムルモノアリ、錦州ノ西方ニアルモノハ其區域稍  
廣シトス、吉林省ニ於テハ石炭ハ只寬街附近ニ之ヲ見ルノミ、含炭珠羅  
紀層ハ植物化石ヲ埋藏スルヲ以テ其時代ヲ確定スルコトヲ得タリ、本

層ハ頁岩、砂岩ノ互層ニシテ時ニ蠻岩ヲ挾ミ上部ニハ頁岩發達シ下部ニハ砂岩多ク吉林省ノ處々ニ直ニ片麻岩系其他ノ古岩層ノ上ニアリテ小區域ヲナス、盛京省ニ於テハ吉林省ニ比スレハ其露出ノ區域小ニ且ツ狹シトス

含炭第三紀層ハ唯撫順ノ谿谷ニ之ヲ見ルノミニシテ直ニ片麻岩上ニ坐シ玄武岩ニ依リ貫通セラル、良質ノ石炭ヲ埋藏スル地域ハ僅ニ四十八平方基米ナルモ其炭量ハ大ニシテ今日滿洲ニ於テ最モ重要ナルモノナリ、地質ハ下部砂岩、蠻岩及頁岩ニシテ上部ハ頁岩ナリトス、化石ニ依リ其中新期ニ屬スルヲ知レリ

## 二 石炭ノ產出額及輸出入額

滿洲石炭ノ產出額ニ關シテハ二三ノ炭坑ヲ除ケハ統計ノ以テ據ルヘキナク隨テ正確ナル、產出額ヲ知ルニ難シ、茲ニ稍確實ナル報告ニ基ツキ產出額ヲ綜合スルニ左ノ如シ、蓋シ吉林省、黑龍江省ニ關シテハ殆ント據ルヘキ報告ナケレトモ其產出額ノ多量ニ達セサルハ明ナリ

# 滿洲石炭分布圖



盛京省

一、七、一四、五二四

撫順

一、三四三、一九八

本溪湖

一〇〇、〇〇〇

暖地塘

四八、〇〇〇

寨馬集

四〇、〇〇〇

煙臺

三九、三二六

五湖嘴

一〇、〇〇〇

杉松崗

二四、〇〇〇

西溝子

三〇、〇〇〇

牛心臺

二〇、〇〇〇

其他ノ炭田

六〇、〇〇〇

吉林省

二〇、〇〇〇

五龍屯

一〇、〇〇〇

缸窰

一〇、〇〇〇

其他ノ炭田

黒龍江省

二七〇、〇〇〇

札來諾爾

一五〇、〇〇〇

其他ノ炭田

石炭ノ輸出入ニ關シテハ正確ニ之ヲ知ルヲ得サレトモ大要左ノ如シ

千九百九年	千九百十年	千九百十一年
輸入 五三、三一九 <small>噸</small>	五六、一一二 <small>噸</small>	八一、五三四 <small>噸</small>
輸出 一七六、六六八	四〇九、七二二	二九四、〇六八

輸入石炭ハ殆ント日本及支那ヨリスルモノニシテ稍増加ノ趨勢ニア  
 ルモ著シカラス、輸出石炭ハ殆ント全ク撫順炭ナリトス、而シテ千九百  
 十一年ニ輸出額ノ著シク減少シタルハ鼠疫ノ流行ト滿洲内地ニ於テ  
 各種工業用トシテ撫順炭ノ需要著シク増進シタルニ依ル

### 三 炭 質

石炭ノ分類ニ關シテハ朝鮮ノ石炭ヲ記述スルニ當リ既ニ之ヲ述ヘタ

リ、而シテ滿洲ノ石炭ニ於テモ分析ノ結果ト分類ト一致セサルモノアリ、是レ分析ニ於テ統一ヲ缺ケルニ依ルモノアルヘシト雖モ分類ノ方法ニモ亦不備ノ點アルニ據レリ、彼ノ第十二回萬國地質學會議ニ於テ規定シタル分類ハ悉ク之ヲ東洋ニ於ケル石炭ニ適用スヘカラス、故ニ分析ノ結果ニ基ツキ別ニ分類ノ方法ヲ研究セサルヘカラサルナリ、而モ茲ニハ統一上務メテ之ニ據レリ、而シテ第一類、第二類、第三類、第四類ハ朝鮮ノ石炭ニ於テ記述セルモノニ同シ

石炭ハ無煙炭、半無煙炭及有煙炭ノ三種トシ半有煙炭、亞有煙炭ヲ區別セズ、石炭紀層ニ埋藏セラル、石炭ハ無煙炭又ハ半無煙炭ニ、中生層ノ石炭ハ半無煙炭又ハ有煙炭ニ屬シ共ニ支那人ニ依リ家事用ニ供セラ

ル、無煙炭及半無煙炭ヲ稼行スル炭坑ハ其數甚タ多キモ皆小規模ニシテ最大ナル本溪湖炭坑ノ如キモ一年ノ產出額十萬噸ヲ超エス、第三紀石炭ハ有煙炭ニシテ採掘ノ規模ハ滿洲第一ニシテ一日ノ產額ハ現時四千噸ヲ超ユ、本石炭ハ獨リ滿洲ニ於テ消費セラル、ノミナラス支那、

朝鮮、日本ニ輸出セララル

#### 四 炭 量

炭量ノ概算ニ關シテハ朝鮮ノ石炭ヲ記述スルニ當リ既ニ之ヲ述ヘタリ、滿洲ノ炭量ヲ概算スルニ當リテモ亦之ヲ適用シタリ、而シテ朝鮮ニ於ケルト同シク地下四千尺乃至六千尺ニアル炭量ハ之ヲ計算セス、蓋シ滿洲ノ地質調査ハ甚タ不完全ニシテ南部滿洲ニ於テ二三ノ重要ナル炭田ヲ除ケハ僅ニ豫察調査ヲ施行シタルニ止マリ隨テ炭量ヲ概算スルコト甚タ困難ニ多クハ炭田ノ分布ト炭層ノ平均厚サトニヨリ之ヲ計算シ北部滿洲ノ炭田ノ如キ殆ント全ク之ヲ知ルノ資料ヲ得ス、故ニ滿洲ニ於ケル炭量ノ總額ヲ知ルコト能ハサルナリ、次ニ掲クルモノハ唯僅ニ南滿洲ニ於テ概測シタル炭量ナリトシ第一種、第二種、第三種炭量ハ朝鮮ノ石炭ニ於テ記述セルモノニ同シ

#### 第一種

厚	サ	面	積	種	類	炭	量
---	---	---	---	---	---	---	---

第二種炭量

盛京省	古生層	一八尺—四五尺	九、三 <small>平方米</small>	二、三	第一二類	四〇八、〇〇〇、〇〇〇 <small>噸</small>
煙臺	一八—二五	一、五	第一二類	一五、〇〇〇、〇〇〇		
本溪湖	四〇—四五	〇、八	第二類	一五、〇〇〇、〇〇〇		
第三紀層	一一〇—一三〇	七、〇	第三類	三七八、〇〇〇、〇〇〇		
撫順	一一〇—一三〇	七、〇	第三類	三七八、〇〇〇、〇〇〇		
合計		九、三		四〇八、〇〇〇、〇〇〇		

盛京省	厚サ面積	四九、三 <small>平方米</small>	炭量	第三種炭量
古生層	五尺—四五尺	三八、六	八〇〇、五〇〇、〇〇〇 <small>噸</small>	大
五湖嘴	三、五—四	二、〇	三、〇〇〇、〇〇〇	中
		第二類		

撫順	第三紀層	沙河子	放牛溝	中生層	錦州西方炭田	長城以東炭田	田子付溝	牛心臺	本溪湖	煙臺	煤窖
一一〇—一三〇	一一〇—一三〇	八—一五	四—五	四—一五	三、五—一五	四—一〇	五	二〇	四〇—四五	一八—二五	六
九、六	九、六	〇、五	〇、六	一、一	一四、〇	四、一	一、〇	三、〇	一〇、〇	三、〇	一、五
全		第三類	第四類二		全	第二類二	第二類二	第一類二	第二類二	第二類二一	第二類一
四九八、〇〇〇、〇〇〇	四九八、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	四、〇〇〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇	二五、〇〇〇、〇〇〇	一八〇、〇〇〇、〇〇〇	二五、〇〇〇、〇〇〇	三、五〇〇、〇〇〇
大		全	小		全	中	小	全	中	中	小

其他ノ炭田								中
吉林省			五、七			九、〇〇〇、〇〇〇		大
中生層	二——六		五、七			九、〇〇〇、〇〇〇		
陶家屯	二——二、五		二、二	第三類		二、〇〇〇、〇〇〇		小
石碑嶺	四——五		一、〇	全		一、〇〇〇、〇〇〇		小
五龍屯	五、五——六		二、〇	全		五、〇〇〇、〇〇〇		中
火石嶺	五		〇、五	全		一、〇〇〇、〇〇〇		小
其他ノ炭田								大
合計			五五、〇			八〇九、五〇〇、〇〇〇		大

### 五 結 章

滿洲ハ鑛産物ニ豊富ナリト稱セラル、モ現時ハ石炭ヲ除ケハ大規模ニ稼行スル鑛山ナシ、蓋シ石炭ノ産出額ハ現時尙未タ大ナラサレトモ

其埋藏炭量ハ其地方ノ需要ヲ充タシテ餘アルノミナラス數百年間東洋ノ市場ニ供給スルコトヲ得ヘシ、現ニ今日ニ於テモ多量ノ輸出アリテ其額次第ニ増加セントス、是レ一ハ滿洲ノ工業幼稚ニシテ燃料ヲ要スルコト少ナキニ依リ其消費額ハ面積人口ニ比シ甚シク過小ニシテ將來消費額著シク増進シ輸出モ亦増加スルニ至ルヘシト雖モ其埋藏炭量ハ前述ノ如ク豊富ナリ、加之調査ノ進行スルニ從ヒ新炭田ノ發見セラレ或ハ地下ニアル未知炭層ノ存在ノ確知セラル、ニ至ルヘク殊ニ北部滿洲ニ於テ然ルトス、故ニ精密ナル地質調査ノ施行セラル、ニアラサレハ滿洲石炭ノ將來ニ關シテ深ク論究スルコト能ハサルナリ

## 第二章

### 炭田概觀

#### 一 盛京省

##### 石炭紀層ニ於ケル炭田

石炭紀層ハ遼陽及奉天間南滿洲鐵道以東鴨綠江ニ至ル狹帶ニ小區域

ニ散在シ古層上ニ盆地ヲ形成ス、省ノ南部ニ於テハ亦遼東半島ニ於ケル復州及金州ニ於ケルカ如ク小區域ニ露出シ錦州ノ西ニ於テハ南西方遙ニ直隸省ニ跨リテ稍廣キ面積ヲ占ム

### 一、南部ニ於ケル炭田

南部ニハ三炭田アリ、五湖嘴、炸子窰及煤窰是ナリ

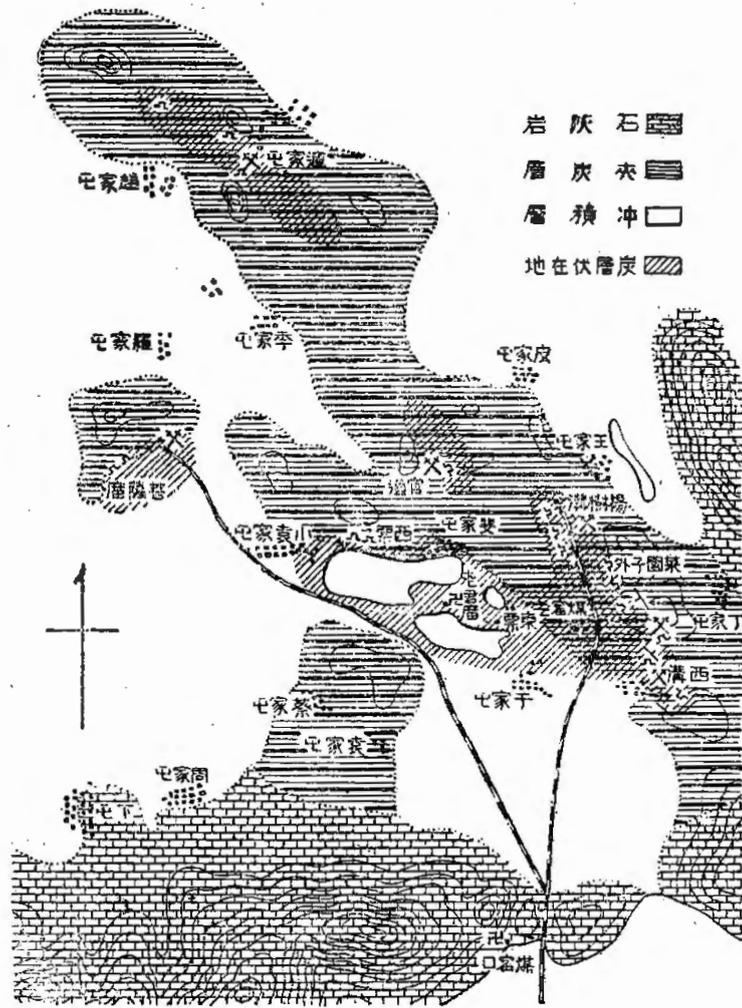
### 五湖嘴炭田

五湖嘴炭田ハ海岸ヨリ約六基米ニアリテ復州ノ南約四十八基米、普蘭店停車場ノ西約四十基米ニ位シ此兩所ヨリ車ヲ通スルヲ得ヘク交通不便ナラス、本炭田ハ十八世紀ニ開發セラレタリト云ヒ十年前迄ハ一年ノ産額約千五百噸ナリシモ千九百十年ニハ三萬噸ニ増加シ昨年ハ一萬噸ヲ産出シ目下一日百二十噸ヲ産出ス、既採掘量ハ百萬噸ナリト云フ、炭田ハ狹長ナル盆地ニシテ延長六基米、幅三基米半、高サ約三四十米ノ低卑ナル波狀ノ臺地ヲナシ三面石灰岩ノ山地ニ依リ圍繞セラレ、含炭層ハ石炭紀ニ屬スルナルヘク頁岩、砂岩ヨリ成リ石灰岩ヲ挾ミ地

第一圖

復州五湖嘴炭田

縮尺十萬分之一



シテ重要ナラス、下部炭層ハ厚サ二尺ヨリ時ニ十尺以上ニ達シ平均三尺乃至五尺アリテ稼行ニ堪フ、排水準以上即チ露頭下三十尺乃至百五十尺ニアル石炭ハ品位劣等ナルモ既ニ久シク稼行セラレ餘ストコロ僅少ナリ、故ニ將來稼行スヘキ地域ハ炭田ノ中部ニ於ケル向斜盆地ナ

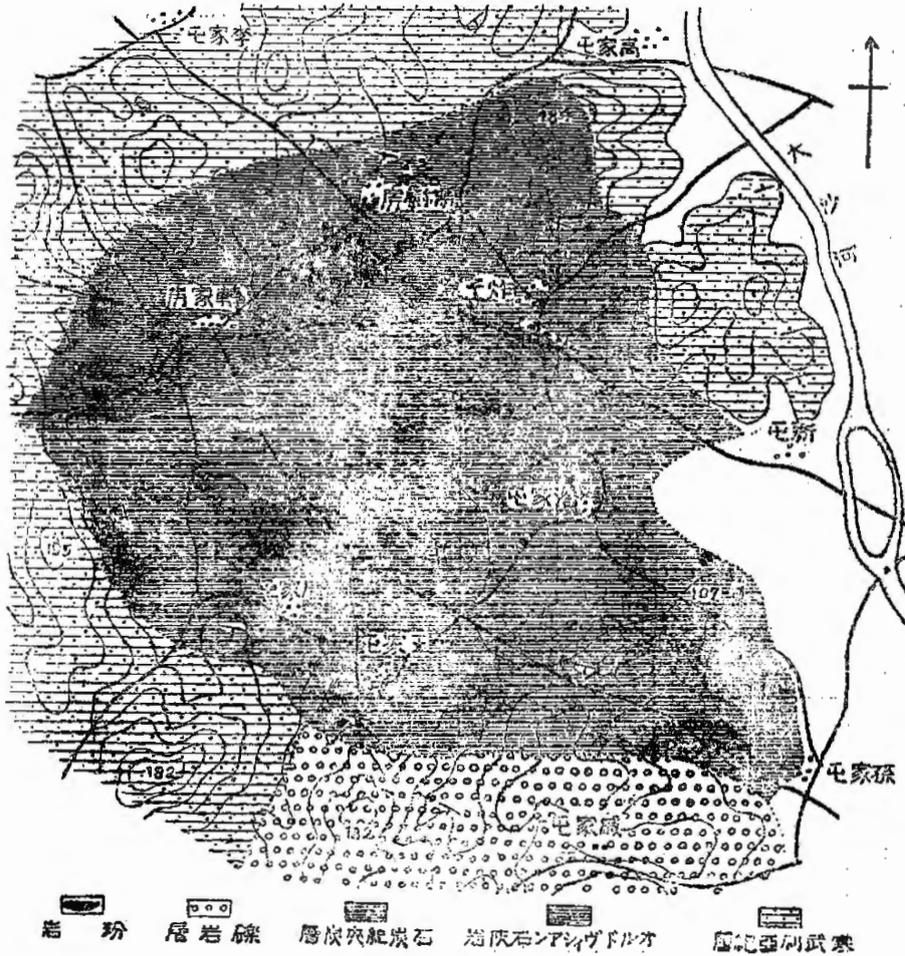
層概シテ波狀ヲナス  
 モ二ノ向斜層北西ヨ  
 リ南東ニ走り南東部  
 ニ於テ合一ス、三炭層  
 ハ上部ニアリテ炭田  
 ノ中部背斜層ニ近キ  
 處ハ既ニ浸蝕ノ爲メ  
 除去セラレタリ、上部  
 二炭層ハ厚サー一尺ニ  
 充タス、大抵五六寸ニ

ルモ茲ニハ出水多カルヘク隨テ採掘困難ニ多量ノ産出ハ之ヲ期待シ得ヘカラサルヘク炭量概算三百萬噸ニ充タサルヘシ石炭ハ不粘結質ノ半無煙炭ニ屬シ黑色ニシテ光輝ヲ有シ甚タ脆弱ニシテ塊炭僅ニ百分中十乃至二十ヲ得ルニ過キス、分析ノ結果次ノ如シ

水	揮發物	固定炭素	灰	硫	黄	比	重	發熱		種類
								カロリー	英國熱單位	
三、四九	七、三三	七七、七六	二、四二	一、二三	一、四五〇	—	—	—	—	第一類二
六、四六	一八、二〇	六五、〇八	一〇、二六	〇、六五	一、五二八	五、二八〇	九、五〇四	—	—	第二類二
一五、二七	二三、〇九	四九、九四	一一、七〇	〇、六六	一、五八一	—	—	—	—	全
七、四四	二二、四〇	六一、三二	八、八六	〇、六二	一、五八二	五、五〇〇	九、九〇〇	—	—	全
一六、九三	二五、八四	四六、〇六	一一、一七	〇、五〇	一、五六四	—	—	—	—	全
一五、九九	二二、九六	四九、二三	一一、八二	〇、九〇	一、五六二	—	—	—	—	全

第 二 圖  
瓦 房 店 炭 田

縮 尺 五 萬 分 之 一



瓦房店炭田

瓦房店炭田ハ南滿洲鐵道瓦房店停車場ノ東約四基米ニアリテ交通便

ナルモ興廢常ナク目  
下ノ產出額ハ僅少ナ  
リ、本炭田ハ一小盆地  
ヲナシ北南西ノ三方  
ハ高サ約百九十米ノ  
丘陵ニ依リ圍繞セラ  
レ東方ハ太沙河ノ涵  
域ナリ、基盤ハ寒武里  
亞紀層ニシテ之ヲ被  
覆シテ含炭層アリ、含  
炭層ハ石炭紀層ト思  
惟スヘキモノニシテ

頁岩及砂岩ヨリ成リ石灰岩ヲ挾ミ南方ハ時代未詳ノ蠻岩ニヨリ被覆セラレ東方ハ沖積平地ニ没ス、褶曲若クハ斷層多ク層向區々ナレトモ概シテ南西ニ走リ向斜層及背斜層ヲナス、傾斜ハ急ナラスシテ約二十度ヲ普通トス、一大斷層藩家屯ノ近傍ヲ通過ス、三炭層アリ、上部層ハ厚サ一尺乃至四尺、下部二層ハ一尺ヨリ十尺以上ニ達スルモ時ニ數寸ニ縮迫スルコトアリ、石炭ハ主ニ北部炸子窰ノ南西ニ稼行セラル、炭層ハ厚サ二尺乃至四尺、一尺乃至三尺及一尺乃至三尺ノ三層ニシテ北方ニ傾斜ス、南部王家屯ニ於テハ地層ハ南方ニ急斜シ炭層ノ厚サ甚タ薄シ、唐家屯ノ西ニハ厚サ約一尺ノ二炭層アリテ互ニ相接近シ相互ノ距離僅ニ數尺ナリ、炭田ノ區域小ニシテ地層亦擾亂シ炭量ハ大ナラサルヘシ

石炭ハ隨所甚タ性質ヲ異ニシ時ニハ半無煙炭ニ屬シ時ニ有煙炭ナリ、甚タ脆弱ニシテ粉炭トナリ易ク又夾ミヲ含有スルコト多クシテ之ヲ選出スルコト容易ナラス、分析ノ結果次ノ如シ

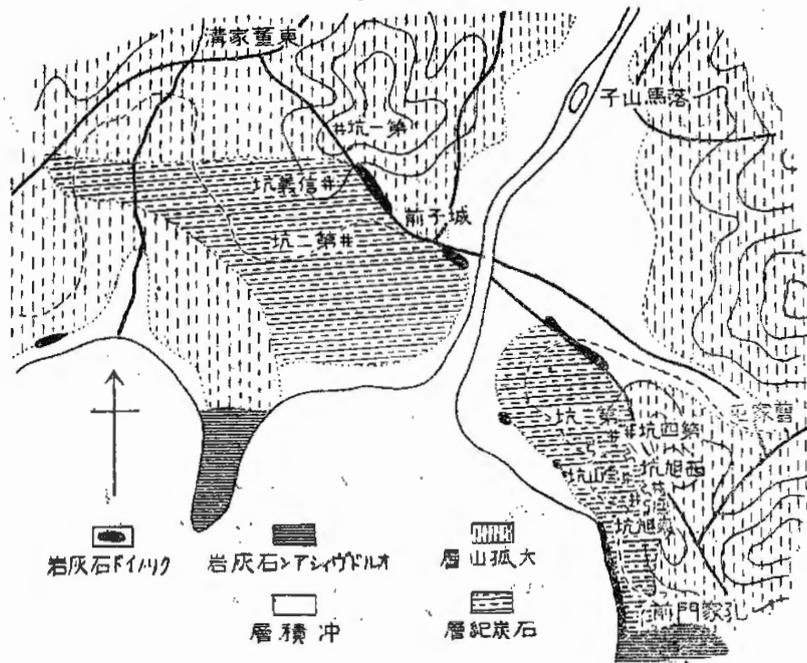
水	揮發物	固定炭素	灰	硫	黄	比	重	發熱量		性質	種類
								カロリー	英國熱單位		
一七二	三二五	五三、七八	一一、〇〇	三、六九	一、四〇九	六三八〇	一一、四八四	少シク	粘結ス	第三類	
一三七	一一、四四	七九、二九	七、〇〇	〇、六六	一、四九八	六七二〇	一一、〇七八	粘結セス		第二類一	
三、四三	三三、六一	三四、六八	三八、二八	〇、五五	一、六一四	四、四〇〇	七、九二〇	全		第三類	
三、三四	三三、七四	三七、四七	二三、四五	〇、九二	一、四六三			全		全	
一、五四	三四、八二	五四、七四	八九〇	二、九二	炭素 七四、〇九 水素 四、四二 酸素 八、三九					全	

### 煤 窰 炭 田

煤窰炭田ハ金州ノ東南東約二十六七基米ニアリテ小窰溝ノ北岸孔家門ニ近キ煤窰ニ位ス、本炭田ハ往昔朝鮮人稼行シ約四十五年前再興セラレタルモ爾後興廢常ナク一昨年一時中止シ目下再興ノ企圖アリ、基盤ハ大孤山層ニ屬スル硅岩及石灰岩ナリ、厚層ノ石灰岩ハ「オルドヴィシアン」紀ニ屬スルモノナルヘク南部ニ露出シ南々西三四十度ニ傾斜ス、含

第三圖  
煤 窰 炭 田

縮尺五萬分之一



炭層ハ頁岩及砂岩ヨリ成リテ石灰  
 岩ヲ挾ミ石炭紀ニ屬スルモノナル  
 ヘシ、層向ハ北方ニハ北西ナルモ南  
 方ニハ南北ニ轉シ西方三十度ニ傾  
 斜ス、三炭層アリテ延長約一、五基米  
 ナリ、炭層ノ厚サハ區々ニシテ概シ  
 テ三尺以下ナルモ最下層ハ膨大シ  
 テ十二尺ニ達スルトコロアリ、總厚  
 六尺ナリト云フ、面積ハ小ニシテ炭  
 量大ナラサルヘク概算三百五十萬  
 噸ナリト云フ  
 石炭ハ黑色ニシテ光輝アル半無煙  
 炭ニ屬シ粘結セス、質脆弱ニシテ容  
 易ニ粉碎ス、分析ノ結果次ノ如シ

水	揮發物	固定炭素	灰	硫	黃	比	重	發熱量		種類
								カロリー	英國熱單位	
五、七八	一三、三三	七四、五七	六、三三	〇、六二	一、四一八	七、六一三	一三、七〇三	第二類一		
四、四三	九、九〇	八〇、九七	四、七〇	〇、七六	一、四四二	七、六五三	一三、七七五	第一類二		

一、遼陽奉天間以東ノ炭田

遼陽、奉天間以東ニハ數多ノ炭田アリテ其數二十ヲ下ラサルヘク古層上ニ盆地ヲナス、長城ニ依リ之ヲ二ニ區別ス

(一) 長城以西ノ炭田

長城以西ノ炭田ハ省ノ中部ニアリテ煙臺、本溪湖等ノ炭田ヲ包括ス、是等炭田ハ殆ント東西線上ニ排列シ之ヲ東方ニ延長スレハ長城以東ニ於ケル炭田亦其上ニアリ、前述セルカ如ク炭田ハ片麻岩又ハ支那層ノ如キ古層ノ盆地上ニ各別ニ沈積セルモノナルヤ或ハ連續シテ沈積セルモノ、爾後ノ浸蝕ニヨリ現時ノ如ク隔離セルモノナルヤ未タ明ナ

ラサレトモ現ニ隔離セル幾多炭層中ニハ嘗テ連續セルモノ、浸蝕作用ニ依リ分離セラレタルモノアルヘシ、便宜上是等炭田ヲ煙臺炭田、五湖嘴區域、小市炭田及城廠區域ニ區別ス

### 煙臺炭田

煙臺炭田ハ遼陽ノ北東約二十六基米ニアリテ南滿洲鐵道煙臺停車場ノ東方約十二基米ニ位シ煙臺停車場ヨリ本炭田ニハ支線ノ敷設アリ、本炭田ハ唐時代ニ開發セラレタリトモ云ヒ近年露西亞人ニ依リ稼行セラレタリ、日露戰爭後南滿洲鐵道會社ノ有ニ歸シ現時一ヶ月ノ產出額ハ三千噸ナリト云ヒ千九百十年ニハ二萬七千七百二十八噸、千九百十一年ニハ三萬九千三百二十六噸ヲ產出セリ、炭田ハ波狀ノ丘陵地ニシテ東方ニハ支那層ヨリ成レル山嶽屹立シ北方ニハ圓錐形ノ磨臍山孤立シ其南ハ次第ニ低ク尖子山、饅頭山、櫃子山ヨリ大窰ノ黃土高原ニ沈ミ再ヒ南方ニ支那層ヨリ成レル五頂山トナリ屹立ス、中部ニアル櫃子山ヨリ南々西ニ分岐スルモノハ中部ニ次兒山アリテ直ニ波狀ノ黃



北部區域ハ北方磨臍山ヨリ南方大峪溝ニ至ル丘陵山脈ヲ包括シ地層向斜層ヲナス、南部區域ハ大峪溝ノ南ニアリテ其面積小ナルモ亦向斜層ヲナシ北部區域ニ連續セルカ如シ、基盤ハ支那層ニ屬スル厚層ノ石灰岩ヨリ成ル、南部ニアル五頂山ハ支那層ニ屬スル石灰岩ヨリ成リ大斷層ニ依リ夾炭層ト隔離シ北西及東部ノ山地ハ支那層ニ屬スル石灰岩及角岩ヨリ成ル、之ヲ被覆セル石炭紀層ハ之ヲ下部層、夾炭層、上部層ニ區別ス、下部層ハ頁岩、砂岩ノ互層ニシテ石灰岩ヲ挾ミ上部層ハ主ニ砂岩ヨリ成リ頁岩ヲ挾ミ夾炭層ハ上下部層ノ間ニアリテ砂岩、頁岩ヨリ成リ下部ニ石蓮蟲石灰岩アリ、本層ハ之ヲ上下二層ニ區別ス、下層ハ主ニ頁岩ヨリ成リ砂岩ヲ挾ミ十三ノ炭層頁岩中ニ介在ス、炭層中主要ナルモノハ三層ニシテ厚サ各約五尺ナリ、厚層ノ黄土ハ丘陵ノ麓ニ堆積シ炭層ノ露頭ハ處々ニ之ヲ檢スルヲ得ルノミ、上層ハ頁岩、砂岩ノ互層ニシテ砂岩ハ頁岩ヨリ厚シ、炭層三アリ、中一層ノ二尺乃至五尺ナルモノ稼行ニ堪フ、南部區域ニ於テハ上層ハ全ク浸蝕セラレタリ、層向ハ

一般ニ約南北ニシテ前述セルカ如ク中部ニ向斜層ヲナス、傾斜角ハ區々ニシテ露頭附近ニハ寧ロ急ナルモ向斜層ニ近ツクニ隨ヒ次第ニ緩トナリ遂ニ約水平層ニ變ス、十六炭層中上層ニ於ケル二層、下層ニ於ケル四層ハ一般ニ稼行ニ堪ヘ其平均厚サハ上部ヨリ之ヲ記スレハ上層ニアルモノ七寸、二尺乃至五尺、下層ニアルモノ二尺二寸乃至四尺五寸、二尺、五尺乃至六尺及五尺ナリ、北部區域ニハ一尺以上ノ炭層ノ總厚ハ二十五尺ヲ、南部區域ニハ十八尺ヲ下ラサルヘシ、炭層賦存ノ區域ハ四平方基米ニシテ之ニ依リ炭量ヲ計算スルニ概算四千萬噸ヲ得タリ石炭ハ主ニ半無煙炭ニ屬シ質甚タ脆弱ニ塊炭量ハ百分中二十乃至三十ナリ、分析ノ結果次ノ如シ

全	第二層	水	揮發物	固定炭素	灰	硫黃比	重	發熱量		種類
								カロリー	英國熱單位	
一、一四	〇、八九		一四、〇三	七二、二九	一三、七九	〇、四八	一、四一四	—	—	第二類一
一一、三四				七九、六二	七、九〇	〇、五一	一、三二八	六、二七	一一、二八六	第一類二

第十三層	第十二層	全	第九層	全	全	第七層	全	全	全	全	第三層
三、五八	三〇一	〇、七七	二、五九	一、六〇	一、四三	一、二二	一、六五	一、〇四	〇、九〇	〇、八五	〇、八六
八、三三	一〇、一六	一一、一一	八、一四	一一、九六	一四、四六	一三、五五	一〇、八九	一一、七九	一四、一九	一三、八八	一三、一〇
八五、一四	七四、二三	八二、七三	五三、四七	七四、四九	七四、二六	七二、六五	八〇、六二	六七、六三	七四、九七	七五、七〇	七二、四二
二、九五	一一、六〇	四、三九	一六、八〇	一一、九五	九、八五	一一、六八	六、八四	一九、五六	九、九四	九、五七	一三、六二
〇、六七	三、一〇	〇、八一	五、五九	〇、六八	一、〇五	一、五九	〇、四九	〇、四五	〇、四一	〇、四二	〇、五二
—	—	一三、三三	一、四七一	一、三〇七	一、四〇一	一、三九四	一、三六二	一、四三八	一、三九〇	一、四一一	一、四三五
—	—	六、七一〇	—	—	—	—	六、〇五〇	—	—	—	—
—	—	一一、〇七八	—	—	—	—	一〇、八九〇	—	—	—	—
第一類二	全	第二類一	第一類二	全	全	第二類一	第一類二	全	全	全	第二類一

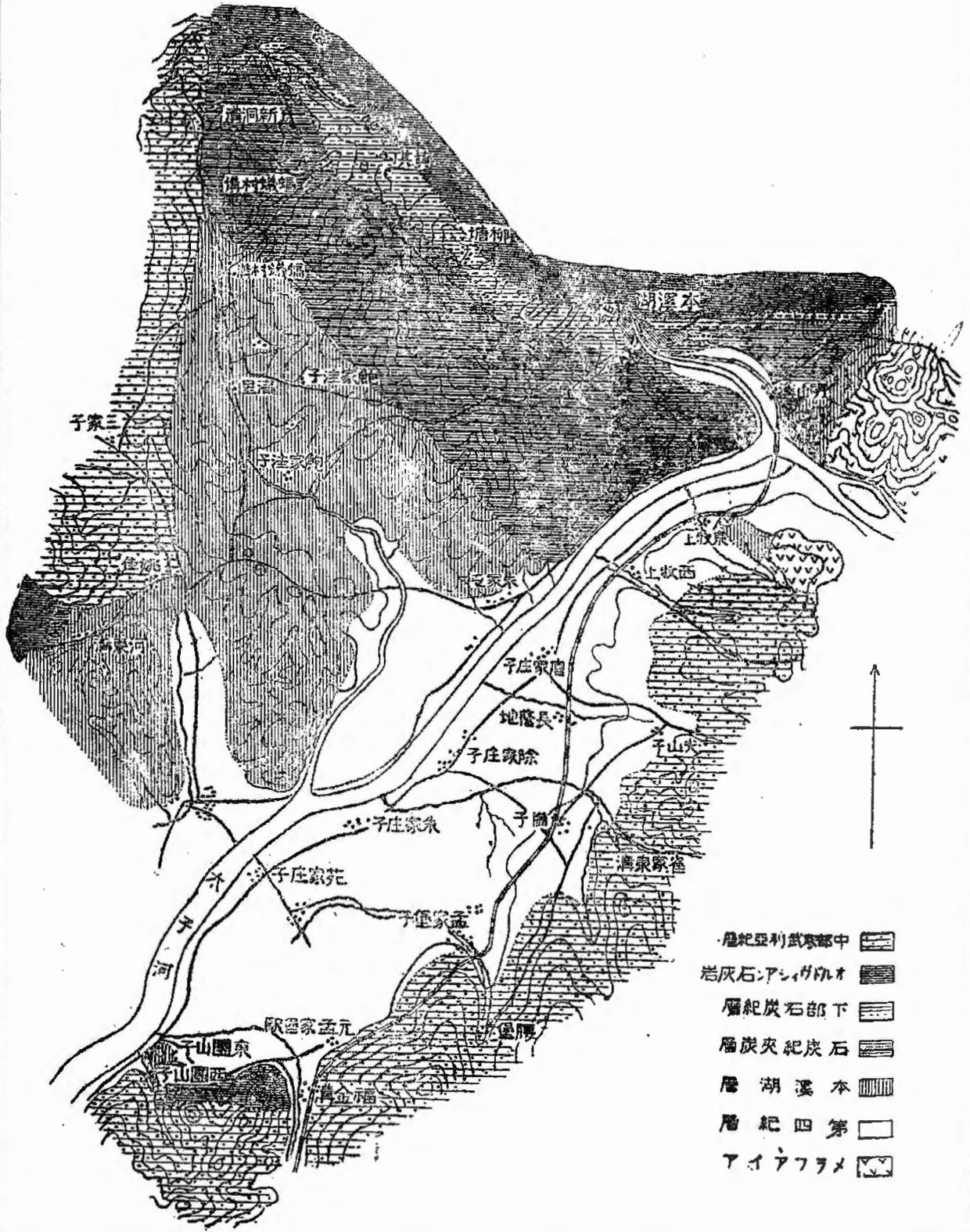
本溪湖炭田 遼陽ノ東方約六十五基米ニアリ、鐵道ハ炭田ノ西部ヲ

本溪湖區域

全	〇、七八	一一、七〇	五六、〇四	三三、四八	二二、一一	一一、四四五	五、九四〇	一〇、六九三	全
全	一、九六	一二、八四	六五、四六	一九、七四	〇、四四	一一、五〇六	五、八三〇	一〇、四九三	第二類一
全	〇、九〇	一〇、五〇	八四、四八	四、一二	二、二二	一一、三四二	六、六〇〇	一一、八八〇	第一類二
全	〇、九五	一四、〇八	六二、四八	二二、四九	五、二二	一一、四一八	五、七二〇	一〇、二九六	第二類一
全	一、三三	一〇、四四	八〇、〇二	八、二二	三、〇五	一一、四三三	—	—	第一類二
全	〇、六一	一〇、六一	六一、二二	二七、五六	一、六七	一一、六六二	五、八三〇	一〇、四九三	第二類一
第十六層	〇、七六	一〇、七七	七七、六五	一〇、八二	〇、九八	一一、三三七	六、四九〇	一一、六八二	第一類二
第十五層	〇、九二	一〇、六〇	七五、三六	一三、一二	四、三三	一一、三八八	五、八三〇	一〇、四九三	全
全	四、一九	一一、八七	七五、二〇	八、七四	二、四二	—	—	—	全
第十四層	〇、八〇	一四、〇〇	七五、七四	九、四六	〇、五三	一一、四四三	—	—	第二類一

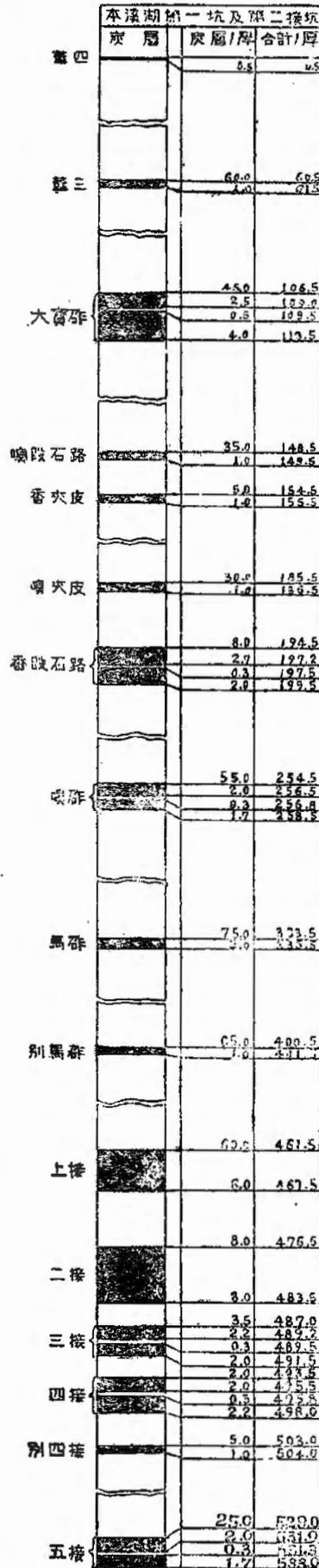
# 第五圖 本溪湖炭田

縮尺七萬五千分之一



通過シ交通便ナリ、本炭田ハ數百年前ニ開發セラレ千八百二十年ヨリ千八百五十年ニ至ル間盛ニ稼行セラレ開發後ノ出炭額ハ三百萬噸ヲ超エサルヘシ、近年ニ於ケル年産出額ハ六千噸乃至三萬噸ノ間ニアリシモ現今ハ増加シテ一日約五百噸ヲ産出シ近キ將來ニ於テハ年五六

第六圖



十萬噸ヲ産出スルノ設備ヲ了スヘシト云フ、炭田ハ高サ約六米ノ波状ノ臺地ニシテ北西ヨリ南東ニ走り南西ハ太子河ニ沈メリ、中部寒武里亞紀層ハ炭田ノ西部及太子河ノ南西部ヲ構成シ粘板岩、砂岩、珪岩及石灰岩ヨリ成ル、「オルドヴィシア」紀ニ屬スル厚層ノ石灰岩ハ炭田ノ北部ニ

アリ、含炭層ハ以上ノ諸岩層ヲ被覆ス、其埋藏スル植物化石ニ依リテニ  
疊石炭紀ニ屬スルヲ知レリ、厚層ヲナセル砂岩、頁岩及蠻岩之ヲ被覆ス、  
本層ハ二疊紀ニ屬スルモノナルヘキモ兩者ノ間ニ不整合ヲ見ス、含炭  
層ハ之ヲ上、中、下ノ三部ニ區別ス、上部層ハ主ニ砂岩ヨリ成リ頁岩ヲ挾  
ミ下部層ハ頁岩、砂岩及石灰岩ヨリ成ル、中部層ハ即チ夾炭層ニシテ頁  
岩、砂岩ヨリ成リ最下部ニ石蓮蟲石灰岩ヲ挾ミ十六炭層ヲ埋藏シ厚サ  
五百五十尺ニ達スト云フ、斷層ハ其數甚タ多キモ皆小ニシテ稍大ナル  
モノハ落差四十尺乃至六十尺アリ、炭田ノ東端及西端ハ之ニ依リ切斷  
セラル、層向ハ概ネ北西又ハ西北西ナレトモ東西ノ兩端ニ於ケル大斷  
層附近ニハ東方又ハ北東ニ彎曲ス、傾斜ノ角度ハ區々ナレトモ一般ニ  
二三十度ニシテ兩端ノ斷層附近ニハ五六十度、時ニ直立スルコトアリ、  
夾炭層ハ亦炭田ノ南部及南西部ニ露出シ南部ニ於テハ地層ハ北々東  
ニ急斜シ南西部ニ於テハ北々西ニ走リ殆ント直立ス、十六炭層中八層  
ハ稼行スルヲ得ヘシ、厚サハ上部ヨリスレハ七尺内外、五尺、四尺、二尺、六

尺、八尺、四尺五寸、四尺五寸ナリ、就中第三層、第七層、第八層及第十二層ハ現時主ニ稼行セラル、モノタリ、炭層ハ兩端ノ斷層ノ附近ニ於テ甚シク擾亂セラレ且ツ破碎セラル、モ中部ニハ變動少ナク好ク發達シ炭質亦良好ナルモ尙斷層アリテ出水亦多シ、厚サハ隨所同シカラスシテ十尺以上ニ膨大スルコト少ナカラス、現時稼行セラル、四層ノ總厚ハ十八尺五寸ヲ下ラサルヘク八層ヲ數フレハ總厚四十尺ニ達シ若シ夫レ一尺以上ノ炭層ヲ加フレハ四十五尺ヲ超過スヘシ石炭ハ半無煙炭ニ屬シ質脆弱ニシテ塊炭ヲ得ルニ難キモ能ク粘結シ良好ノ骸炭製造ニ適ス、分析ノ結果次ノ如シ

全	第一層	第二層	水	揮發物	固定炭素	灰	硫	黃	比	重	發熱		種類
											カロリー	英國熱單位	
全	〇、六四	〇、八一	二二、三七	二二、三九	六二、五七	一六、四〇	〇、六五	〇、六五	—	—	—	—	第二類二
全	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	全
全	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	全

全	第七層	第五層	第四層	全	全	全	全	第三層	全	全	全
〇、七二	〇、九一	一、一六	〇、七六	二四、〇二	〇、六六	〇、六九	一九、七九	〇、七九	〇、五六	二一、四八	〇、五六
二二、五七	二二、五八	二二、九七	二五、七三		二二、〇六	二二、七〇		二五、七〇	二二、三六		二二、三八
六三、三二	六七、〇四	六七、七三	六三、六六	六九、四五	七〇、八〇	七二、〇三	六九、一七	六二、六九	六七、二八	六五、九二	六九、〇〇
八四〇	八四七	八一四	九八五	六、五三	六、四八	五、五八	一一、〇四	一〇、五五	九、八〇	一三、六〇	七、〇六
一、一五	〇、五八	一、七八	〇、六九	〇、七〇	一、一一	〇、四五		〇、五七		一、四五	〇、四八
一、三四一						一、三一九					
七一五〇						七二、六〇					
一二、八七〇						一三、〇六八					
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全

全	一、二二	二四、三一	四七、四八	二七、〇〇	〇、九五	一、五六二	—	—	全
全	〇、八四	二二、四九	七二、三三	四、三四	二、九五	一、三一九	七、一五〇	一、三八七〇	全
第十二層	二七、一〇	—	六三、〇二	九、八八	一、二四	—	—	—	全
第九層	一、〇七	二二、六五	六九、九九	一〇、二九	一、二六	—	—	—	全
全	二四、〇〇	—	七〇、三七	五、六三	一、〇九	—	—	—	全
全	〇、七一	一九、三四	六八、三七	一一、五八	〇、六一	一、三八九	六、九三〇	二、四七四	全
第八層	一、〇二	一六、六四	六九、二三	一三、一二	〇、七〇	—	—	—	全
全	二二、五〇	—	六四、四〇	一三、一〇	二、二六	—	—	—	全

炭田ノ面積ハ東西ノ延長約六基米ニシテ幅六千尺乃至九千尺ナリ、地層ノ擾亂セル東西ノ地域ヲ除キ一萬五千尺ノ間ハ安全ニ稼行炭層ヲ埋藏スルモノト思考スルヲ得ヘシ、深サハ之ヲ推測スルニ難キモ地層ノ平均傾斜ヲ二十三度トシ幅六千尺ノ間ハ稼行スルコトヲ得ヘシ、八

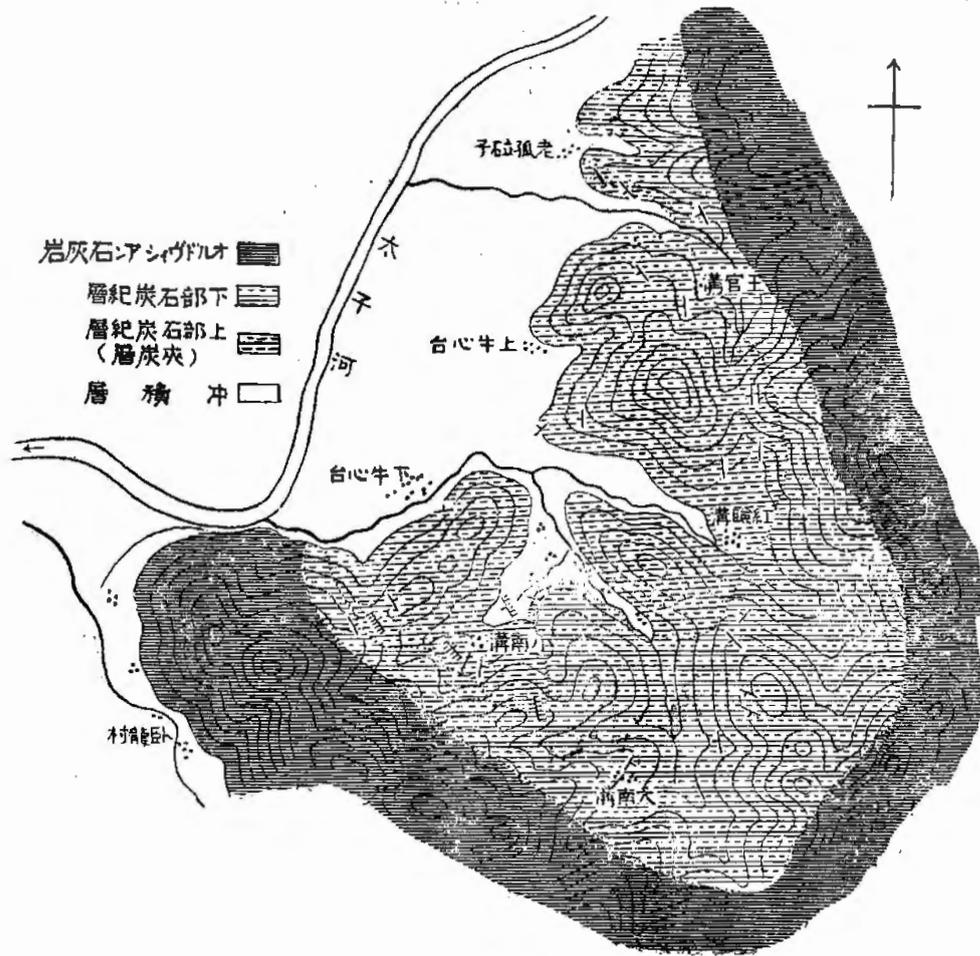
炭層ノ總厚ハ四十尺、一尺以上ノ炭層ノ厚サハ四十五尺ヲ下ルコトナカルヘク之ニ依テ炭量ヲ概算セルニ第一種千五百萬噸、第二種一億八千萬噸ナリ

五湖嘴停車場ノ南ニアル次驛孟家停車場ニ近ク團子山ニハ小規模ニ石炭ヲ稼行シ五湖嘴停車場ノ北方ニアル次驛石橋子ノ南東約十一基米ノ紅旗洵ニ於テハ小規模ニ石炭ヲ稼行シ一日ノ產出額僅ニ二噸内外ナリ、石炭ハ有煙炭ニ屬シ粘結ス

牛心臺炭田ハ本溪湖ノ東方約二十基米、太子河ノ南方ニ位シ本溪縣ニアリ、石炭ハ現時相隣接セル小南溝、老煤洞、紅臉溝、王官溝ノ諸村ニ於テ稼行セラレ殊ニ紅臉溝、王官溝ニ於テハ採掘稍盛ナリ、本炭田ハ數百年前ニ開發セラレ千六百六十年以降連續稼行セラレ千八百七十六年ニハ稍盛ニシテ一日三百六十噸ヲ產シ開發以來採掘セラレタル炭量百二十三萬六千噸ナリト云フ、現時一日約六十噸、一年約二萬噸ヲ產出ス、本炭田ハ北西部ハ太子河ノ平野ニ臨ミ三面ハ「オルトヴィシア」紀石

第七圖

牛心臺炭田  
縮尺十萬分之一



灰岩ノ山地ニ依リ圍繞セラレ半圓形ノ臺地ヲナス、含炭層ハ「オルドヴィシア」紀石灰岩ノ盆地上ニ沈積シタルモノニシテ砂岩、頁岩ヨリ成リ火山岩ノ岩脈之ヲ貫キテ噴出ス、層位上并ニ古生物學上ノ調査ニ依リ推測スルニ本炭田及本溪湖炭田ハ嘗テ相連續セルモノニシテ浸蝕作用ノ爲メ現時ニ

於ケルカ如ク相分離セルカ如シ、含炭層ハ之ヲ下部層并ニ夾炭層ニ區別シ兩層ノ間ニ石蓮蟲石灰岩アリ、下部層ハ頁岩、砂岩ヨリ成リ二層ノ石灰岩ヲ挿間シ南東部ニ廣キ地域ヲ占ム、夾炭層ハ頁岩、砂岩及蠻岩ヨリ成ル、砂岩ハ上部ニ厚ク頁岩ハ下部ニ厚ク炭層ヲ挾有ス、炭層ノ數ハ未タ悉ク調査セラレサルモ十層ヲ下ラス、内近年稼行セラル、モノハ僅ニ三四層ナリ、下部層ハ大南溝附近ニハ約南北ニ走リテ褶曲シ又數多ノ斷層アリ、北東及南西側ニハ地層ハ炭田ノ中部ニ向ヒ急斜ス、夾炭層ハ一般ニ炭田ノ中央ニ向ヒ傾斜スレトモ小南溝ノ一部ニ於テハ局部ノ地層ノ變動アリ、傾斜ノ角度ハ區々ニシテ石炭ノ稍盛ニ稼行セラレタル紅臉溝ニ於テハ二三十度ナリ、炭層ノ數ハ隨所異ニシテ厚サ又大差アリ、即チ下牛心臺ニ於テハ六層ハ上部ヨリ之ヲ數スレハ厚サ四尺乃至七尺、一二尺、一二尺、二尺乃至五尺、三尺乃至五尺及一二尺ナリ、松樹嶺ニ於テハ一二尺、一尺乃至四尺、三尺乃至十尺、二尺乃至四尺、一尺乃至四尺、一二尺、一尺乃至四尺、四尺乃至十尺、一尺乃至四尺及一尺ナリ、紅

臉溝ニ於テハ一二尺、三四尺、二尺乃至四尺、二三尺、三尺乃至九尺、二尺五寸、一尺、王官溝ニ於テハ一二尺、三四尺、二尺乃至四尺、二三尺、二尺乃至七尺、二尺乃至五尺及七八寸ナリ、而シテ以上炭層相互ノ關係ハ未タ明ナラサルモノアリ、石炭ヲ埋藏セル面積ハ約三平方基米ニシテ總厚二十尺ヲ下ラス、之ニ依テ炭量ヲ概算スルニ約二千五百萬噸ナリ、石炭ハ無煙炭ニ屬シ粘結セス、質脆弱ニシテ容易ニ粉炭ニ破碎ス、又火山岩ノ岩脈ノ爲ニ貫通セラレ爲ニ燬石ニ變質セルノミナラス亦甚シク粉碎セラル、分析ノ結果次ノ如シ

水	揮發物	固定炭素	灰	硫	黃	比	重	發熱		種類
								カロリー	英國熱單位	
五、六一	六、九三	七、八、四二	九、〇四	〇、八八	一、六六五	—	—	—	第一類	
〇、八二	一〇、七五	八、一、九二	六、五二	二、六〇	一、三九三	六三八〇	一一、四六四	全	全	
一、一九	七、一六	七、三、七一	一七、九四	二、〇七	一、四九三	五、七二〇	一〇、二九六	全	全	
〇、四二	七、六三	七、六、一一	一五、八四	三、一四	一、四五七	五、三九〇	九、七〇二	全	全	

二、二	八、八〇	六九、五四	一九、四六	〇、一〇	一、五九二	三、八五〇	六、九三〇	全
五、六一	六、九三	七、八〇二	九、〇四	〇、八八	一、六六五			全

窰子峪及前廠子炭田 窰子峪ハ牛心臺炭田ノ北約十基米、前廠子ハ同  
 炭田ノ西約五基米ニアリテ互ニ相隣接ス、本炭田ノ石炭ハ十七世紀ニ  
 發見セラレタリト云ヒ二十年前稍盛ニ稼行セラレタルモ排水困難ノ  
 爲メ漸次衰頽シ窰子峪ニ於ケル炭坑ハ現時廢棄セラレタリ、地質ハ牛  
 心臺炭田ト全ク相同シ、而シテ上部寒武利亞紀層中部ニアリテ炭田ヲ  
 二分シ東ニアルハ窰子峪炭坑、西ニアルハ前廠子炭坑トス、含炭層ハ甚  
 シク擾亂シ窰子峪ニ於テハ層向ハ概シテ約南北ニシテ西二十度ニ、前  
 廠子ニ於テハ北七十度西ニシテ南西三十度ニ傾斜ス、炭層ニアリ、窰子  
 峪ニ於テハ薄ク厚サ僅ニ五六寸ニシテ前廠子ニ於テハ一尺ヨリ二尺  
 五寸ノ間ニアリ、炭田ノ區域小ニシテ炭量多カラス、石炭ハ半無煙炭ニ  
 屬シ粘結セス、分析ノ結果次ノ如シ

小市炭田

水	揮發物	固定炭素	灰	硫	黄	比	重	發熱量		種類
								カロリ	英國熱單位	
〇、三〇	二七、〇五	五六、八三	一五、八二	二、七二	一、三四九	六六〇〇	一一、八八〇	第二類	二	
〇、七	二八、五七	六〇、二〇	一〇、五〇	六、八〇	一、四〇六	六九三〇	一二、四七四	全		
一、七六	二三、九	五三、七四	二〇、五八	九、六三	一、七二七	六〇五〇	一〇、八九〇	全		

小市ハ本溪湖、城廠間ノ略中部、太子河ノ支流淌河ノ河畔ニ位ス、玆ニ小市炭田ト稱スルハ十六平方基米ノ區域内ニ散在スル炭坑ヲ包括ス、即チ謝家威子、廟溝、馬皮匠溝、上山城寨、泉水河子、祁家堡子、長嶺子、山城溝、袁家窩棚、大岔溝等ノ炭坑是ナリ、本炭田開發ノ時代ハ明ナラサレトモ百餘年前ナリト云フ、現時六炭坑小規模ニ稼行シ一年一千噸ヲ產出ス、炭田ハ丘陵地ヲナシ太子河及其二支流ニ沿ヒ稍廣キ平原アリ、上部寒武利亞紀層ハ最モ廣ク分布シ「オルドヴィシア」紀層ハ北西部ヲ花崗岩ハ南部ヲ限レリ、石炭紀層ハ寒武利亞紀層及「オルドヴィシア」紀層ヲ被覆シ之

第八圖

小市炭田



ヲ上、中、下ノ三部  
ニ區別ス、下部層  
ハ輝綠凝灰岩、頁  
岩及砂岩ヨリ成  
リ上部層ハ主ニ  
砂岩ニシテ頁岩  
ヲ挾メリ、中部層  
ハ即チ夾炭層ニ  
シテ主ニ砂岩ヨ  
リ成リ頁岩ヲ挾  
ミ七炭層ヲ埋藏  
ス、炭層ハ其發達  
隨所異ニシテ全  
炭田ヲ通シ悉ク

之ヲ檢スルヲ得ス、地層ハ甚シク擾亂セラレ褶曲及斷層少ナカラス  
 謝家威子炭坑ハ小市ノ北西ニアリテ廟溝炭坑ハ其南ニ隣接ス、地層ハ  
 謝家威子ニ於テハ南々西四十度乃至七十度、廟溝ニ於テハ北方若クハ  
 北西五十五度ニ傾斜シ一向斜層ヲナス、七炭層中二層ハ厚サ一尺乃至  
 一尺七寸、一層ハ三尺六寸ナリ、其他ノ炭層ハ甚タ薄クシテ通常一尺ニ  
 充タス、馬皮匠溝炭坑ハ小市ノ東ニアリ、厚サ約一尺ノ三炭層南々西七  
 八十度ニ傾斜ス、上山城寨炭坑ハ太子河ノ北ニアリテ厚サ約一尺ノ三  
 炭層北西ニ走リ南西十度乃至二十度ニ傾斜ス、泉水河子炭坑ハ太子河  
 ニ沿ヒ炭田ノ北東隅ニ位セリ、厚サ約一尺乃至一尺五寸ノ炭層五アリ、  
 層向傾斜ハ種々ナレトモ概シテ北四十度乃至七十度東ニ走リ北西二  
 十五度乃至五十度ニ傾斜ス、祁家堡子炭坑ハ泉水河畔ニ位ス、四炭層ア  
 リ厚サ概シテ一尺乃至三尺ニシテ北二十度乃至四十度西又ハ南北ニ  
 走リ東方ニ傾斜ス

炭田ノ中部ニ長嶺子、山城溝及袁家窩棚炭坑アリ、長嶺子炭坑ニハ傾斜

ハ北東四十五度ナルモ東方ニハ南北ニ轉ス、山城溝炭坑ニハ傾斜ハ約東方ナルモ南東ニハ漸次南方ニ彎曲シ袁家窩棚炭坑ニ於テハ南西十八度ニ傾斜ス、炭層五アリ、厚サ概ネ一二尺ナリトス石炭ハ無煙炭ニ屬シ粘結セサルモ時ニ粘結シ良好ナル骸炭ヲ生スルモノアリ、而シテ火成岩ノ爲メ一部燻石ニ變ス、分析ノ結果次ノ如シ

	水	揮發物	固定炭素	灰	硫黃比	重	發熱量		種類
							カロリー	英國熱單位	
廟溝	二、一五	六、五五	六二、二二	三〇、〇九	〇、五六	一、四九〇	六、四一七	一一、五五二	第一類二
泉水河千	一、〇二	三三、二六	七二、六二	四、一一	一、八七	一、三五〇	九、〇三三	一六、二五八	第二類二
全	八、五三	一五、〇四	六九、八八	六、五六	〇、三三	一、五八七	四、五六五	八、二二七	全
郝家堡子	八、七四	一、七二	八〇、七二	八、八三〇	〇、五〇	一、七四八	七、二二三	一三、〇〇一	第一類一
全	一、七四	八、五一	八五、四四	四、三〇	五、五〇	一、四三五	—	—	第一類二
山城溝	三、六七	六、五四	六一、七七	二八、〇二	〇、五一	一、四八〇	六、二四六	一一、二四三	全

全

二、六四

七〇一

八五、五八

四、七七

〇、五二

一、四四二

第一類一

### 城 廠 區 域

本區域ニ於テハ城廠ノ西ニ散在セル炭田ヲ包括シ現時稼行スルモノ  
三アリ

田子付溝炭田 ハ城廠ノ西約二十基米ニアリテ大堡、孔家堡子、全家堡  
子等ノ諸村ニ於テ稼行セラレ大堡ニ於ケルモノ稍盛ナリ、石炭ハ約九  
十年前ニ發見セラレ現時一日約三十噸、一年約六千噸ヲ產出スト云フ、  
基盤ハ灰色ノ石灰岩ニシテ含炭層之ヲ被覆ス、含炭層ハ之ヲ上、中、下ノ  
三部ニ區別ス、下部ハ褐色ノ砂岩、上部ハ褐色ノ蠻岩ヨリ成ル、中部ハ即  
チ夾炭層ニシテ頁岩、砂岩ノ互層ヨリ成リ中ニ石炭紀植物化石ヲ埋藏  
ス、層向ハ一般ニ北西ニシテ南西二三十度ニ傾斜スルモ炭田ノ西端ニ  
於テハ殆ント南北ニ彎曲シ西方二十度ニ傾斜シ其少シク南方ニハ東  
西ニ轉シ南方二十五度ニ傾斜ス、主要炭層ニアリ、厚サ上層約二尺、下層  
三尺五寸乃至四尺ナリ、炭層賦存ノ區域小ニシテ炭量又多カラズ、概算

僅ニ二百萬噸ナリト云フ  
 石炭ハ半無煙炭ニ屬シ質脆弱ニシテ塊炭ヲ得ルコト難ク南東即チ大  
 堡ニ於ケルモノハ粘結セサルモ北西即チ孔家堡子ニ於ケルモノハ粘  
 結シ骸炭ノ製造ニ適ス、分析ノ結果次ノ如シ

	水	揮發物	固定炭素	灰	硫 黃 比	重	發熱量		種 類
							カロリー	英國熱單位	
大堡	一、三〇	一一、一七	七〇、一〇	一一、三三	〇、三八	一、五三九	六〇五〇	一〇、八九〇	第二類二
孔家堡子	一、九五	一四、三五	七七、二三	六、五八	〇、九五	一、四九八	六、三三五	一一、三八五	全

後荒地及財子窰溝炭田 後荒地炭田ハ其北ニアル財子窰溝炭田ト相  
 隣接シ田子付溝炭田ノ北西約十三基米ニアリ、石炭ハ始テ千八百八十  
 八年ニ採掘セラレ現時一日約三十五噸ヲ產出スト云フ、地質ハ田子付  
 溝炭田ト相同シク其連續ト思惟スヘキモノナリ、層向ハ一般ニ北三十  
 度東ニシテ北西三十度ニ傾斜ス、一炭層アリ、厚サ約二尺ナリ、此外二三  
 層アリト稱セララル、モ明ナラス、炭田ノ區域小ニシテ炭量多カラス

石炭ハ半無煙炭ニ屬シ粘結ス、分析ノ結果次ノ如シ

水	揮發物	固定炭素	灰	硫	黃	比	重	發	種	
								熱		類
0.20	14.03	73.53	2.75	1.39	1.286	8,470	15,246	第二類	二	
								カロリ	英國熱單位	

## (二) 長城以東ノ炭田

長城以東ニ於テハ數多ノ炭田略東北東ヨリ西南西ノ方向ニ排列ス

### 四平街區域

四平街炭田 四平街ハ城廠ノ東約三十四基米、平頂山ノ南約二十基米ニアリテ交通不便ナリ、石炭ハ千八百七十五年ニ發見セラレ現時一日約十噸ヲ產出スト云フ、基盤ハ石灰岩ナリ、含炭層之ヲ被覆シ南部ヲ占ム、含炭層ハ頁岩及砂岩ヨリ成リ褶曲若クハ斷層少ナカラサルモ一般ニ北西ヨリ南東ニ走リ南西三十度ニ傾斜ス、二炭層中上層ハ厚サ一尺三寸、下層ハ四五尺ナリトス、面積小ニシテ炭量大ナラサルヘシ、石炭ハ

半無煙炭ニ屬シ粘結シ質脆弱ニシテ塊炭ヲ得ルコト難シ、分析ノ結果次ノ如シ

水	揮發物	固定炭素	灰	硫	黃	比	重	熱發量		種類
								カロリー	英國熱單位	
〇、九〇	二八、三〇	六四、九一	五、八九	二、八五	一、三二六	七五九〇	一三、六六二	第二類	二	

馬架子炭田 馬架子ハ四平街ノ西約一、六基米ニアリ、石炭ハ千八百九十七年ニ發見採掘セラレタルモ坑内水ヲ排出スルコト困難ナルヲ以テ廢棄セラレタリ、含炭層ハ四平街ニ於ケルカ如ク基盤ナル石灰岩ヲ被覆ス、一炭層アリ、厚サ約三尺ナリトス、石炭ハ粘結シ四平街ニ於ケルモノ、如ク骸炭ノ製造ニ適ス

木羅魚子炭田 木羅魚子ハ平頂山ノ東約二十八基米ニアリテ懷仁及平頂山ノ中間ニ位ス、本炭田發見ノ時代ハ明ナラサレトモ千八百七十九年再開セラレ直ニ廢棄セラレタリ、基盤ハ石灰岩ニシテ含炭層之ヲ被覆ス、含炭層ハ之ヲ他ノ炭田ト比較スルニ石炭紀ニ屬スルカ如ク頁

岩、砂岩ノ互層ヨリ成ル、炭田内炭層ノ好露出ナク坑内ハ既ニ敗類シテ之ヲ窺フコトヲ得ス、隨テ炭層賦存ノ状態明ナラス、石炭ハ半無煙炭ニ屬シ粘結ス、分析ノ結果次ノ如シ

水	揮發物	固定炭素	灰	硫黃	發熱量		種類
					カロリ	英國熱單位	
二、〇	一六、九	六二、二	一八、九	一、五	六、五〇四	一一、七〇七	第二類二

煤洞溝 ハ木羅魚子ノ南約六基米ニアリ、一炭層三十年間此地ニ稼行セラレ現時産出額甚タ僅少ニシテ一日僅ニ六噸ニ過キス、炭層ノ厚サハ二尺ナレトモ時ニ五六尺ニ達スルコトアリ

### 通化區域

石炭ハ通化ノ北東渾河ニ沿ヒ處々ニ露出シ無煙炭ニ屬ス、基盤ハ石灰岩ニシテ石炭紀ノ砂岩、頁岩之ヲ被覆ス、炭層ノ厚サハ區々ナレトモ一尺乃至十尺ヲ普通トス  
 三岔子炭田 ハ本區域ノ最北部ニアリテ通化ノ北東約八十基米、渾河

河畔ニ位シ運搬ニ不便ナラス、本炭田ハ千八百八十一年ニ開發セラレタルモ發見ノ時代ハ尙甚タ古キカ如シ、含炭層ハ砂岩、頁岩ヨリ成リ北東ニ走リ南東二十度ニ傾斜ス、稼行ニ堪フヘキ炭層ニアリ、上層ハ厚サ三四尺ニシテ下層ハ二尺ナリトス、延長ハ明ナラサレトモ層向ニ沿ヒ二千尺ハ之ヲ追跡スルヲ得ヘク炭量概算三百萬噸ナリ、炭質ハ劣等ニシテ灰分多シ

六道溝炭田　ハ三岔子ノ南ニアリテ通化ノ北東約四十基米ニ位ス、含炭層ノ上部ニ砂岩アリテ一石炭ヲ埋藏シ東南東ヨリ西北西ニ走リ北二十五度ニ傾斜ス、炭層ノ厚サハ五六尺ニシテ薄キ夾ミヲ有ス、延長明ナラサレトモ層向ニ沿ヒ約二千尺ハ之ヲ追跡シ得ヘシト云ヒ炭量概算百五十萬噸ト稱セラレ、石炭ハ半無煙炭ニ屬シ粘結シ骸炭ノ製造ニ適ス

鐵廠炭田　ハ通化ノ東北東約三十基米ニアリテ千八百八十五年以來稼行セラレ現時小規模ニ採掘セラレ、含炭層ハ約東西ニ走リ北方五十

度ニ傾斜ス、三炭層中下層ハ現時採掘セラル、モノニシテ厚サ十尺アルモ他ノ二層ハ薄ク且ツ品位劣等ナリ、炭層ハ層向ニ沿ヒ四千尺之ヲ追跡スルヲ得ヘク炭量概算四百萬噸ナリト云フ、石炭ハ半無煙炭ニ屬シ質甚タ脆弱ニシテ塊炭ハ百分中二十ヲ得ルニ過キサレモ能ク粘結シ骸炭ノ製造ニ適ス、分析ノ結果次ノ如シ

水	揮發物	固定炭素	灰	硫黃比	重	發熱量		種類
						カロリー	英國熱單位	
〇、四五	二四、六〇	五七、一五	一七、八〇	〇、四〇	—	六、〇五〇	一〇、八九〇	第二類二
一、二八	二〇、七〇	六六、四〇	一一、七〇	〇、五三	一四、二三	六、一六〇	一一、〇八八	全
一、一九	二六、五七	五八、三四	一三、九〇	〇、五四	一、二八七	七、二六〇	一三、〇六八	全
一、〇三	一一、四〇	六三、二六	一九、三〇	〇、五〇	一、六四五	五、五〇〇	九、九〇〇	全
四、二一	八、三〇	六九、六五	一七、九四	〇、四二	一、二二九	五、一七〇	九、三〇六	第一類二
三、三五	一六、四一	六六、三八	一三、八六	〇、四六	一、三九九	六、〇五〇	一〇、八九〇	第二類二

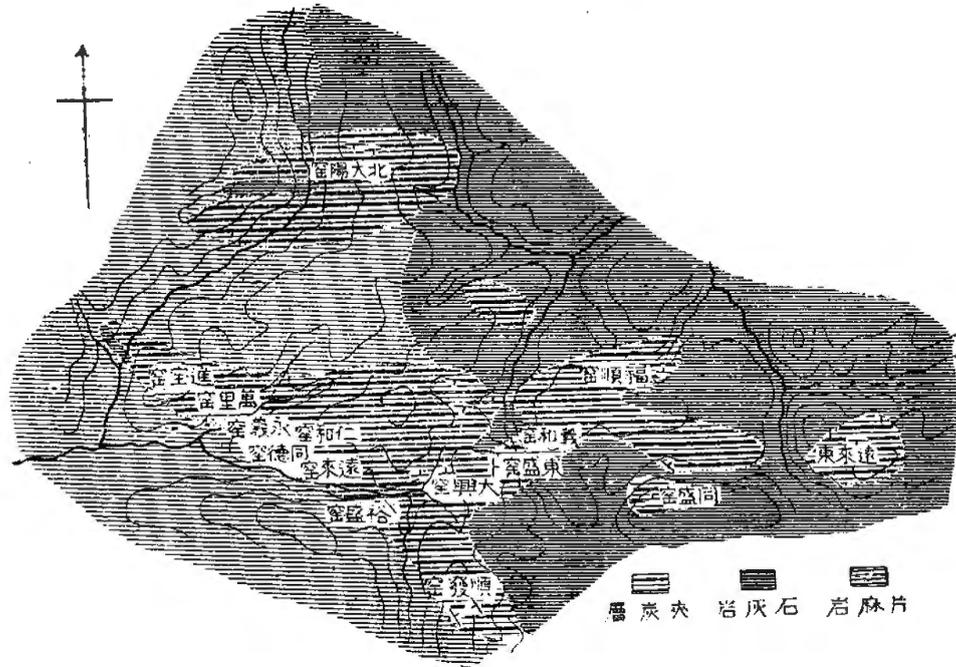
## 杉松崗炭田

杉松崗炭田ハ海龍廳ノ南東約六十五基米ニアリテ車馬ヲ通スルヲ得ヘシ、炭田ハ千八百八十九年迄ハ鬱叢タル森林ナリシモ同年農業ノ爲メ移住民之ヲ採伐シ其結果石炭ヲ發見スルニ至レリ、千八百九十六年四炭坑開掘セラレ現時ハ十炭坑ヲ數フルニ至レリ、開發以來ノ產出額ハ約十萬噸ニシテ現時一年二萬四千噸ヲ產出スト云フ、炭田ハ波狀ノ臺地ナルモ東方ニハ稍孤立セル山頂アリ、基盤ハ片麻岩系ニシテ主ニ黑雲母片麻岩ヨリ成リ綠泥片岩ヲ挾ミ北々西ニ走リ東北東ニ傾斜シ炭田ノ西半ヲ占有ス、「オルドヴィシア」紀ト思惟スヘキ石灰岩ハ片麻岩ヲ被覆シ數多ノ分離セル盆地ヲ形成ス、層向ハ一定セサルモ概ネ東西ニ走レリ、含炭層ハ砂岩及頁岩ノ互層ニシテ不整合ニ石灰岩ヲ被覆ス、其厚サ薄キヲ以テ察スレハ本層ハ沈積後浸蝕作用ノ爲ニ除去セラレタルカ如シ、而シテ其全ク除去セラレタル處ニハ下部ニアル石灰岩露出ス、層向傾斜ハ區々ナリ、炭層三アリ、内一層現ニ稼行セラル、炭田ノ西部

第九圖

杉 松 崗 炭 田

縮尺五萬分之一



ニハ地層ハ直ニ片麻岩上ニアリ  
 テ稍正シキ向斜層ヲナシ西北西  
 ニ走レリ、傾斜ノ角度ハ甚タ區々  
 ナレトモ露頭ニ近ク三十五度、坑  
 内ニハ六十度ナリトス、厚サハ一  
 尺乃至十尺ナルモ六尺内外ヲ普  
 通トス、炭田ノ東半ニ於テハ構造  
 ハ甚タ錯雜シ不規則ノ波狀ヲナ  
 セル地層ヨリ成ル二三ノ分離セ  
 ル盆地ヲ形成ス、更ニ東方ニハ三  
 ノ小區域アリテ石灰岩中ニ散在  
 ス、炭層ハ唯向斜盆地ニ近ク賦存  
 スルノミ、厚サハ寧口薄ク即チ一  
 尺乃至六尺ナリトス、北西ニ散在

セル區域ハ二ノ背斜層ヨリ成リ厚サ二三尺ノ炭層ヲ埋藏ス、石炭ノ最モ盛ニ稼行セラル、西部ハ延長四千二百尺、幅千二百尺乃至二千四百尺ヲ有シ炭量概算百萬噸ナリ、石炭ハ主ニ半無煙炭ニ屬シ粘結シ骸炭ノ製造ニ適ス、質甚タ脆弱ニシテ多量ノ塊炭ヲ得ルコト難シ、分析ノ結果次ノ如シ

種類	發熱量		灰	硫黃比	揮發物	水
	英國熱單位	カロリ				
第二類二	一一、八八〇	六、六〇〇	一四、四九	〇、七二	三三、二〇	一七、〇
全	一一、〇七八	六、七二〇	一〇、六二	〇、九三	二〇、五〇	一一、四
全	一一、三三二	六、二九〇	一七、三七	〇、六八	二五、六八	一一、四
第三類	一一、六八二	六、四九〇	一一、七八	一、〇二	三〇、三一	二〇、五
全	一一、八八〇	六、六〇〇	一〇、二〇	〇、八八	三〇、九四	一五、〇

半截河炭田 ハ海龍廳柳河縣ノ東北東約六十基米ニアリテ山城溝炭

田ノ西南西約二十六基米ノ地ニ位ス、近年ニ於ケル産出額ハ僅少ニシテ一年四千八百噸ナリ、石炭ハ無煙炭ニ屬ス、分析ノ結果次ノ如シ

水	揮發物	固定炭素	灰	硫黃比	重	發熱量		種類
						カロリ	英國熱單位	
一、四五	九、八三	八四、六一	四、一二	〇、八五	一、三〇一	六、〇五〇	一〇、八九〇	第一類
三、三九	六、三一	七二、七八	一八、八五	〇、七三	一、四六九	四、一八〇	七、五二四	全

其他ノ炭田

三道陽又炭田 三道陽又ハ懷仁縣ノ南東約四十五基米ニアリ、石炭ハ近時發見セラレ最近十年間採掘セラレタリ、産出額ハ僅少ニシテ一日僅ニ十八噸ニ過キス、含炭層ハ其區域小ニシテ砂岩及頁岩ノ互層ヨリ成リ北八十度東ニ走リ北方十二度乃至四十度ニ傾斜シ厚キ石灰岩ヲ被覆ス、一炭層アリ、厚サ一尺六寸ナリ、石炭ハ黑色ノ無煙炭ニ屬シ半金屬光澤ヲ有ス、質甚タ脆弱ニシテ粉炭ニ破碎シ易ク塊炭ノ量ハ僅ニ一割ニ過キス、分析ノ結果次ノ如シ

水	揮發物	固定炭素	灰	硫	黃	發熱量	種類
一、五	五、〇	七六、四	一六、二	一、三	七、二六三	英國熱單位	第二類一
						カロリー	
						一二、八九三	

夾皮溝炭田 夾皮溝ハ洞溝ノ北東約十五基米ニアリ、石炭ハ千八百九十五年ニ始メテ採掘セラレタルモ直ニ廢棄セラレタリ、含炭層ハ頁岩、砂岩ノ互層ニシテ其時代明ナラサレトモ石炭紀ニ屬スルモノナルヘシ、層向ハ北三十五度東ニシテ北西六十五度ニ傾斜ス

一莫樹炭田 ハ汪清邊門及懷仁間ノ街道ニ方リ汪清邊門ノ南約十五基米ノ地ニ位シ交通便ナリ、含炭層ハ石炭紀ニ屬スル砂岩及頁岩ヨリ成リ四五尺ノ一炭層ヲ介有ス、層向ハ北四十五度東ニシテ北西三十五度ニ傾斜ス、炭層賦存ノ區域小ナリ

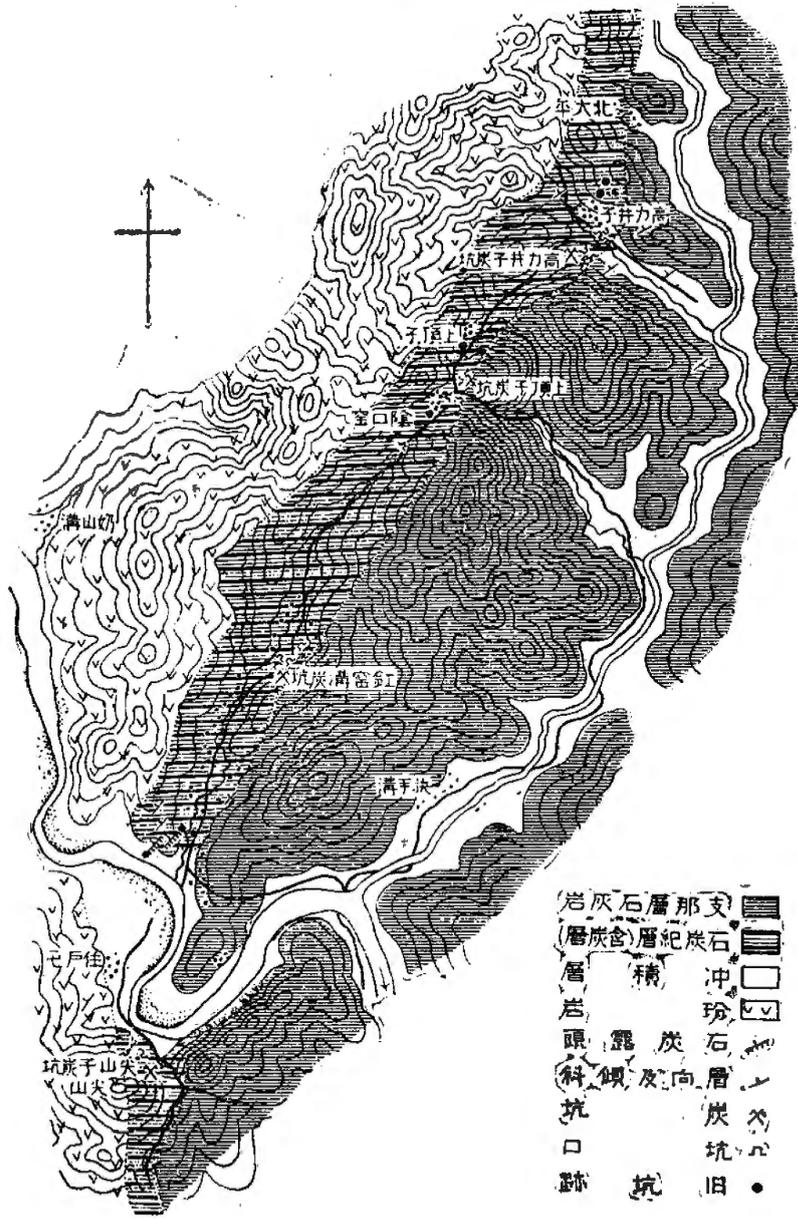
### (三) 錦州ノ西方ニアル炭田

錦州ノ西方長城ニ近ク南北ニ長ク分布スル數多ノ炭田アリテ其南部ハ直隸省ニ入レリ、含炭層ハ主ニ砂岩及頁岩ヨリ成リ上部ニ蠻岩ヲ挾

第十圖

釧路盆地炭田

縮尺五萬分之一



ミ厚キ石灰岩ヲ被覆ス、玢岩ハ含炭層ヲ貫キテ迸發シ炭田ノ北西部ヲ限レリ、地層ハ爲メニ擾亂シ岩石ハ接觸作用ヲ受ク、層向ハ概ネ北東ニシテ北西三四十度ニ傾斜スルモ時ニハ甚タ急斜スルコトアリ

釧路盆地炭田  
ハ北東ニ  
長キ盆地ヲ  
ナス、其延長  
約六基米ア  
リテ高力井  
子、上頂子、釧  
路溝、尖山子  
等ノ炭坑ヲ  
包括ス、本炭  
田ハ千八百

六十年開發セラレ現時一日約二十四噸ノ石炭ヲ採掘シ其大部分ハ錦州ニ輸送シ一小部分ハ薪炭ノ代用又ハ石灰爐ノ燃料トシテ其地方ニ於テ消費ス、含炭層ノ層向ハ概ネ三十度乃至五十度東ニシテ北西三四十度ニ傾斜スルモ北方ニハ約東方ニ彎曲シ北方ニ傾斜ス、二炭層アリ、上層ハ薄ク品位劣等ナリ、下層ハ目下稼行セラル、モノニシテ厚サ二尺乃至七尺ナリ、炭量概算約二百萬噸ナリトス、石炭ハ半無煙炭ニ屬シ粘結セス、其接觸作用ヲ受ケタルモノハ無煙炭ニ變セリ、分析ノ結果次ノ如シ

水	揮發物	固定炭素	灰	硫黃比	重	發熱		種類
						カロリー	英國熱單位	
三、二〇	一一、五〇	六三、五〇	二〇、八〇	九、八五	一、五九	六、一九八	一一、二五六	第二類一
一、二八	二九、〇〇	四七、〇二	三三、七〇	〇、一六	一、四一	六、〇二五	一〇、六四五	第三類
五、八〇	二二、六〇	四九、八〇	三三、八〇	三、一八	一、三四	—	—	第二類二
六、二五	二二、五〇	五六、〇五	一五、二〇	六、八七	二、三五	六、七五六	一一、二五九	全

二佛廟炭田 ハ 缸窰溝炭田ノ南西ニアリテ北東ニ狹長ナル區域ヲ占  
 メ延長四基米、幅半基米ナリ、六炭坑アリ、内石羊莊炭坑最モ大ニシテ平  
 地窰炭田之ニ亞ク、石炭發見ノ時ハ明ナラサレトモ千八百六十年ニハ  
 既ニ稼行セラレタリ、現時一日ノ產出額三十五噸ナリトス、含炭層ハ局  
 部ノ變動ノ爲メ層向傾斜種々ナルモ概シテ北五十度東ニ走リ北西三  
 十度ニ傾斜ス、二炭層アリテ厚サ一定セス、上層ハ概ネ厚サ二尺ニシテ  
 品位寧ロ劣等ナリ、下層ハ厚サ三尺乃至八尺ナリ、炭量概算三百五十萬  
 噸ナリト云フ、石炭ハ半無煙炭ニ屬シ粘結セス、分析ノ結果次ノ如シ

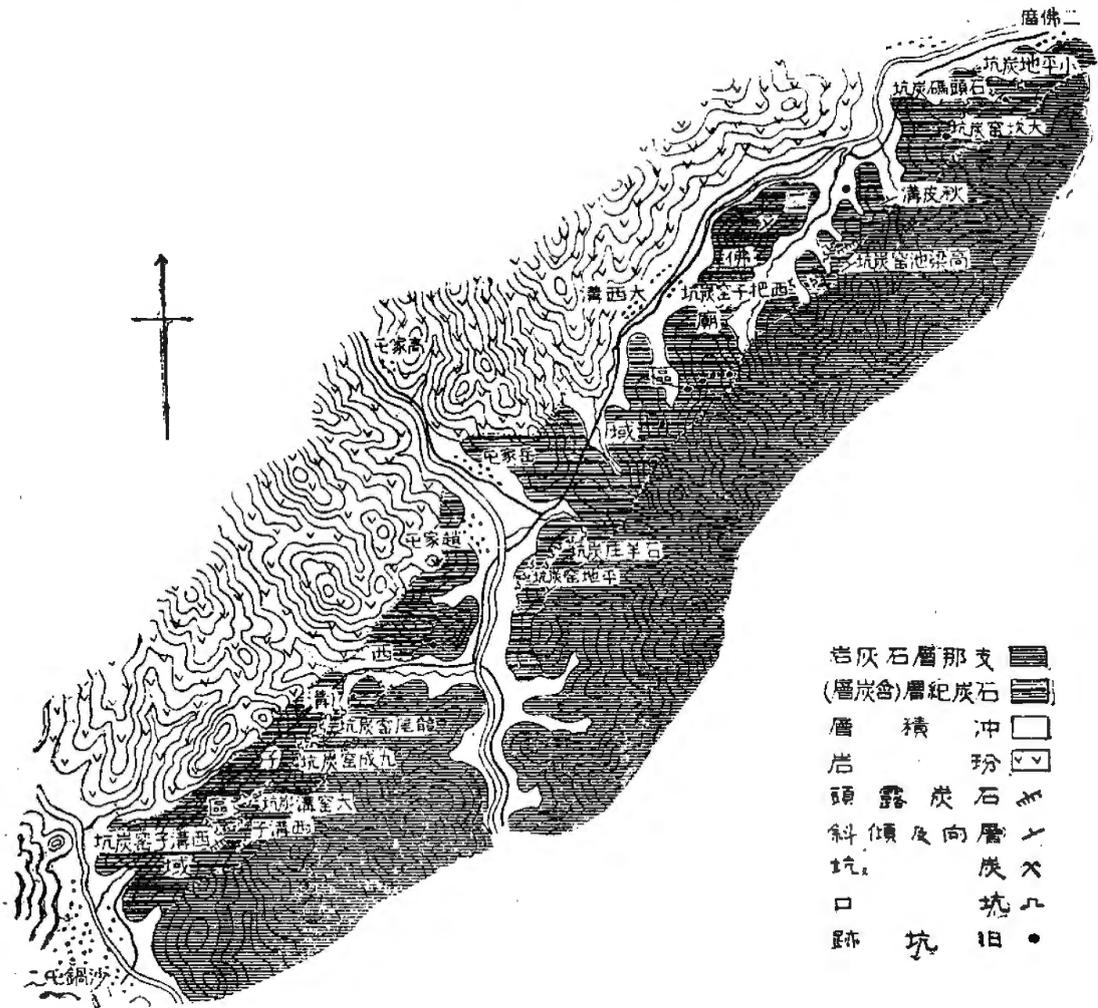
水	揮發物	固定炭素	灰	硫	黃	比	電	發熱量		種類
								カロリ	英國熱單位	
二、〇〇	二二、〇〇	五九、七〇	一八、三〇	五、三九	一、三五	六八六九	一一、三六四	第二類二		
五、三〇	二四、九〇	五六、四〇	一三、四〇	二、四二	一、三九	五六七〇	一〇、二二三	全		

西溝子炭田 ハ 二佛廟炭田ノ南西ニ隣接シ延長約三基米ノ狹長ナル  
 區域ヲ占ム、四炭坑アリ、就中西溝子、大窰溝ノ兩炭坑最モ大ナリ、本炭田

# 第十圖

二佛廟及西溝子區域炭田

縮尺五萬分之一



ハ約百年前ニ開發  
 セラレ現時一日百  
 五十噸ヲ產出ス、含  
 炭層ハ北六十度東  
 ニ走リ北西六十度  
 ニ傾斜ス、厚サ平均  
 四尺ノ一炭層アリ、  
 此外尙二三ノ炭層  
 アリト云ヒ下部ニ  
 ハ厚ク現ニ稼行セ  
 ルモノハ厚サ四十  
 尺アリト云フ、其同  
 一炭層ナルヤ否ヤ  
 明ナラス、炭量概算

千萬噸ナリト云フ、石炭ハ半無煙炭ニ屬シ容易ニ破碎ス、色ハ黑色ニシテ粘結セス、而シテ硫化鐵ヲ含有スルノ量多シ、分析ノ結果次ノ如シ

水	揮發物	固定炭素	灰	硫黃比	重	發熱量		種類
						カロリー	英國熱單位	
八、二三	一五、二	四七、七八	二八、九〇	一一、六八	一、五三〇	七、二七九	一三、一〇三	第二類二
三、〇〇	二五、三	四六、六〇	二五、一〇	五、三三	一、四五〇	六、六九〇	一一、〇四二	全
二、九〇	二〇、八八	六三、一四	一三、〇八	〇、六四	一、四四六	六、三八〇	一一、四八四	全

砂鍋屯炭田 ハ西溝子炭田ノ南西ニアリテ延長二基米ノ狹長ナル盆地ヲナス、本炭田ハ約四十五年前ニ開坑セラレ目下八炭坑ヨリ一日十五噸ヲ採掘ス、含炭層ノ層向ハ一般ニ北四十度乃至五十度東ニシテ北西四十度乃至六十度ニ傾斜ス、三四ノ炭層アルモ最下層ノ厚サ平均五尺ナルモノ現ニ稼行セラル、炭量ハ小ニシテ概算百萬噸内外ナルヘシ、石炭ハ半無煙炭ニ屬シ粘結セス、分析ノ結果次ノ如シ

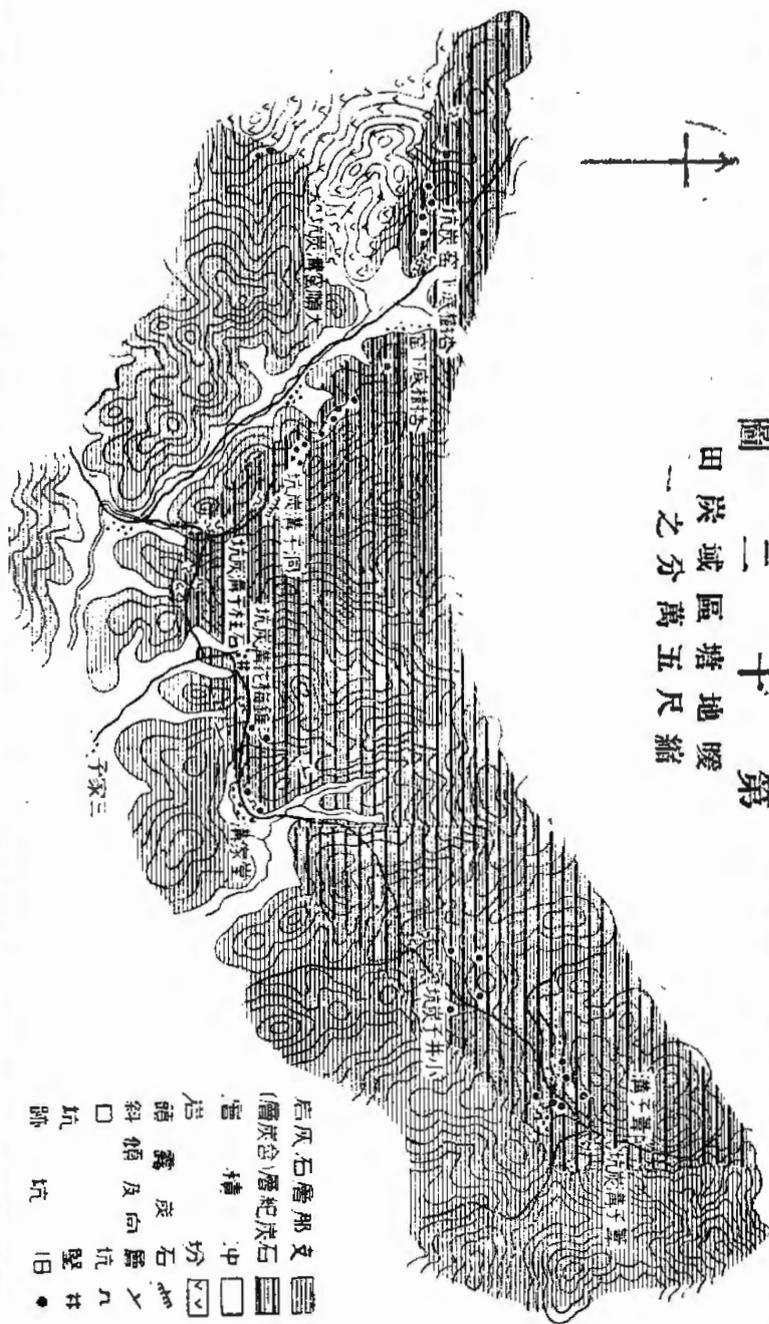
水	揮發物	固定炭素	灰	硫	黃	比	重	發熱		種類
								カロリ	英國熱單位	
五、三三	一三、一〇	五二、三八	三〇、二	二、一八	一、七	五、九五七	一〇、七二三	第二類一		
四、一〇	二〇、三〇	五八、〇〇	一七、六	一、九三	一、五	六、二六七	一一、二八一	全		
五、八二	二七、三〇	四五、五二	二二、三	二、二三	一、四	七、八四三	一四、二七	全		

白棗樹溝炭田 ハ沙鍋屯炭田ノ西約十基米ニアリテ直隸省ニ入ルモ便宜上茲ニ之ヲ記述スヘシ、石炭ノ產出額ハ甚タ僅少ニシテ一日僅ニ十二噸ニ過キス、炭田ハ延長約二基米、幅約一基米ニシテ北部ハ稍高キ山嶽ニヨリ圍繞セララル、含炭層ハ玢岩ニ圍繞セラレ頁岩、砂岩ヨリ成リ輝綠凝灰岩ヲ挾ミ北東又ハ北五十度東ニ走リ北方ニハ南東五六十度、南方ニハ北西ニ傾斜シ殆ント中央部ニ於テ一背斜層ヲナス、而シテ傾斜角ハ一般ニ坑内ニテハ緩ニシテ二三十度又ハ之ヨリ緩ナリ、現時稼行スル炭層ハ一層ニシテ其厚サ五尺ナリ、炭量ハ少ナクシテ概算僅ニ

八十萬噸ナリト云フ、石炭ハ半無煙炭ニ屬シ粘結セス、分析ノ結果次ノ如シ

水	揮發物	固定炭素	灰	硫	黃	比	重	發	熱	種
七三	二〇・一	五〇・四	三三・三	〇・五	一・四	七	六・八〇四	カリ	英國熱單位	類
									一二二四七	第二類二

第十圖 暖地塘炭田區域分一之縮

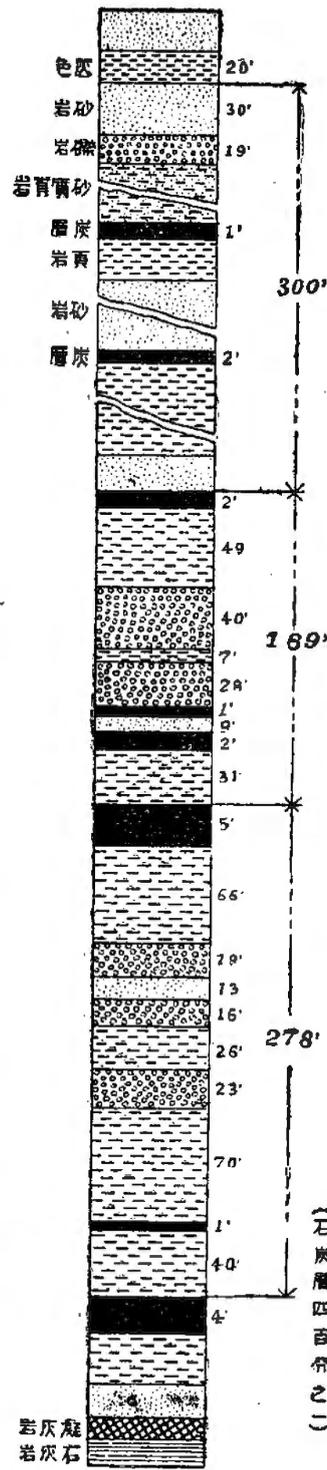


暖地塘炭田ハ直隸省ニアリテ白棗樹溝ノ南ニ位シ長城外ノ葦子溝ヨリ長城ノ西約八基米ノ大順窰ニ互リ百五十年前ニ開發セラレ現時六炭坑

# 第十三圖

暖地塘區域地層柱狀斷面圖

縮尺二千分之一



ヨリ一日約二百四十噸ヲ採掘ス、含炭層ハ頁岩、砂岩ヨリ成リ上部ニ變  
 岩ヲ挾ミ厚層ノ石灰岩ヲ被覆ス、層向ハ概ネ北四十度東ニシテ北西四  
 十度ニ傾斜スルモ西方ニハ殆ント東方ニ彎曲セリ、炭層六七アリ、内二  
 三層ハ稼行ニ堪ヘ厚サ各四尺以上ナリ、石炭ハ半無煙炭ニ屬シ粘結セ  
 ス、分析ノ結果次ノ如シ

水	揮發物	固定炭素	灰	硫	黃	比	重	發	熱	量	種	類
五二〇	一八九〇	五五八〇	二〇、一〇	七、六九	二、〇〇	六三六七	一一、四六二	英國熱單位	第二類二			

一七、六〇	二五、三〇	四五、八〇	一一、三〇	四、三八	一、四四	八、四六三	一五、二二三	全
一三、四七	二二、五三	四一、三〇	二五、七〇	一、〇三	一、五六	六、二五六	一一、二六一	全
九、二五	二三、七五	四七、三〇	一九、七〇	〇、三六	一、四〇	—	—	全

本炭田ハ現時最モ盛ニ稼行セラレ炭層ノ分布并ニ厚サヨリ見ルニ將來ニ於テモ亦重要ナル炭田ノ一ナルヘシ、其延長ハ約八基米ニ互リ炭層ノ總厚十二尺ヲ下ルコトナカルヘク炭量概算三千萬噸ニ達スト云フ

紅羅縣炭田ハ錦州ノ西南西ニ當リ紅羅縣ノ北西約六基米ニアリ、高嶺村ヨリ北東ニ連リ延長二基米アリ、現ニ二炭坑此地ニ操業スルモ産額一箇月僅ニ九十噸ニ過キス、含炭層ハ北三十度乃至五十度東ニ走リ北西四十度ニ傾斜ス、二三ノ炭層アリ、上層ハ厚サ三尺以上、下層ハ四尺ニシテ共ニ薄キ夾ミヲ含有ス、炭量ハ概算三百五十萬噸ナリト云フ、石炭ハ半無煙炭ニ屬シ粘結セス、分析ノ結果次ノ如シ

水	揮發物	固定炭素	灰	硫	黃	比	重	種	類
七、六	一五、六	四一、九	三四、九	一四、一六	一、六一	第二類	二		

以上諸炭田ハ運搬不便ノ地ニアルヲ以テ盛ニ稼行セラル、モノナク採掘法甚タ幼稚ニシテ一年ノ總產出額ハ十五萬噸ヲ超エサルヘシ、炭層ノ數ハ二三層ニシテ比較的急斜セルコト多シ、炭質ハ寧ロ劣等ニシテ多量ノ灰及硫黃ヲ含有ス、調査不完全ナル今日ニ於テ是等諸炭田ノ價值ヲ定ムルコト能ハサレトモ暖地塘炭田ヲ除ケハ各炭田ノ炭量ハ炭層ノ分布及厚サニ見テ百萬噸乃至五百萬噸ナルヘシ、即チ本區域ニ於ケル總炭量ハ四千萬噸ニ達シ此地方附近ノ需要ニ應スルニ餘リアリト云フヘシ

### 中生代ニ於ケル炭田

#### 寨馬集炭田

寨馬集炭田ハ鳳凰城ノ北東約八十基米ニアリテ城廠、鳳凰城間ノ要路



西ニ走レリ、其埋藏スル植物化石ニ依リ本層ノ珠羅紀ニ屬スルヲ知レリ、炭層ハ頁岩、砂岩ノ互層中ニ介在シ延長十二基米ニ達スルカ如シ、含炭層ハ炭田ノ中部ニ最モ好ク發達シ五層ヲ檢スルコトヲ得ヘキモ兩側ニハ次第ニ縮迫シテ二三層トナレリ、現時梨樹溝、平頂山ノ二炭坑稼行セラレ一年ヲ通シテ前年ニハ前者ハ三箇月、後者ハ六箇月稼行シタルノミニシテ產額千四百噸ニ過キス

炭田ノ中部ニ高サ約二百五十米ノ平頂山屹立ス、其山腹ニアル炭層ハ當初ニ發見セラレタルモノニシテ約五十五年前ナリトス、炭層五アリ、厚サ上部ヨリ數フレハ六七寸、二尺、一尺四寸、二尺六寸及六寸ニシテ厚サ五十尺乃至七十尺ノ間ニ介在セラル、平頂山ノ西小孤山子ニハ平頂山ノ第二、第三層ニ該當スヘキ二炭層アリテ北三十五度乃至四十度東ニ走リ南東十度ニ傾斜ス、厚サハ四尺乃至六尺ナルモ上層ハ品位劣等ニシテ稼行ニ堪ヘス、寨馬集ノ北西約一基米ニアル梨樹溝ニハ平頂山ノ第三層及第四層ニ該當スヘキ二炭層アリテ北西ニ走リ南西二十度

ニ傾斜ス、上層ハ稍厚ケレトモ厚サ僅ニ七寸乃至三尺ニ過キス、下層ハ薄ク一尺ニ充タスシテ概ネ三寸乃至八寸ナリトス、礮子溝ニ於テハ第一層及第四層ノ發達セルノミニシテ共ニ薄ク、第一層ハ厚サ一尺未滿、第四層ハ一尺二寸ナリトス、層向ハ約東西ニシテ南五度乃至十度ニ傾斜ス、礮子溝ノ東約八基米ナル荒溝ニハ第四層アリテ約東西ニ走り南方五度乃至十度ニ傾斜ス、厚サ甚タ薄ク一尺ニ充タス、石炭ハ半無煙炭ニ屬ス、分析ノ結果次ノ如シ

	水	揮發物	固定炭素	灰	硫	黃	種
礮子溝第一層	一、五二	二七、八二	五七、二八	一三、三九	〇、八七	第二類	二
平頂山第三層	一、二六	二二、八九	六九、二七	七、五八	〇、五八	全	全
小孤山子第三層	一、三九	二九、二二	五九、〇八	一〇、三二	〇、六〇	全	全
全	三、六九	六、四四	七〇、一〇	一九、七七	〇、四九	第一類	二
礮子溝第四層	一、四二	二七、〇四	五四、八六	一六、六九	〇、九五	第二類	二

概言スレハ石炭ハ質良好ナレトモ炭層薄ク五尺ヲ超エス、容易ニ稼行シ得ヘキ區域ハ既ニ採掘セラレタル所多ク將來ノ採掘ハ比較的困難ニシテ大規模ノ鑛業ハ容易ナラサルヘシ

### 懿路炭田

懿路ハ新臺子停車場ノ東南東約四基米ニアリテ奉天、鐵嶺間ノ要路ニ方レリ、石炭ハ懿路ノ南部ニアル小丘及東方約三基米ノ官地ニ採掘セラレ一日ノ產出額ハ僅ニ九噸ナリト云フ、丘陵地ノ北部ハ西方ニ流下スル小谿ノ灌域ニシテ下部寒武里亞系ト思惟スヘキ千枚岩及硅岩ハ其北方ニ聳ユル山嶽ヲ成ス、中生層ニ屬スト思惟スヘキ輝綠凝灰岩ハ官地ノ西ニアリ、玢岩ハ炭田ノ北部ヲ限レリ、含炭層ハ頁岩及砂岩ヨリ成リ以上ノ諸層ヲ被覆シ北方ニハ黄土ニ依リ被覆セラレ、奉天ノ北方ニアル諸炭田ニ比較シ本炭田モ亦珠羅紀ニ屬スルカ如シ、官地ニ於テハ地層ハ西北西ニ走リ北々東三十度ニ傾斜ス、厚サ約二尺ノ一炭層黒

色頁岩中ニ介在ス、懿路ノ南ニアル炭層ハ玢岩ニ隨伴シ爲ニ接觸作用ヲ受ケ地層ハ亦甚シク擾亂セラル、炭層ノ厚サハ一尺乃至八尺ノ間ニアリト云フ、炭田ノ區域狹小ニシテ炭量大ナラサルヘシ、石炭ハ黑色ノ有煙炭ニシテ容易ニ粉炭ニ破碎ス、質劣等ナリ、分析ノ結果次ノ如シ

水	揮發物	固定炭素	灰	硫	黃	比	重	發熱量		種類
								カロリ	英國熱單位	
三、四八	二二、二	三四、四四	三九、八七	三、四三	一、九〇六	四、二九〇	七、七三三	第三類	第三類	

### 大臺山炭田

大臺山炭田ハ鐵嶺ノ北西約四基米ニアリテ南北約四基米、東西一基米ノ丘陵地ヲ包括ス、石炭ハ二百年前始メテ朝鮮人ニ依リ採掘セラレタルモ政府ノ禁止スル所トナレリ、爾後之ヲ再開セントスルモノアリタレトモ常ニ失敗ニ歸セリ、近時漸ク採掘ヲ開始シ一日約二十噸ヲ產出スト云フ、含炭層ハ頁岩及砂岩ノ互層ニシテ蠻岩ヲ挾ミ層向ハ約東西若クハ北七十五度東ニ走リ北方五度乃至十度ニ傾斜ス、其含有セル植

物化石ニ依リ珠羅紀ニ屬スルヲ知レリ、基盤ハ片麻岩ニシテ斑岩及玢岩之ヲ貫通シ炭田ノ東部ヲ限リ斑岩ハ孤立ノ大臺山ヲ構成ス、炭田ハ黄土ニ依リ被覆セラレテ南北ノ二區ニ分ツヲ得ヘク其間約二基米ヲ隔ツ、二炭層アリ、上層ハ南部區ニ於テハ深サ八十尺、北部區ニ於テハ四十尺ニ達スヘク、此深サノ差異ハ斷層ノ結果ナルヘシ、厚サハ一尺乃至一尺八寸ニシテ薄キ夾ミヲ有セリ、下層ハ上層ノ下約十尺乃至三十尺ニアリテ厚サ三尺、薄キ夾ミヲ含有ス、炭量ハ既知ノモノハ甚タ大ナラス、隨テ既知炭層ノ下部ニ新炭層ヲ發見スルニアラサレハ大規模ノ鑛業ヲ望ムヘカラス、石炭ハ有煙炭ニ屬シ樹脂又ハ硝子光澤ヲ有シ長焰ヲ發シテ容易ニ燃燒シ質比較的劣等ナリ、分析ノ結果次ノ如シ

南部區域ニ於ケル石炭	北部區域ニ於ケル石炭	水	揮發物	固定炭素	灰	硫黃比	重	發熱量		性質	種類
								カロリー	英國熱單位		
一七、九〇	一〇、五六		二九、六八	四六、五四	一三、二〇	一、五二	一、四三〇	六、七八七	一三、二二七	粘結セス	第三類
二二、三〇	六二、八〇	七〇〇	三、五五	一、二二八	七、二〇七	一一、九七三	粘結ス	第二類			

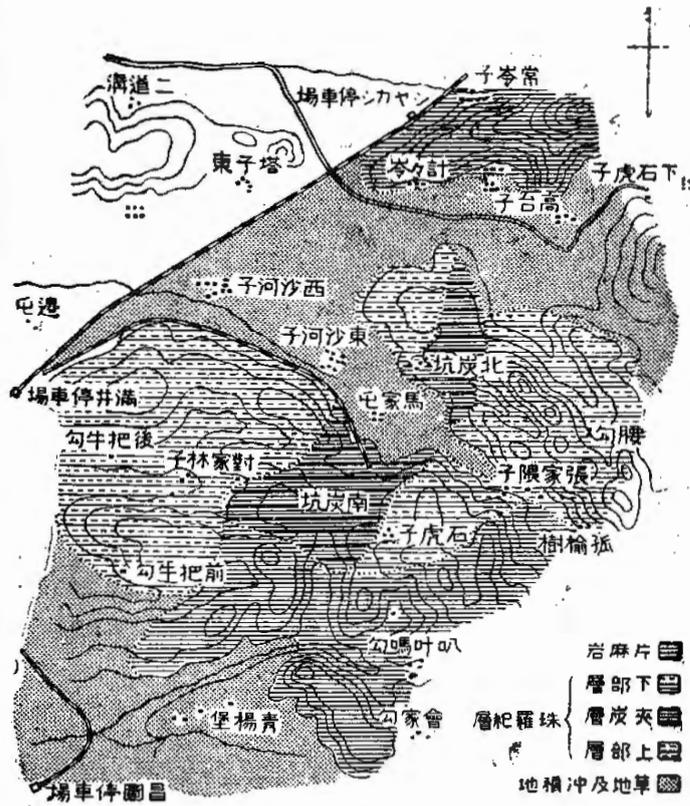
## 放牛溝炭田

放牛溝炭田ハ開原ノ北約十基米、昌圖停車場ノ南々東約十基米ニアリ  
テ高サ平均二三百米ノ楊子嶺山脈ノ兩側ヲ占ム、石炭ハ約百六十年前  
ニ發見セラレ小規模ニ稼行セラレタルモ千九百八年以來廢棄セラレ  
タリ、炭田ハ高サ五六十米ノ丘陵地ニシテ北々西ニ長ク南方及西方ニ  
緩斜ス、基盤ハ片麻岩ニシテ東方ノ山地ヲ構成シ之ヲ被覆シテ含炭層  
アリ、其延長ハ約六千尺、幅千二百尺ナリ、含炭層ハ砂岩、頁岩ノ互層ニシ  
テ石炭ヲ挾メリ、之ヲ沙河子炭田ニ比較スルニ本層ハ蓋シ中生層ニ屬  
スルモノナルヘシ、層向ハ北二十度西ニシテ西南西二三十度ニ傾斜ス、  
三炭層アリ、厚サハ上部ヨリ一尺乃至二尺、二尺乃至二尺五寸及四寸乃  
至六寸ナリトス、此外厚サ三寸乃至七寸ノ一炭層アルモ以上炭層トノ  
關係明ナラス、炭量小ニシテ概算僅ニ百萬噸ナリト云フ、石炭ハ有煙炭  
ニ屬シ稍粘結ス、分析ノ結果次ノ如シ

圖 五 十 第

沙 河 子 炭 田

一 之 分 千 五 萬 三 尺 縮



沙河子炭田ハ昌圖ノ東方約十五基米、昌圖停車場ノ北東約六基米ニア

沙河子炭田

水	揮發物	固定炭素	灰	硫	黃	比	重	發	熱	量	種	類
九四五	四九八三	三三、八八	一六八四	一、六八	一、四二七	五、一七〇	九三〇六	英國熱單位	第四類二			

リテ支線ニヨリ連絡ス、本炭田ハ百二十年前開發セラレ近時露西亞人ニ依リ稼行セラレタリ、現時一年ノ產出額約七八千噸ナリト云フ、炭田ハ高サ三四十米ノ丘陵臺地ニシテ片麻岩ノ西側ヲナシ北西ニ緩斜シ厚キ黃土ヲ以テ被覆

セラレ南北ノ二區域ニ分ル、含炭層ハ頁岩、砂岩及蠻岩ヨリ成リ下部ハ主ニ砂岩、上部ハ主ニ頁岩ヨリ成ル、其埋藏スル化石ニ依リ珠羅紀ニ屬スルヲ知レリ、炭層ハ其露出セル處甚タ少ナク其一般ノ方向ヲ知ルニ難キモ北三四十度東ニ走リ北西十度ニ傾斜スルカ如シ、炭層八アリテ厚サ五寸乃至五尺ノ間ニアリ、厚サハ上部ヨリ之ヲ數フレハ一尺、一尺、五寸、五尺(一ノ夾ミヲ有ス)、二尺(一ノ夾ミヲ有ス)二尺、三尺(一ノ夾ミヲ有ス)四尺乃至五尺(一ノ夾ミヲ有ス)ナリトス、南部區ニ於テハ悉ク八炭層ヲ檢スルヲ得レトモ北部區ニ於テハ唯下部ノ三層ヲ檢スルヲ得ルノミニシテ上部ハ既ニ浸蝕除去セラレタリ、北部區ハ延長約千二百尺、幅六百尺、南部區ハ延長約三千尺、幅約千八百尺ナリ、炭量ハ大ナラスシテ概算三百萬噸ヲ得タリ、石炭ハ有煙炭ニ屬シ粘結シ骸炭ノ製造ニ適ス、稍良好ナル部分ヲ分析セルニ其結果次ノ如シ

第七層	水	揮發物	固定炭素	灰	硫黃比	重	發熱量	種類
八七〇	三〇、七六	四七、二五	一三、二九	〇、六九	一、三五八	五、九四〇	英國熱單位	第三類
							カロリー	
							一〇、六九二	

第八層	七、四三	三三、〇三	五〇、三四	一〇、二〇	〇、九二	一、三四七	五、九四〇	一〇、六九二全
-----	------	-------	-------	-------	------	-------	-------	---------

半拉門炭田

半拉門炭田ハ昌圖、長春間ニアル四平街停車場ノ南約十六基米ニアリ、炭層三アリ、厚サ一尺五寸、二尺及三四尺ナリ、石炭ハ有煙炭ニ屬ス、本炭田ハ嘗テ稼行セラレタルコトアリ

孤山子炭田

孤山子炭田ハ法庫門ノ南東約二十八基米ニアリ、含炭層ハ斑岩ヨリ成レル孤立ノ馬家孤山ノ南側ニ露出シ主ニ砂質凝灰岩ヨリ成リ北四十四度西ニ走リ南西三十度ニ傾斜ス、現時炭層ニ就テ知ルヘキ材料ヲ得サレトモ二十五年前採掘セラレタルモ炭質甚タ劣等ナルノ故ヲ以テ廢棄セラレタリト云フ

第三紀ニ於ケル炭田

撫順炭田

位置及沿革 撫順炭田ハ奉天ノ東方ニ狹長ナル一帯ヲナシ撫順ノ對

岸ニアリテ南滿洲鐵道ト支線ニヨリ連絡ス、炭田ノ北方ハ渾河ニシテ南方ハ稍急峻ナル山脈ニ依リ界セララル、現時鑛業ハ千金寨、楊柏堡、老虎臺ニ於テ操業セラレ近時東郷、大山二豎坑開掘セラレ産出額著シク増加シタリ、炭田ノ面積ハ約四十八平方基米ニシテ延長東西十八基米アリ、其開發ノ年代ハ記録ナキヲ以テ明ナラサレトモ陶磁器製造燃料トシテ六七百年前ニ採掘セラレタリト云ヒ又銅製鍊ノ爲メ二三年前ニ採掘セラレタリト稱ス、十八世紀ニ至リ鑛業ハ政府ノ禁止スル所トナレリ、千九百一年採掘許可セラレタルヲ以テ二會社組織セラレタリ、千九百三年ニ至リ鑛區ハ大部分露西亞人組織ノ會社ノ手ニ歸シ日露戰爭ニ際シ全ク露西亞人ノ手ニ歸セリ、千九百五年陸軍省ノ管轄ニ屬シ千九百七年南滿洲鐵道株式會社組織セラレ本炭田ハ同會社ノ經營スル所トナレリ、石炭ノ産額ハ記録ナケレトモ本邦人ノ手ニ歸シテヨリ其産出額ハ次ノ如シ

年 別	產 額	年 別	產 額
自千九百零五年三月 至千九百零七年三月	二二九、九四七 <small>噸</small>	自千九百零九年三月 至千九百一十一年三月	七〇六、〇四二 <small>噸</small>
自千九百零八年三月 至千九百一十年三月	二二三、三二五	自千九百一十一年三月 至千九百一十二年三月	八九八、四八二
自千九百零八年三月 至千九百一十年三月	四九〇、七二〇	自千九百一十二年三月 至千九百一十四年三月	一、三四三、一九八

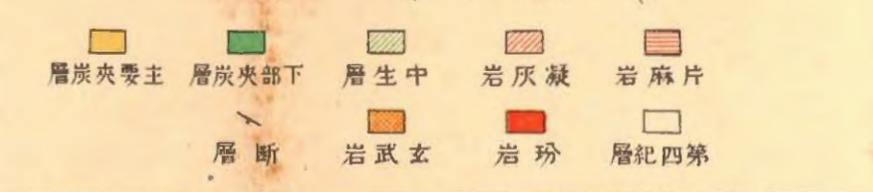
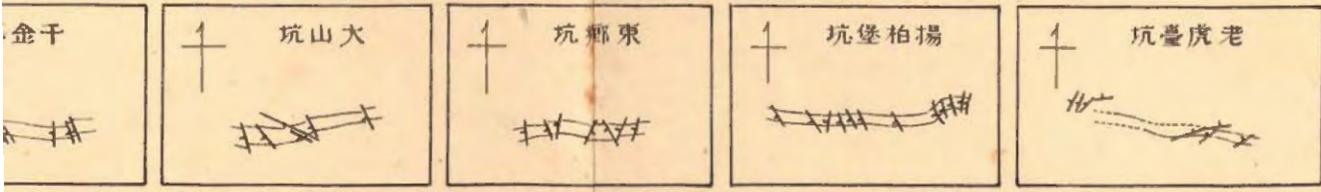
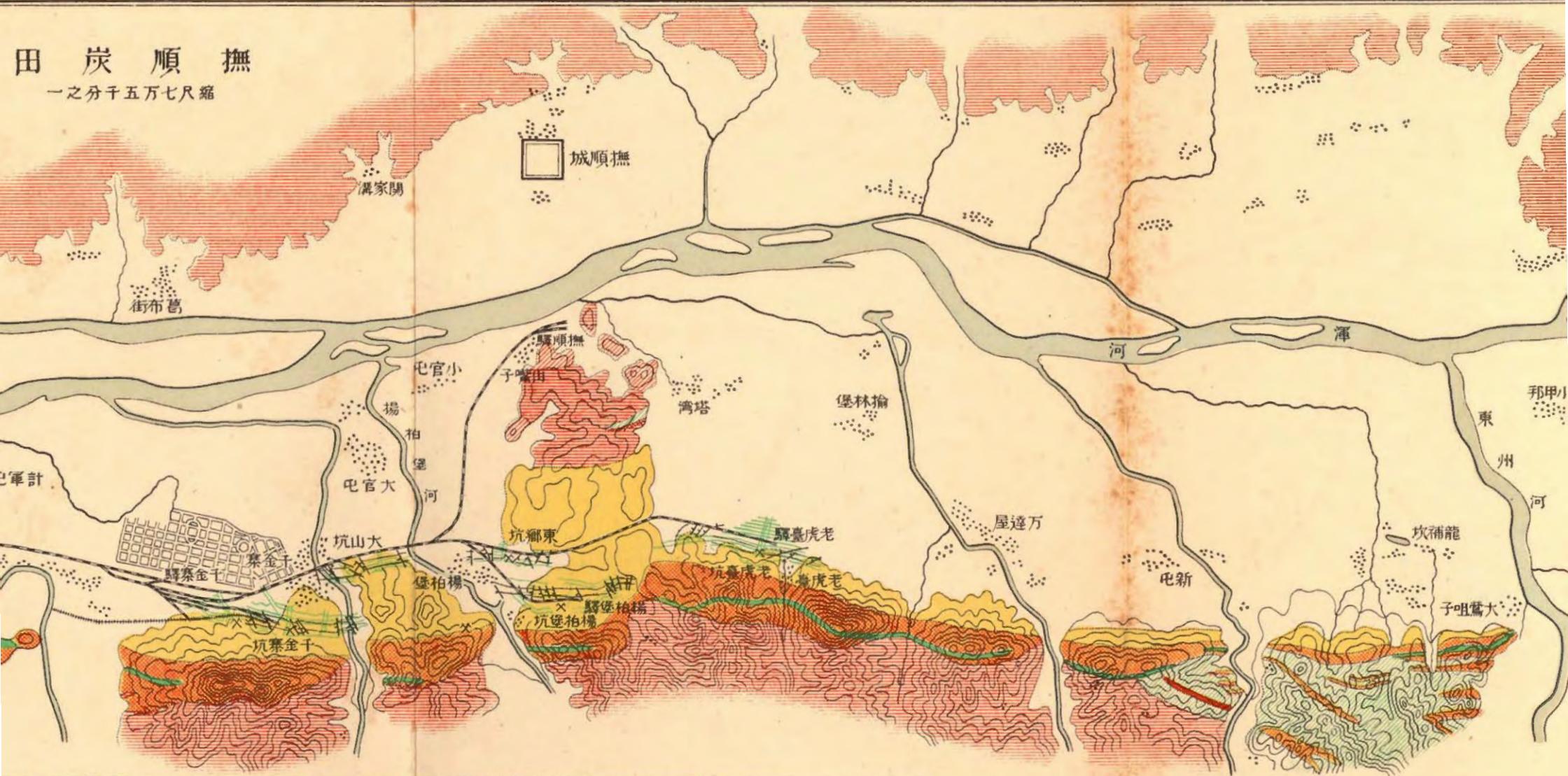
產出額ハ現時益増加シ一日ノ產出額ハ千金寨坑千五百噸、大山坑千七百噸、東郷坑千二百噸、楊柏堡坑七百噸、老虎臺坑千噸、合計六千噸ニ達セリ

地形及地質 炭田ハ丘陵臺地ヲナシ北方ハ斷崖ヲ以テ渾河ニ臨ミ南方ハ稍急峻ナル山嶽ヲ以テ限ラレ渾河ノ支流ハ南流シテ炭田ヲ分割ス、炭田ノ中部ニ位スル高地ニハ地層甚シク擾亂シ殆ント直角ニ彎曲シテ二千四百尺ノ偏差ヲ生シ恰モ一大斷層ノ如キ觀ヲ呈シ之ニヨリ炭田ヲ東西ノ二區域ニ區別ス、基盤ハ花崗片麻岩ニシテ之ヲ被覆シテ下部寒武利亞層ト思惟スヘキ凝灰岩アリ、炭田ノ東部ニハ赤色及綠色

ノ凝灰岩アリテ玢岩ノ岩床之ヲ貫通シ片麻岩ヲ不整合ニ被覆ス、是等諸岩層ヲ被覆シテ凝灰質砂岩ノ頁岩互層北西ヨリ南東ニ走リ一向斜層ヲナス、本層ハ赤色及綠色凝灰岩ト共ニ時代未詳ノ中生層ト思惟セラル、者ナリ、第三紀層ハ以上岩層ノ地溝帶ニ沈積シタルモノニシテ石炭ヲ埋藏シ東西ニ走リ概ネ北三十度ニ傾斜ス、頁岩中ニアル化石ニ依リ本層ハ中新期ニ屬スルヲ知レリ、別テ下部含炭層、主要含炭層ノ二トナス、下部含炭層ハ凝灰質砂岩、疊岩、頁岩ヨリ成リ二炭層ヲ挾有シ炭田ノ東端ヨリ西方楊柏堡停車場ノ東方ニ至ルマテ之ヲ追跡スルヲ得ヘク更ニ西方ニハ楊柏堡及千金寨停車場ノ南部ニ小區域ヲナス、層向ハ概シテ西北西ニシテ北々東三四十度ニ傾斜ス、本層ハ再ヒ古城子河ノ東ニ露ハレ河流ト共ニ北方ニ彎曲シ沖積層下ニ沒ス、主要含炭層ハ頁岩ヨリ成リ厚キ炭層ヲ埋藏シ砂岩ヲ見ス、炭層ノ上ニアル頁岩ハ甚タ厚クシテ露頭ニヨリ之ヲ測ルニ厚サ約二千五百尺アリ、本層ハ炭田ノ中部ニ最モ好ク發達スルモ東隅ニハ其露頭ヲ見ス、玄武岩ハ炭田ノ

# 撫順炭田

縮尺七萬五千分之一



南部殊ニ下部及主要含炭層間又ハ下部含炭層中ニ岩床トナリ其被覆スル下部含炭層ノ頁岩及炭層ニ接觸變成作用ヲ與フルモ主要含炭層ニハ之ヲ見ス、即チ玄武岩ハ下部層ノ沈積後主要含炭層ノ沈積前ニ噴出シタルモノナルヘシ、層向ハ約東西ニシテ北二十五度乃至四十五度ニ傾斜ス、斷層ハ甚タ多キモ未タ鑛業上甚シク支障トナルヘキ大斷層ニ會セス、一大褶曲ハ楊栢堡及老虎臺ノ間ニアリテ地層ハ爲ニ二千四百尺水平ニ異動シ嘗テ一大斷層ト誤認セラレタリ、地層ハ北方ニ傾斜スル單斜層ナルモ兩側ニハ北方ニ彎曲ス、即チ橫壓力ノ南方ヨリ北方ニ襲來セルヲ示セリ、傾斜角ハ北方即チ露頭附近ニ急ニシテ南方ニ漸次緩トナリ約二十五度ノ角度ヲナス

下部含炭層ノ炭層 下部含炭層ハ二炭層ヲ埋藏ス、下層ハ基盤ヲナセル片麻岩ニ近ク賦存シ薄クシテ厚サ僅ニ二尺ニ過キス、上層ハ下層ノ上數尺ニアルモ玄武岩ノ噴出ノ爲メ兩者ノ距離數十尺ニ達スルコトアリ、厚サハ最厚二十尺ニシテ平均十尺ナリトス、然レトモ西方ニハ炭

層ハ一條ノ薄キ夾ミヲ有シ玄武岩ニ依リ切斷セラレ及變質セラル、  
コト多ク大規模ノ鑛業ハ困難ナルヘシ、炭質ハ主要含炭層ニ於ケル石  
炭ニ類ス

東州河ノ東方ニ厚サ二尺ノ炭層頁岩、砂岩中ニ介在シ上下部ニ玄武岩  
ノ岩床ヲ有シ北々西ニ傾斜ス、打鷲子ノ南方丘陵ニアル上層ハ下盤ニ  
凝灰岩、上盤ニ玄武岩ヲ有シ北八十五度東ニ走リ北方五十度ニ傾斜ス、  
其厚サ約十尺アルモ夾ミ多ク良好ナル部分ハ僅ニ一尺ニ過キス、支那  
人小規模ニ之ヲ採掘ス、下層ハ此地ニ之ヲ檢セス、新屯ノ南方ニハ厚サ  
數尺ノ下層北七十度西ニ走リ北々東四十度ニ傾斜スルモ夾ミハ石炭  
ヨリ厚シ、嘗テ露西亞人ニ依リ稼行セラレタリ、萬達屋ノ南方ニアル鞍  
部ニハ厚サ二十尺ノ炭層アリテ數多ノ夾ミヲ含有ス、亦露西亞人ニ依  
リ稼行セラレタリ、上層ノ下約十尺ニ下層アルモ其厚サ明ナラス、老虎  
臺ノ南方及南東ニハ上層嘗テ稼行セラレ數多ノ廢坑今尙處々ニ散在  
ス、楊栢堡ノ南東ニ數多ノ廢坑アリ、河流ニ近ク下層露出ス、其兩盤ハ玄

武岩ナリトス、千金寨ノ南方ニハ下部層ハ小區域ニ散在シ厚サ約十尺ノ上層北七十度東ニ走リ北々西四十度ニ傾斜ス、其上盤ハ玄武岩ニシテ下盤ハ凝灰質頁岩ナリ、下層ハ千金寨ノ頂上ノ南方ニ小區域ニ露出シ基盤ヲナセル片麻岩ニ近ク賦存ス、古城子ノ南西蛇窩ニハ廢坑散在ス、此地ニアル炭層ノ厚サハ二十尺ニシテ薄キ夾ミヲ有シ玄武岩上ニアリ、地層ハ之ヨリ北方ニ轉シ沖積層下ニ沒ス

主要炭層 主要炭層ノ上盤ハ褐灰色ノ頁岩ニシテ下盤亦砂質頁岩ナルモ薄キ炭層ヲ介有ス、千金寨區域ニ於テハ炭層ノ露頭ナケレトモ坑内ニテハ二十三四度ニ傾斜セル炭層アリ、厚サハ最厚二百尺ニシテ最モ薄キトキハ百三十尺ナリ、夾ミノ數ハ甚タ多ク其數百ヲ算スルモ薄ク總厚二十尺内外ナリ、炭質ハ全層ヲ通シ殆ント相同シ、大褶曲ニ近キ楊栢堡ニ於テハ數多ノ小褶曲及斷層アルモ西方即チ大褶曲ヲ去ルニ隨ヒ其數次第ニ減ス、褶曲附近ニハ炭層ノ厚サハ七十五尺ニ縮迫スルモ一般ニ百十五尺乃至百三十尺ナリ、層向ハ約東西ニシテ北三十三、四

度ニ傾斜シ下盤ニ近ク時ニ北四十五度ニ傾斜スルコトアリ、大褶曲ノ  
 東老虎臺ニ於テハ層向ハ上盤ニ近ク北七十五度乃至七十七度西、下盤  
 ニハ北八十度乃至八十六度西ナリ、褶曲及斷層前者ノ如ク多カラス、傾  
 斜ハ上盤ニハ二十五度乃至三十七度、下盤ニハ時ニ四十二度ナルモ下  
 部ニ至ルニ隨ヒ次第ニ緩ナルカ如シ、厚サハ百十二尺乃至百三十七尺  
 ニシテ夾ミヲ有シ厚サ七十尺ヲ超エス、主要炭層ハ尙東方ニ之ヲ追跡  
 スルヲ得ヘク萬達屋ノ南ニ數多ノ廢坑アリ、此地ヨリ新屯ヲ越エ龍補  
 坎ニ至ル間ハ炭層ハ沖積層下ニ沒スルモ龍補坎ノ南ニアル小丘ニハ  
 砂岩ノ夾ミヲ有スル數多ノ薄キ炭層ノ露頭アリ、其層位未タ明ナラサ  
 ルモ主要炭層ノ下部ニアル炭層若クハ主要炭層ノ一部ニ該當スルカ  
 如シ、打鴛子ニ於テ亦同様ノ露出アルモ東州河ヲ越エテ東方ニハ主要  
 炭層ノ連續ト思惟スヘキモノナシ、夾ミノ中稍厚キ砂岩ハ老虎臺ニ於  
 テ始メテ之ヲ檢シ東方ニ次第ニ厚シ、老虎臺ノ東方ニハ石炭ノ厚サニ  
 影響アルヘキ地質ノ變動ヲ想像スヘキ理由ナキヲ以テ之ヲ察スレハ

富士	0.80	0.80
	0.10	0.10
	0.20	0.20
	0.25	0.25
	3.70	7.40
	3.40	10.80
	5.20	16.00
	0.75	16.50
	3.25	20.00
	2.40	23.40
大和	7.30	21.30
	2.00	33.30
	1.70	35.10
	2.20	37.40
	0.30	39.40
	0.10	39.50
	3.00	43.30
	3.20	46.60
	0.20	47.50
	0.20	47.90
	1.90	49.50
	0.30	50.00
	0.60	51.60
	8.40	60.00
	0.80	60.80
	1.00	62.80
	1.20	64.10
朝日	8.80	72.80
	1.20	74.10
	1.10	75.20
	3.80	79.10
	0.50	79.60
	7.90	87.50
	2.00	89.50
	0.12	89.60
	3.00	92.60
	0.55	93.20
	4.50	97.70
	0.30	98.00
	5.80	103.80
	2.80	106.60
常盤	8.00	104.80
	0.60	105.40
	2.80	108.10
	1.70	109.80
津	7.70	117.60
	2.00	119.60
	2.70	122.30
	1.60	123.90
	1.00	124.90
	1.30	126.20
	2.30	128.50
	0.10	128.60
	5.00	133.60
	0.70	134.30
	2.80	137.10
	2.80	141.10
	0.20	141.30
	2.20	143.50

富士	0.80	0.80
	0.10	0.90
	0.20	1.10
	1.80	4.00
	2.30	4.30
	3.00	13.30
	0.10	13.40
	3.20	18.80
	0.20	19.00
	2.20	21.00
	0.10	21.10
	4.80	25.90
	0.80	27.10
大和	17.00	32.20
	0.12	32.30
	0.30	32.60
	0.10	32.70
	0.20	32.90
	0.10	33.00
	8.70	41.00
	0.16	41.20
	0.80	42.40
	0.10	42.50
	5.00	47.60
	1.30	48.90
	0.30	49.20
	0.70	50.90
	0.60	51.50
	8.90	61.70
	0.50	61.80
朝日	8.00	70.80
	0.60	71.20
	1.00	72.20
	1.60	73.90
	0.80	74.70
	1.50	77.70
	0.30	78.20
	0.60	81.20
	3.80	85.00
	0.90	85.90
	2.30	88.20
	0.10	88.30
	0.16	88.40
	0.30	88.70
	0.35	88.80
	6.80	95.60
	0.10	95.70
	0.20	95.90
	0.10	96.00
	7.20	99.80
	0.12	99.90
	1.40	101.80
	0.10	101.90
	0.10	102.00
	0.10	102.10
	0.10	102.20
	0.10	102.30
	0.10	102.40
	0.10	102.50
	0.10	102.60
	0.10	102.70
	0.10	102.80
	0.10	102.90
	0.10	103.00
	0.10	103.10
	0.10	103.20
	0.10	103.30
	0.10	103.40
	0.10	103.50
	0.10	103.60
	0.10	103.70
	0.10	103.80
	0.10	103.90
	0.10	104.00
	0.10	104.10
	0.10	104.20
	0.10	104.30
	0.10	104.40
	0.10	104.50
	0.10	104.60
	0.10	104.70
	0.10	104.80
	0.10	104.90
	0.10	105.00
	0.10	105.10
	0.10	105.20
	0.10	105.30
	0.10	105.40
	0.10	105.50
	0.10	105.60
	0.10	105.70
	0.10	105.80
	0.10	105.90
	0.10	106.00
	0.10	106.10
	0.10	106.20
	0.10	106.30
	0.10	106.40
	0.10	106.50
	0.10	106.60
	0.10	106.70
	0.10	106.80
	0.10	106.90
	0.10	107.00
	0.10	107.10
	0.10	107.20
	0.10	107.30
	0.10	107.40
	0.10	107.50
	0.10	107.60
	0.10	107.70
	0.10	107.80
	0.10	107.90
	0.10	108.00
	0.10	108.10
	0.10	108.20
	0.10	108.30
	0.10	108.40
	0.10	108.50
	0.10	108.60
	0.10	108.70
	0.10	108.80
	0.10	108.90
	0.10	109.00
	0.10	109.10
	0.10	109.20
	0.10	109.30
	0.10	109.40
	0.10	109.50
	0.10	109.60
	0.10	109.70
	0.10	109.80
	0.10	109.90
	0.10	110.00
	0.10	110.10
	0.10	110.20
	0.10	110.30
	0.10	110.40
	0.10	110.50
	0.10	110.60
	0.10	110.70
	0.10	110.80
	0.10	110.90
	0.10	111.00
	0.10	111.10
	0.10	111.20
	0.10	111.30
	0.10	111.40
	0.10	111.50
	0.10	111.60
	0.10	111.70
	0.10	111.80
	0.10	111.90
	0.10	112.00
	0.10	112.10
	0.10	112.20
	0.10	112.30
	0.10	112.40
	0.10	112.50
	0.10	112.60
	0.10	112.70
	0.10	112.80
	0.10	112.90
	0.10	113.00
	0.10	113.10
	0.10	113.20
	0.10	113.30
	0.10	113.40
	0.10	113.50
	0.10	113.60
	0.10	113.70
	0.10	113.80
	0.10	113.90
	0.10	114.00
	0.10	114.10
	0.10	114.20
	0.10	114.30
	0.10	114.40
	0.10	114.50
	0.10	114.60
	0.10	114.70
	0.10	114.80
	0.10	114.90
	0.10	115.00
	0.10	115.10
	0.10	115.20
	0.10	115.30
	0.10	115.40
	0.10	115.50
	0.10	115.60
	0.10	115.70
	0.10	115.80
	0.10	115.90
	0.10	116.00
	0.10	116.10
	0.10	116.20
	0.10	116.30
	0.10	116.40
	0.10	116.50
	0.10	116.60
	0.10	116.70
	0.10	116.80
	0.10	116.90
	0.10	117.00
	0.10	117.10
	0.10	117.20
	0.10	117.30
	0.10	117.40
	0.10	117.50
	0.10	117.60
	0.10	117.70
	0.10	117.80
	0.10	117.90
	0.10	118.00
	0.10	118.10
	0.10	118.20
	0.10	118.30
	0.10	118.40
	0.10	118.50
	0.10	118.60
	0.10	118.70
	0.10	118.80
	0.10	118.90
	0.10	119.00
	0.10	119.10
	0.10	119.20
	0.10	119.30
	0.10	119.40
	0.10	119.50
	0.10	119.60
	0.10	119.70
	0.10	119.80
	0.10	119.90
	0.10	120.00
	0.10	120.10
	0.10	120.20
	0.10	120.30
	0.10	120.40
	0.10	120.50
	0.10	120.60
	0.10	120.70
	0.10	120.80
	0.10	120.90
	0.10	121.00
	0.10	121.10
	0.10	121.20
	0.10	121.30
	0.10	121.40
	0.10	121.50
	0.10	121.60
	0.10	121.70
	0.10	121.80
	0.10	121.90
	0.10	122.00
	0.10	122.10
	0.10	122.20
	0.10	122.30
	0.10	122.40
	0.10	122.50
	0.10	122.60
	0.10	122.70
	0.10	122.80
	0.10	122.90
	0.10	123.00
	0.10	123.10
	0.10	123.20
	0.10	123.30
	0.10	123.40
	0.10	123.50
	0.10	123.60
	0.10	123.70
	0.10	123.80
	0.10	123.90
	0.10	124.00
	0.10	124.10
	0.10	124.20
	0.10	124.30
	0.10	124.40
	0.10	124.50
	0.10	124.60
	0.10	124.70
	0.10	124.80
	0.10	124.90
	0.10	125.00
	0.10	125.10
	0.10	125.20
	0.10	125.30
	0.10	125.40
	0.10	125.50
	0.10	125.60
	0.10	125.70
	0.10	125.80
	0.10	125.90
	0.10	126.00
	0.10	126.10
	0.10	126.20
	0.10	126.30
	0.10	126.40
	0.10	126.50
	0.10	126.60
	0.10	126.70
	0.10	126.80
	0.10	126.90
	0.10	127.00
	0.10	127.10
	0.10	127.20
	0.10	127.30
	0.10	127.40
	0.10	127.50
	0.10	127.60
	0.10	127.70
	0.10	127.80
	0.10	127.90
	0.10	128.00
	0.10	128.10
	0.10	128.20
	0.10	128.30
	0.10	128.40
	0.10	128.50
	0.10	128.60
	0.10	128.70
	0.10	128.80
	0.10	128.90
	0.10	129.00
	0.10	129.10
	0.10	129.20
	0.10	129.30
	0.10	129.40
	0.10	129.50
	0.10	129.60
	0.10	129.70
	0.10	129.80
	0.10	129.90
	0.10	130.00
	0.10	130.10
	0.10	130.20
	0.10	130.30
	0.10	130.40
	0.10	130.50
	0.10	130.60
	0.10	130.70
	0.10	130.80
	0.10	130.90
	0.10	131.00
	0.10	131.10
	0.10	131.20
	0.10	131.30
	0.10	131.40
	0.10	131.50
	0.10	131.60
	0.10	131.70
	0.10	131.80
	0.10	131.90
	0.10	132.00
	0.10	132.10
	0.10	132.20
	0.10	132.30
	0.10	132.40
	0.10	132.50
	0.10	132.60
	0.10	132.70
	0.10	132.80
	0.10	132.90
	0.10	133.00
	0.10	133.10
	0.10	133.20
	0.10	133.30

主要炭層ハ老虎臺ヲ距ルニ從ヒ次第ニ薄ク之ニ反シテ夾ミ次第ニ厚ク打鶯子近傍ニ於テハ石炭ハ遂ニ薄層ニ縮迫スルニ至レルナルヘク新屯ノ東方ニ於テハ大規模ノ鑛業ハ遂ニ之ヲ期スル事能ハサルヘシレ千金寨ノ西方ニハ地層沖積層下ニ沒スルヲ以テ石炭ノ露頭ナケレトモ試錐ニ依リ石炭ハ地下ニ賦存シ其厚サニ於テモ變化ナキヲ知レリ、試錐ノ結果ニ依レハ層向ハ古城子ノ東端ニ於テハ北西ニ轉シ次第ニ北東ニ彎曲シ向斜層ヲナス

炭量 千金寨及楊栢堡間ニ於テ炭層ノ賦存セル區域九、六平方基米アリ、其過半即チ五平方基米ニハ試錐又ハ鑿坑ニ依リ炭量ノ存在ヲ確認シ厚サハ百三十尺ヲ下ラス、而シテ炭層ノ傾斜角ハ平均二十六度ナリ、之ニ依リ炭量ヲ概算セルニ此區域ニ於ケル炭量ハ第一種二億八千二百萬噸、第二種二億六千萬噸ナリ、老虎臺及打鶯子間ニ於テハ石炭賦存ノ區域七平方基米ナリ、内二平方基米ハ試錐ニ依リ石炭ノ賦存セルコトヲ知レリ、而シテ炭層ノ傾斜角ハ二十五度、厚サハ平均百十尺ナリ、之

ニ依リ炭量ヲ概算セルニ此區域ニ於ケル炭量ハ第一種九千六百三十  
 四萬五千噸、第二種二億三千八百萬噸ナリ、新屯ノ東ニアル一平方基米  
 ノ面積ニ賦存セル炭層及下部含炭層ニアル炭層ハ之ヲ計算セス  
 炭質 石炭ハ漆黒ニシテ光澤ヲ有スル有煙炭ニ屬シ粘結ス、分析ノ結  
 果次ノ如シ

全	全	全	全	全	全	千金寨	水	揮發物	固定炭素	灰	硫	黃	比	重	發熱量		種類
															カロリー	英國熱單位	
八、六七	九、一六	八、九九	七、五六	九、二一	九、八〇	九、五五	三八、二八	四〇、四九	一一、六八	一、三五	一、三三九	五、八三〇	一〇、四九四	第三類			
四一、四三	四一、四九	三八、七八	四〇、三三	四一、八四	四〇、三一	四四、六三	四〇、三二	四四、六三	五、二六	〇、八一	一、三〇七	六、二七〇	一一、二八六	全			
四六、八八	四五、九三	四九、二四	四六、六三	四〇、〇三	四〇、〇三	四四、六三	四〇、三二	四四、六三	八、九二	一、二九	一、三五九	五、八三〇	一〇、四九四	全			
三、〇二	三、四二	二、九九	五、四八	八、九二	五、二六	四四、六三	四〇、三二	四四、六三	五、四八	二、三〇	一、三三五	六、三八〇	一一、四八四	全			
〇、六一	一、一六	〇、六一	二、三〇	一、二九	〇、八一	四四、六三	四〇、三二	四四、六三	二、九九	〇、六一	一、二七四	六、三八〇	一一、四八四	全			
一、三〇〇	一、二九八	一、二七四	一、三三五	一、三五九	一、三〇七	四四、六三	四〇、三二	四四、六三	一、二九八	一、二九八	一、二九八	六、三八〇	一一、四八四	全			
六、三八〇	六、三八〇	六、三八〇	六、三八〇	五、八三〇	六、二七〇	四四、六三	四〇、三二	四四、六三	六、三八〇	六、三八〇	六、三八〇	六、三八〇	一一、四八四	全			
一一、四八四	一一、四八四	一一、四八四	一一、四八四	一〇、四九四	一一、二八六	四四、六三	四〇、三二	四四、六三	六、三八〇	六、三八〇	六、三八〇	六、三八〇	一一、四八四	全			

東 鄉	大 山	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
二二六	三二四	五二八	四六〇	七一九	七二五	八〇七	六〇三	六七〇	六二〇	八二八	七九三	
四八、七六	四六、〇九	四四、九〇	四八、六八	四〇、一〇	四二、八六	三五、四八	四五、九三	四三、五二	四三、八六	三八、三七	四一、六七	
四三、〇四	四八、六三	四八、四八	四三、六〇	五〇、二一	四五、一六	五一、四五	四三、四三	四六、四五	四〇、二〇	四〇、六三	四六、二五	
五、九四	二、〇四	一、四四	三、二二	二、五〇	四、八三	五、〇〇	四、六一	三、三三	九、七四	一、二七二	三、八五	
一、七四	〇、六八	〇、七一	〇、七五	〇、五〇	〇、四七	〇、七八	一、三〇	〇、八六	一、一三	一、〇二	〇、九〇	
一、二五四	一、二二三	一、二二九	一、二四九	一、三〇三	一、三〇八	一、三〇二	一、二二五	一、二九四	一、三七二	一、三五七	一、二八五	
七、二二三	七、七〇〇	六、七二〇	七、〇四〇	六、三八〇	六、六〇〇	六、四九〇	六、七一〇	六、八二〇	六、三八〇	五、八三〇	六、三八〇	
一二、八二二	一三、八六〇	一二、〇七八	一二、六七三	一二、四八四	一一、八八〇	一一、六八二	一二、〇七八	一二、二七六	一一、四八四	一〇、四九四	一一、四八四	
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	

全	全	全	老虎臺	全	全	全	全	全	楊栢堡	全	全	全
六、九〇	七、九〇	六、七五	七、三〇	六、一八	四、九八	六、〇三	六、七七	六、一一	三、四二	六、二五	四、八八	四、八八
三九八五	四〇、二〇	四四、七〇	三九、八〇	三八、三七	三九、五九	三八、五六	三八、九六	四一、三三	四三、九六	四八、四二	四一、五九	四一、五九
五〇、一一	四四、二五	四四、二五	四〇、六七	五三、一三	五二、〇三	五二、四〇	五〇、四三	四六、三二	四八、五二	四〇、六三	四九、〇二	四九、〇二
三、一三	七、六五	四、三〇	一一、二三	二、三三	三、四〇	三、〇二	三、八四	六、二四	四、一一	四、七〇	四、五二	四、五二
〇、八六	四、一四	〇、九〇	一、三五	〇、三四	〇、四八	〇、五八	〇、五六	三、〇二	〇、八四	〇、五八	〇、八三	〇、八三
一、二五六	一、三五〇	一一、四一	一一、八六	一一、七九	一一、六一	一一、三八	一一、八二	一一、〇二	一一、五七	一一、四二	一一、九八	一一、九八
七、一五〇	六、四九〇	七、〇四〇	六、二七〇	六、九三〇	六、八二〇	六、七二〇	六、三八〇	六、八二〇	七、三三二	六、八四三	七、〇二九	七、〇二九
一一、八七〇	一一、六八二	一一、六七二	一一、二八六	一一、四七四	一一、二七六	一一、〇七八	一一、四八四	一一、二七六	一一、一九八	一一、三七七	一一、六五二	一一、六五二
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全

全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
七、四二	七、二二	七、六五	七、四〇	七、八〇	五、七五	六、二五	六、一五	五、五〇	六、七〇	七、七〇	七、九五
三九、三九	三八、一一	三八、七〇	三七、八五	三八、五三	四一、八〇	三九、九〇	四〇、〇三	四〇、四〇	四〇、〇八	三九、九〇	四〇、八〇
五〇、二一	五〇、五〇	五〇、〇二	五〇、六七	五〇、五七	四八、六二	五〇、二五	四八、七七	五〇、三二	四八、六九	四八、八〇	四七、〇〇
二、九八	四、一八	三、六三	四、〇八	三、一〇	三、八三	三、六〇	五、〇五	三、七八	四、五三	三、六〇	四、二五
〇、七八	〇、七七	〇、六五	〇、五八	〇、六〇	〇、九〇	〇、七五	〇、七四	〇、九〇	一、五五	〇、八二	〇、七五
二、二九二	二、二八二	一、二八六	一、二八一	二、三四二	一、二八〇	二、二六六	一、三二二	一、二八一	二、三〇三	二、二一八	一、二七〇
六、九三〇	六、八二〇	六、九三〇	六、一七〇	七、〇四〇	七、二三〇	六、八七五	六、九三〇	七、〇四〇	六、九三〇	七、〇九五	六、八二〇
一一、四七四	一一、二七六	一一、四七四	一一、〇七八	一一、六七二	一一、〇二四	一一、三七五	一一、四七四	一一、六七二	一一、四七四	一一、七七二	一一、二七六
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全

全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
七、八二	七、七七	七、一三	七、〇〇	七、八三	七、二四	八、三四	六、七一	八、七七	七、四五	七、八〇	七、三二	
四〇、二五	三九、四三	三五、五七	三九、九五	三五、七九	三八、六八	三八、九六	四一、八七	三六、九五	三八、三〇	三四、九〇	三六、九二	
四四、六五	五〇、二八	五四、三七	四九、七二	五三、八三	五〇、〇六	五〇、一三	四七、二〇	四八、六〇	五〇、二〇	四三、三〇	四四、四六	
七、二八	二、五二	二、九三	三、三三	二、五五	四、〇二	二、五七	四、二二	五、六八	四、〇五	一四、〇〇	一一、三〇	
〇、九三	〇、四六	〇、三九	〇、五五	〇、六三	一、四二	〇、八六	一、七三	〇、九一	〇、七六	〇、八七	一、二五	
一、二五五	一、二四三	一、二七一	一、二八〇	一、三六四	一、二六五	一、二七一	一、二七四	一、二八二	一、六九	一、四一四	一、三四六	
六、四九〇	七、一五〇	七、一五〇	七、二六〇	五、九四〇	六、九三〇	七、一五〇	七、一五〇	六、七一〇	七、〇四〇	五、八三〇	六、二六〇	
一一、六八二	一一、八七〇	一一、八七〇	一一、〇六八	一〇、六九二	一一、四七四	一一、八七〇	一一、八七〇	一一、〇七八	一一、六七三	一〇、四九四	一一、〇八八	
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	

全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
五、七六	六、八五	五、九七	五、九九	六、三三	七、五三	六、八〇	六、〇一	六、四七	六、一九	五、五三
三三、七八	三八、六九	三九、五六	四一、八七	三九、三八	三七、九六	四二、〇八	四一、一〇	三九、五四	四二、九五	三九、九六
五一、一二	四八、三四	五〇、一九	四六、五八	五〇、五八	五一、四九	四五、七六	四九、八七	四五、一二	四七、四九	四七、一六
九三四	六、一二	四、二八	五、五六	三、七二	三、〇三	五、三六	三、〇二	八、八七	三、三七	七、三五
〇、三四	〇、四一	〇、九〇	〇、五五	〇、七〇	〇、四七	〇、八一	〇、六一	〇、八〇	〇、五七	〇、九八
一、二四八	一、二八七	一、二七七	一、二九九	一、二九四	一、二四八	一、二八五	一、二六二	一、二八四	一、二五三	一、二八三
六、一六〇	八、二七〇	六、六〇〇	六、二七〇	六、九三〇	七、一五〇	七、四八〇	七、一五〇	六、六〇〇	七、〇四〇	六、三八〇
一一、〇八八	一一、二八六	一一、八八〇	一一、二八六	一一、四七四	一一、八七〇	一一、四六四	一一、八七〇	一一、八八〇	一一、六七三	一一、四八四
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全

	炭	素	水	素	窒	素	酸	素	硫	黄	水	灰
千金寨	六六、〇七五	五七二二	二、三〇七	一三、一九一	〇、七三九	七、一四六	四、八三〇					
全	六八、二四五	五六五四	一、九七二	一三、九四二	〇、五〇三	七、一八六	二、五〇〇					
全	七一、〇九三	六、五五四	一、九九九	一、八八一	〇、七五三	四、六〇〇	三、二二〇					
全	七三、三〇六	六一七五	一、一四七	一、二〇五〇	〇、七〇六	五、一七八	一、四四〇					
楊栢堡	七〇、九三六	五、五九六	二、〇九二	一〇、一八一	〇、五九〇	六、七六五	三、八四〇					
全	七一、九六二	六一一八	一、八三八	一〇、四六七	〇、五七九	六、〇一六	三、〇二〇					
全	七二、九五五	六〇五二	一、五四一	一〇、四九九	〇、五七五	四、九七八	三、四〇〇					
全	七四、七二八	五、七四七	一、二二三	九、四六五	〇、三三八	六、一七九	二、三二〇					
老虎臺	六七、九七二	五、八七八	二、二三五	一、二、八二一	〇、五五四	五、九九〇	五、五六〇					
全	六九、五三〇	五、七七三	一、九〇五	一、一、六五一	〇、八九五	五、九六六	四、二八〇					
全	六九、一五二	五、八五九	一、二八一	一〇、四三三	〇、四一四	六、八五三	六、二二〇					

全	六九、三五六	五、〇五九	一、一〇〇	九、〇四五	〇、三四二	五、七五八	九、三四〇
---	--------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

	水	揮發物	固定炭素	灰	硫	黃	比	重	發熱量		種類
									カロリー	英國熱單位	
楊栢堡	五、五三	三九、一二	四六、二二	九、一四	三、一六	一、三二五	六、七二〇	一、二、〇七八	第三類		
打鷲阻子	三、一四	三七、九一	四八、七七	一〇、一八	〇、五三	一、三六四	六、九三〇	一、二、四七四	全		
古城子	一〇、二四	三五、五四	四五、〇二	九、二〇	一、〇五	一、三四九	六、〇五〇	一〇、八九〇	全		

### 石門寨炭田

石門寨炭田ハ撫順炭田ノ東ニアリテ土溝子及石門寨ノ二村ニ跨カレリ、地形及地質ハ全ク撫順炭田ニ同シケレトモ之ニ比スレハ區域甚タ狭小ナリ、基盤ハ片麻岩ニシテ之ヲ被覆シテ含炭層アリ、含炭層ハ植物化石ニ依リ其中新期ニ屬スルコトヲ知レリ、玄武岩々床ハ地層ノ下部ニアリ、主要ナル炭層ハ一層ニシテ下章黨ノ對岸ヨリ土溝子ヲ經テ石門寨ニ互リ北七十五度東ニ走リ北五十度稀ニ六十度ニ傾斜ス、炭層ハ

薄ク土溝子ニ於テハ厚サ二尺ニシテ七八寸ノ夾ミヲ有シ石門寨ニ於テハ厚サ四尺ニシテ數多ノ夾ミヲ有ス、炭層ノ數ハ明ナラサレトモ撫順炭田ニ於ケルカ如キ大炭層ハ之ヲ檢スルヲ得スシテ炭量大ナラサルヘシ、然レトモ第三紀層ハ尙東方營盤ニ連リ試掘スルノ價値アリ、石炭ハ有煙炭ニ屬シ粘結ス、分析ノ結果次ノ如シ

土溝子	水	揮發物	固定炭素	灰	硫黃比	重	發熱量		種類
							カロリー	英國熱單位	
五、六六	四、一四	三三、四〇	三六、九三	二五、〇一	〇、八七	一、五二八	五、一七〇	九三六〇	第三類
石門寨	四、一四	三六、〇一	三九、六二	二〇、三三	〇、三〇	一、四八五	五、七三〇	一〇、二九六	全

二 吉林省

石炭紀ニ於ケル石炭

寬街、輝發城間ニ松花江ノ一支流輝發川ニ沿ヘル地方ハ石炭ヲ產出スルニ於テ名アリ、現時小規模ニ稼行セラル、基盤ハ片麻岩及變成岩ナリ、石炭紀ト思惟スヘキ含炭層ハ之ヲ被覆シ砂岩ヨリ成リ頁岩ヲ挾メリ、

寬城ノ西約十三基米ニアル天河炭坑ノ炭層ハ厚サ三尺乃至五尺アル  
モ品位寧ろ劣等ナリ、本炭田ハ東西約十五基米ニ互レリト云フ

### 珠羅紀ニ於ケル炭田

#### 長春炭田

長春炭田ハ陶家屯及石碑嶺ノ二炭坑並ニ其中間ニアル大頂子及小河  
臺トノ兩炭坑ヲ包括シ陶家屯ハ長春ノ南々東約二十基米、石碑嶺ハ其  
南東約十四基米ニアリテ兩者ノ距離約十基米ナリ、共ニ嘗テ小規模ニ  
稼行セラレタルモ大頂子炭坑ヲ除ケハ皆久シク休業ス、本炭田ハ六十  
年前ニ開發セラレ大頂子炭坑最モ古ク石碑嶺、陶家屯、小河臺ノ諸炭坑  
順次開坑セラレ輕便鐵道ニヨリ長春ニ連絡ス、本炭田ハ東方片麻岩ヨ  
リ成レル山嶽ノ西側ヲ占ムル丘陵臺地ニシテ西方ニ緩斜シ平地ニ沒  
ス、含岩層ハ頁炭及砂岩ニシテ珠羅紀ノ植物化石ヲ埋藏シ片麻岩ノ西  
側ニ狹長ナル區域ヲ占メ處々ニ火成岩ニ貫通セラレ厚キ墟垺ニヨリ  
被覆セラレ岩石ノ露出稀ナリ、層向傾斜ハ隨所同シカラス、斷層亦多キ

モ一般ニ石碑嶺ニハ北西二三十度ニ傾斜シ陶家屯及小河臺ニハ西北西、大頂子ニハ東南東ニ傾斜シテ向斜層ヲナセルカ如シ、炭田ノ區域狹小ニ炭層ノ厚サ薄キヲ以テ炭量多カラサルヘク概算百萬噸ナリ

陶家屯炭坑　ハ寛城子停車場ノ南々東約二十五基米ニアリテ既採掘量六萬噸ヲ越ユルカ如シ、含炭層ハ下部ハ主ニ厚キ白色砂岩、中部ハ砂岩、頁岩ノ互層、上部ハ頁岩ヨリ成リ炭層ハ中部ニ介在ス、植物化石ハ炭層ノ上部ニアル頁岩中ニ埋藏セラレ「ウーライト」紀ニ屬スト云フ、層向ハ南部ニハ北東ナルモ北方ニハ北々東ニ彎曲シ西北西ニ傾斜ス、傾斜ノ角度ハ露頭附近ニハ約三十度ナルモ坑内ニハ十二度乃至二十度ニ減ス、二炭層中下層ハ日露戰爭前露西亞人稼行シ厚サ二尺乃至五尺アリテ六七寸ノ夾ミヲ有シ兩側ニ於テ縮迫ス、上層ハ下層ノ上約二百五十尺ニアリテ厚サ約一尺ヲ有シ重要ナラス、炭層ハ延長一、二基米、傾斜ニ沿ヒ千八百尺ハ稼行スルヲ得ヘク厚サ平均二尺トシ炭量二百萬噸ナリ、石炭ハ有煙炭ニ屬シ少シク粘結ス、分析ノ結果次ノ如シ

水	揮發物	固定炭素	灰	硫	黄比	重種	類
九、三三	三二、八八	五八、九〇	九、三四	〇、八七	一、四八二	第三類	

大頂子炭坑 ハ陶家屯、石碑嶺、南炭坑ノ間ニアリテ石碑嶺ノ南東約三基米、陶家屯ヨリ約一、七基米ノ地ニ位シ約七八百噸ヲ採掘シタリ、地質ハ砂岩、頁岩ニシテ北東ニ走リ南東ニ傾斜スルカ如ク陶家屯、小河臺トノ間ニ向斜層ヲナセルカ如シ、一炭層厚サ二尺乃至五尺ニシテ扁豆狀ヲナセルカ如シ、石炭ハ陶家屯ニ於ケルモノニ類似シ有煙炭ニ屬シ粘結セス、分析ノ結果次ノ如シ

水	揮發物	固定炭素	灰	硫	黄比	重種	類
一〇、三三	三一、三二	五四、〇〇	四、〇六	〇、八六	—	第三類	
八、五〇	三四、六八	五〇、〇四	六、七八	〇、七二	一、五四八	全	

小河臺炭坑 ハ石碑嶺炭坑ノ南西約四基米、陶家屯炭坑ヨリ約八基米

ニアリ、含炭層ハ頁岩、砂岩及變岩ヨリ成リ石英粗面岩ニ依リ貫通セラレ黄土ニ依リ被覆セララル、炭層ノ層向區々ナレトモ概ネ北々東ニ走リ西南西ニ急斜セリ

石碑嶺炭坑ハ陶家屯ノ北々東約十三基米、寬城子停車場ノ南東約十七基米ニアリ、十四五年間清人之ヲ稼行シ一年二三千噸ヲ採掘シ東清鐵道會社ノ手ニ移リテヨリ一日三四十噸ヲ採掘セリト云フ、含炭層ハ頁岩、砂岩ニシテ北東ハ玢岩及石英粗面岩ニ接ス、層向ハ北東又ハ北々東ニシテ北西二三十度ニ傾斜ス、炭層ニアリテ約三十尺ヲ隔ツ、厚サハ區々ニシテ中部ニ厚ク兩端ニ薄シ、其最モ厚キトキハ上層厚サ三尺五寸、下層七尺ナルモ南端ニハ一ハ五六寸、一ハ二尺ニ縮迫シ北端ニハ夾雜物多ク且ツ薄層トナレルカ如シ、他ノ炭坑ニ於ケル炭層トノ關係ハ未タ明ナラサレトモ陶家屯炭坑ニ於ケルモノハ石碑嶺炭坑ノ下層ニ該當スルモノ、如シ、炭層ハ延長千八百尺、傾斜ニ沿ヒ約千二百尺之ヲ採掘スルヲ得ヘク平均厚サ三尺五寸及二尺五寸トシ炭量概算百萬噸

ナリ、石炭ハ陶家屯ノモノニ酷似シ普通粘結セサルモ又多少粘結スルモノアリ、分析ノ結果次ノ如シ

層	水	揮發物	固定炭素	灰	硫黃比	發熱量		性質	種類	
						カロリー	英國熱單位			
上層	三、二二	三六、八三	五四、七六	五、三〇	〇、五五	一、三二四	六、七二〇	一二、〇七八	粘結ス	第三類
下層	一〇、六一	三八、二二	三五、八四	一五、三四	〇、五三	一、四七八	四、九五〇	八、九一〇	粘結セス	全

### 火石嶺炭田

火石嶺炭田ハ長春ノ北東約八十基米、營城子停車場ノ北約四基米ニアリテ火石嶺及馬家溝ノ二炭坑ヲ包括シ前者ハ後者ノ南西約三、三基米ニ位シ火石嶺炭坑小規模ニ操業シ延長四基米アリ、含炭層ハ頁岩、砂岩ニシテ變岩ヲ挾ミ厚キ墟垣ニ依リ被覆セラレテ丘阜ヲナシ其露頭ヲ見ルコト難ク玢岩及石英粗面岩之ヲ貫通シ炭田ノ東部ニアリ、含炭層ハ其埋藏スル化石ニ依リ珠羅紀ニ屬スルヲ知レリ、地質構造ハ露頭少ナキヲ以テ明ナラサレトモ北東部即チ馬家溝附近ニ於テハ北西ニ走

リ北東三四十度ニ傾斜シ南西部即チ火石嶺炭坑ニ於テハ西北西ニ走  
 リ南々西二三十度ニ傾斜シ恰モ一背斜層ヲナセルカ如シ  
 火石嶺炭坑ノ沿革ニ關シテハ記錄ノ徵スヘキモノナキヲ以テ之ヲ  
 知ルニ難キモ陶家屯、石碑嶺炭坑ト相前後シテ開發セラレタルモノナ  
 ルヘク爾後興廢常ナク千八百九十七年以來坑主屢交迭シ或ハ中止シ  
 或ハ再興シ今日ニ至ルマテ僅ニ一萬二三千噸内外ヲ採掘シタルニ止  
 マレリ、二炭層アリ、上層ハ厚サ一二尺ニシテ重要ナラス、下層ハ上層ノ  
 下約二百十尺ニアリ、厚サ一定セスシテ扁豆狀ヲナセルカ如ク最厚十  
 尺ニ達ス、炭量小ニシテ概算百萬噸ヲ超エサルヘシ、石炭ハ有煙炭ニ屬  
 シ粘結セス、分析ノ結果次ノ如シ

水	揮發物	固定炭素	灰	硫黃	發熱		種類
					カロリー	英國熱單位	
一五、七九	三三、四三	五二、七八	七七五	〇、九六	五、一六二	九、二九二	第三類
二三、七八	三四、八六	五二、三六	五、二二	一、一一	四、七九〇	八、六三三	全
一六、一三	二七、四六	五六、四二	一一、三三	〇、九〇	五、九五七	一〇、七二四	第二類

馬家溝炭坑 現時露頭ノ檢スヘキモノナケレトモ一ノ厚キ炭層嘗テ稼行セラレタリト云フ、炭質火石嶺炭坑ニ於ケルモノト類似ス、分析ノ結果次ノ如シ

水	揮發物	固定炭素	灰	硫	黃	發熱量		種類
						カロリ	英國熱單位	
四、六三	一三、五〇	七二、二五	一〇、六二	〇、六〇		四、一九五	七、五五二	第二類一

### 五龍屯炭田

五龍屯炭田ハ蛟河或ハ拉發河炭田ト稱シ吉林ノ東南東百三十餘基米、蛟河街ノ東南東約十三基米ニアリ、本炭田ハ約三十年前ニ開發セラレ現時一日四十噸乃至六十噸ヲ產出シ開發後採掘セラレタル總炭量十二萬二千噸ナリト云フ、本炭田ハ南北ニ互レル丘陵地ニシテ頁岩及砂岩ヨリ成ル、蓋シ珠羅紀ニ屬スルモノナルヘシ、層向ハ北十度西ニシテ西方十度ニ傾斜ス、一炭層アリテ厚サ六尺五寸ナルモ夾ミヲ有シ良炭部厚サ五尺五寸乃至六尺ナリ、區域狹小ニシテ炭量約五百萬噸ナリト

云フ、石炭ハ有煙炭ニ屬シ粘結セス、分析ノ結果次ノ如シ

水	揮發物	固定炭素	灰	硫	黃	比	重	發熱		種類
								方	量	
10.11	25.95	45.96	17.98	0.44	1.408	5.198	9356	第二類	三	

### 其他ノ炭田

吉林區域ニ於ケル炭田 缸窰炭田ハ吉林ノ北々東約六十五基米ニアリテ約百年前ニ開發セラレ現時一年約一萬噸ヲ產出スト云フ、九炭層アリ、第四層ハ炭質良好ニシテ厚ク現ニ稼行セラル

吉林ノ東北東約二十基米ノ朱家嶺及吉林ノ南東ニアル吳家哨ニ石炭ヲ產出ス

寧古塔區域ニ於ケル炭田 五虎林炭田ハ寧古塔ノ北東約百基米ニアリ、含炭層ハ珠羅紀層ニシテ厚サ二三尺ノ一炭層ヲ埋藏ス、小北溝炭坑ノ產出額ハ一日約十五噸ナリ

寧古塔ノ南東約二十三基米ニアル楊樹林子及佛爺溝ニ石炭ヲ產ス、佛

爺溝ニ於テハ炭田ハ延長九、三基米、幅二、七基米ニ互ルト稱スルモ未タ調査セラレス

局子街區域ニ於ケル炭田 老頭兒溝炭田ハ局子街ノ西約二十四基米ニアリ、含炭層ハ砂岩、頁岩ノ互層ニシテ珠羅紀ニ屬スト云フ、層向ハ北十度東ニシテ東方四十度乃至四十五度ニ傾斜ス、厚サ二尺五寸乃至四尺ノ一炭層アリ、此外二三ノ炭層其下部ニ伏在スト云フ、炭田ノ區域小ニシテ炭量小ナルヘシ、炭質ハ劣等ニシテ粘結セス、分析ノ結果次ノ如シ

水	揮發物	固定炭素	灰	硫黃比	重	發熱量		種類
						カロリー	英國熱單位	
八九六	二六五〇	五六、二三	八三二	〇、四七	一、三七五	五八四一	一〇、五四一	第二類 三

轉心溝及土山子炭田ハ相隣接シテ局子街ノ南西約七十基米ニアリ、一炭層ノ厚サ五尺乃至七尺ナルモノ嘗テ稼行セラレタリ、土山子炭坑ハ一年五百噸内外ヲ産スト云フ、炭質良好ナラス

局子街ノ北方ニアル缸窰溝ニハ厚サ一二尺ノ炭層アリ  
琿春附近ニハ古來ヨリ粗惡ナル褐炭ヲ産シ目下數箇處ニ稼行スト云  
フ

其他ノ炭坑 墩化ノ南、寬街ノ南西ニ當リ大沙河ニ沿ヘル小營子、石頭  
哨、高登廠及西溝江ニ石炭ヲ産ス、厚層ヲナセル砂岩ハ頁岩ヲ挾ミ約東  
方三四十度ニ傾斜シ厚サ二尺ノ一炭層ヲ挾有スト云フ

甌山洞ハ朝鮮會寧ノ西約十三基米ニアリ、此地ニハ一炭層厚サ七尺ア  
リテ質良好ナリ、鴻山洞ハ會寧ノ南西約十基米、甌山洞ノ南西約四基米  
ニアリ、此地ニアル一炭層ハ厚サ約六尺アリト云フ、以上二箇所ノ炭層  
ハ同一層ニ屬スト云フ、白土洞ハ甌山洞ノ西四基米ニアリテ小丘ヲ隔  
テ、相對ス、炭層ハ甌山洞ニ於ケルモノト全ク相同シ  
海龍、昌圖間ノ掏鹿ニ石炭ヲ發見シ目下採掘ノ準備中ナリト云フ  
以上ノ外嘗テ稼行セラレタル石炭ノ產地ヲ擧クレハ左ノ如シ

豐安縣ノ南約二十八基米ノ炸子窩

伊通州ノ北西約十二基米ニアル茉莉青

長春ノ南ニアル杏水泉子

長春ノ南々東ニアル鑛洞子

五龍屯ノ炭田ノ西ニアル海青溝

吉林ノ東ニアル杉松街

吉林ノ南々東二百六十五基米ノ那兒轟山

嫩化ノ南約三十基米ニアル大荒溝

### 三 黑龍江省

黑龍江省ニハ數多ノ炭田アリテ石炭各所ニ產出スト稱セラレ、モ未  
タ據ルヘキ材料ヲ得ス、隨テ之ヲ記述シ若クハ其位置ヲ知ルコト甚々  
難シ、左ニ石炭產地ニ就キ記述スヘシ

察漢敖拉炭田ハ滿州里停車場ノ南西二十基米乃至四十基米ノ間ニア  
リ、炭田ハ廣域ヲ占ムト稱セラレ南東部ニ當レル延長約三基米ノ區域  
ハ良好ナリト稱ス、本炭田ハ嘗テ稼行セラレ千九百十年良好ナル一炭

層ヲ發見セリト云フ、層向ハ南北ニシテ厚サハ八尺乃至十尺アリ、石炭ハ有煙炭ニ屬ス

達來諾爾炭田ハ達來諾爾停車場ノ南ニアリテ千九百一年露國ノ會社採掘ヲ許可セラレタリ、爾來三豎坑ヲ開坑シ今ヤ第四豎坑ヲ掘下シ一日ノ產出額ハ約七八百噸ナリト云ヒ第四豎坑完成スルノ日ハ優ニ千五百噸ヲ產出スト傳フ、含炭層ハ北東ニ走リ南東十度ニ傾斜ス、二炭層アリテ上層ハ厚サ二十五尺、下層ハ四尺五寸ナリト云フ、石炭ハ質脆弱ナル有煙炭ニ屬シ粘結セス、分析ノ結果次ノ如シ

水	揮發物	固定炭素	灰	硫	黃	種	類
二、六三	四五、九七	四三、六〇	七、八〇	〇、二五	第	三	類
一、四六	三八、一三	四〇、七一	一〇、七〇	〇、二〇	全		

呼倫唄爾ノ南約二百基米ニアル門頭河附近ニ石炭ヲ產ス、甘河炭田ハ墨爾根ノ南ニアリテ千九百四年ニ開發セラレ爾來二萬六千噸ヲ採掘

セリ、運搬不便ノ爲メ現時嫩河ノ沿岸ニ鐵道敷設ノ企アリ  
齊々哈爾ノ北西ニアル太平山ノ石炭ハ質良好ニシテ多量ナリト云フ、  
甘井子臺ノ西約七基米ニアル五道梁子ノ石炭ハ小規模ニ稼行セラル、  
成吉斯汗ノ南約十三基米ニアル石炭モ亦小規模ニ稼行セラル、齊々哈  
爾ノ北西約六十五基米ニアル景日生鎮ノ石炭ハ質良好ニ地層殆ント  
水平ナリ、瓊々璣ヨリ約二十基米ニアル松樹溝ノ石炭ハ質良好ナリ  
餘慶縣ニ於テハ石炭ハ數箇所ニ產出ス、馬鞍山炭田ハ餘慶縣ノ東約百  
基米ニ屹立セル金生山ノ北麓及南麓ヲ占メ千八百八十八年ニ開發セ  
ラレ當初南麓ニ操業シ次テ北麓ニ及ヘリ、運搬不便ナルヲ以テ現時廢  
棄セラレタリ、石炭ハ有煙炭ニ屬ス

大正三年一月十日印刷  
大正三年一月十三日發行

(定價金貳圓七拾錢)

著作權所有

農商務省

印刷者 東京市神田區通新石町三番地  
田中市之助

印刷所 東京市神田區通新石町三番地  
會社資 東陽堂

電話(本局九七〇)

發賣所 東京市神田區通新石町三番地  
會社資 東陽堂

振替口座東京二三四三六番

# 地質調查所新刊圖書

一	同	七	福	村	同	壹	木	長	平	廣	敦	壹	一	七	金	松
戶	上	戶	江	上	上	岐	曾	崎	戶	島	賀	岐	戶	戶	澤	山
圖	圖	圖	圖	圖	圖	圖	圖	圖	圖	圖	圖	圖	圖	圖	圖	圖
幅	說	幅	幅	幅	說	幅	幅	幅	幅	幅	幅	幅	幅	幅	幅	幅
地	明	地	說	說	明	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地
質	書	質	明	明	書	質	形	形	形	形	形	形	形	形	形	形
圖	書	圖	書	書	書	圖	圖	圖	圖	圖	圖	圖	圖	圖	圖	圖

定價 定價

歐和  
各 各 各 各 各 各 各 各 各 各 各 各 各 各 各 各 各 各

金四拾五錢 金貳拾五錢 金四拾五錢 金參拾七錢 金四拾七錢 金四拾八錢 金四拾五錢 金參拾五錢 金參拾五錢

發 賣 所  
東 陽 堂  
合資 會社  
東京市神田區通新石町



# 地質調查所新刊圖書

地質調查所報告第三十七號(大正二年二月刊)

定價金六拾參錢

茨城縣產花崗岩應用試驗報文(附圖四葉)

清水技師

福島縣西白河郡外二郡產石材應用試驗報文

同 河村技師

羽後國北秋田郡地下溫度調查報文(附圖一葉)

同 上第三十八號(大正二年三月刊)

定價金九拾五錢

伊豆國南部地質略說(附圖一葉)

神津技師

山梨縣水害地視察報文(附圖一葉)

井上技師

宮城縣玉造郡鳴子附近ノ鐵道線路調查報文

伊木技師

山形縣溫泉調查報文

小林技師

同 上第三十九號(大正二年三月刊)

定價金七拾錢

本邦ニ於ケル石墨鑛床(附圖二葉)

野田技師

盛岡圖幅地質調查概報(附圖一葉)

山根技師

同 上第四十號(大正二年三月刊)

定價金壹圓

蘭領印度及緬甸ノ石油調查報文(附圖八葉)

伊木技師

同 上第四十一號(大正二年七月刊)

定價金四拾錢

大正十五年年度事業報告

井上所長

同 上第四十二號(大正二年十二月刊)

定價金壹圓九拾錢

本邦ニ於ケル石炭(附圖四葉)

井上技師

本邦產石炭ノ分類及品質

清水技師

發賣所 東陽堂

合資會社

東京市神田區通新石町

# 地質調查所新刊圖書

鑛物調查報告第十二號(北海道ノ部)

定價金參圓拾壹錢

後志國及渡島國鑛床調查報文  
 渡島國龜田郡尻岸內村  
 同國茅部郡及膽振國山越村郡砂鐵調查報文

(附圖十五葉)

大日方技師  
 大日方技師

同 上第十三號(北海道之部)

定價金五拾六錢

四十五年 度 鑛物調查ノ概要 (附圖三葉)  
 大正元年

伊木技師

同 上第十四號(北海道ノ部)

定價金壹圓貳拾錢

北見國宗谷郡、天鹽國天鹽郡產油地調查報文  
 天鹽國幌延炭田調查報文 (附圖六葉)

小林技師  
 小林技師

同 上第十五號(北海道ノ部)

定價金壹圓

北海道北東部地質調查報文 (附圖一葉)

岡村技師

同 上第十六號(北海道ノ部)

定價金七拾錢

天鹽國遠別及築別地方地質調查報告  
 石狩國札幌郡定山溪附近地質及鑛物調查報告(附圖二葉)

渡邊技師  
 渡邊技師

發 賣 所

東 陽 堂

合資會社

東京市神田區通新石町